読書科学

第 9 巻 第 2 号（通巻　第32号）　　昭和40年 9 月25日 発行（季刊）

石川啄木の性格と読書の効果	弥吉　光長
中学生の読書と生活環境との関連	中島　章一
シート利用の読書指導の実験研究	合田　修
一幼児の絵本にたいする反応	岡田　明
矯正施設における読書指導	加藤　正明
最近の児童漫画と子ども（I）	阪本　一郎
効果的な読書意欲を高める試み	上林　長泰
中学校における読書指導の実践	水野　操

32

日本読書学会

◇本　号　目　次◇

原　著

石川啄木の性格と読書の効果	国立国会図書館	弥吉光長	1
中学生の読書と生活環境の関連についての考察	大阪市立松虫中学校	中島章一	9
読書指導の実験的研究——シートを利用して	大阪市教育研究所	合田修	19
一幼児の絵本にたいする反応の研究	東京都田園調布小学校	岡田明	28
矯正施設における読書指導	法務省中央矯正研修所	加藤正明	33
最近の児童漫画と子ども(Ⅰ)	日本女子大学	阪本一郎	40

実践記録

効果的な読書意欲を高める試み	大阪市立東中川小学校	上林長泰	48
中学校における読書指導の実践	名古屋市立守山西中学校	水野操	53

資　料

子どもに読書の時間を与えよ	57

会　報　60

——本誌の編集に関する内規——

1. 本誌は日本読書学会の機関誌として，毎年4号に分けて発行する。
2. 本誌は原則として本会会員または会員が共同研究者となっているグループの研究発表にあてる。
3. 本誌への寄稿は，その年度の会費（年額800円）を払込んだ者に限る。
4. 原稿は横書きとし，標題・所属・氏名に対する英文を添えること。英訳を学会に任せる場合は，読み誤りやすい漢字に振りがなをつけること。
5. 図版の原図は正確なものを添えること。学会に製図をゆだねるときは，その実費を負担すること。
6. 原稿は編集委員会の選考によって掲載される。多少添削を加えることがあるが，大きな変更を加える時は筆者に相談する。
7. 原稿執筆者には，抜き刷り20部を贈呈する。
8. 本誌掲載の論文等を，無断で複製または転載することを禁ずる。

石川啄木の性格と読書の効果*

国立国会図書館　彌吉光長**

1. 研究の理由

石川啄木は短い生涯ではあったが，彼ほど多くの日記を残し，書簡を書き，心の奥まで開放して恐れるところなく語った文学者は稀であろう。作品自体が思想と感激を真剣に表白している。一般に詩人は若くして作品を発表し，読書や交友によって摂収したものをたちまち創作に投射する場合が多いので，読書の効果の調査にも有効な場合が多い。

啄木の場合を考えてみると，彼は多読家であった。彼は蒲原有明や薄田泣菫の詩を臆するところなく模倣したことが定説になっている。摂収の多量，消化模倣の頻繁さはただ伝説的なものであるが，果して，彼は摂収模倣のみであったか？　また多くの研究書に記されているように独創的な短歌を開いたのと前期の詩と関係があるのか。その原因として彼の性格を中軸として読書や創作の結果にある種の傾向や思想や情動が発生したのではなかったか？　それが本論の目的とするところである。

啄木研究は多数の有名な学者や文学者が力作を書いており，今さら小論を試みるのは無益のようにみえる。しかし，多くの活字が費されながら，戸籍の写しから，数百枚の写真数万枚の原稿にも，啄木の性格については貧弱な断片的記事をみるにすぎない。そこで私は直接啄木と長い交渉があり，記録を残した実妹三浦光子，親友金田一京助，義弟宮崎郁雨の著書を参考にして，彼自身の巨大な文献作品を主体としてこの論を作った。

この論の時期は明治35年秋盛岡中学を中退する前後から，明治41年春北海道脱出まで六年間を選んだ。この時代は理想を掲げ，多感にして多読，思想感想の固定する青年期で，読書科学上最も興味が深いと思うからである。

2. 啄木の性格

金田一京助は啄木を純真，天才の人としロマンチックな思想の人といっている。

「本来石川君は，山深き禅房に生れて生活苦も知らず，純に育った，寧ろ腕白の，明るい気持の人だった。年少名を成して自ら天才の矜を誇負した当時でも，やはり其処には自らも後に云っているやう，多分の浪漫主義的思想の底に一抹の宗教的情操が流露してゐたことを観過することが出来ない。」(1)

神童天才の誉れは誰も書いているところであるが，彼自身も「神童と人に持て囃された頃から」(2) と語り，ニイチェの超人思想に共鳴して，他の犠牲によって文学を完成すべきだという貴族的天才論を発表したくらいである。「我今に当りて切実にニイチェと共に絶叫せんと欲す。凡庸なる社会は一人の天才を迎えんがためには，よろしく喜んで百万人の凡俗を犠牲に供すべき也」(3) と「古酒新酒」に叫んでいる。

これまでに思い上るには，その環境と性格の形成の過程を考えてみなければわからない。三浦光子は啄木研究者にその欠陥を示す。

「近年啄木を読む人は，この時代の村の貴族としてわがままに何不自由なく育った兄を忘れている。(中略) 兄のなかにあった貴族性そのものがどこで育てられたか

---

* The character of Takuboku Ishikawa and effects of his reading

** YAYOSHI, Mitsunaga (National Diet Library)

は，正しく見ていただきたいと思う。」[4] 彼女もいうとおり，一粒種の男の子で虚弱なので，両親は盲目的に愛した。母は卵絶ちして健康を祈り，父は何にでも「一所有」と自己拡充を願って書いた。冬夜ゆべし饅頭がほしいと泣けば，一家が起き上って作ったと，その溺愛を光子は記している。

天才である。なんでも熱中してやり抜く，啄木はナポレオンのように不可能を抹殺した。当時自製の写真機で母や妹や親類を写してやったという[5]。光子の証言を金田一京助も肯定して，「石川君の性格は自分の気が向いてやろうとする事には，全我を傾倒するのであった」[6]と記している。

青年期において，一生の進路を決定する岐路に立って，啄木はどんな決定をしたであろうか。金田一京助の言葉に従えば，当時盛岡中学は軍人熱が強く，生徒間に修養会が幾つかあり，「ナポレオンが好きだった石川君が段々と一年生の頃から二年生の時代へかけて，海軍士官の方へ心を引かれていった。」ところが，2年の「4月に東京新詩社から「明星」が出たのである。」[7] その頃から啄木は金田一を訪問したり，明治34年春金田一の卒業の送別和歌会を聞いたとき，互選で最高点が金田一次点が啄木で「後で非常に喜んで，実際，自分の歌を初めて人中で試みて，そして，それに由って，やや自信といふものをもつことが出来たのだった」[8] といったが，それで，自信を得て文学を一生の事業と定めたという。

貴族性，天才，自信，文学志望と思うがままに動き，その性格をのばすことができた彼は，あくまでも理想を追う青年であり，得意にみちていた。

ところで，詩人の最大の能力は想像力であってそれによって，詩的創作の最高性が得られるものであるが，啄木の偽らざる想像力はどうであったろうか。何も飾る必要のない日記の中から一二の例をあげてみよう。

「さはいへど胸掩ふ愁いの聖なる哀しや，うす紫にわが好む装ひもあだかも涙にくれ玉ふ恋の心のただずまひ，女神夕に星をうらむもかくやとばかり，うつつなの境を辿る情を男なればの我身辛くも涙を噛みぬ。」[9]

明治35年啄木上京を見送る日記の一節で，平家物語流の名調子で描かれている。次は，何でもない函館の波打際の光景である。

「かわたれ時砂浜に立ちて波を見る。磯に砕くるは波にあらず，仄白き声なり。仄白くして力ある，寂しくして偉いなる，海の声は絶間もなく打寄せて我が足下に砕け，又砕けたり。我は我を忘れぬ。」[10] 波をさえも神秘の声というのである。感情移入と連想の奇抜なる創作力に向えば，雲を起す力を持つといえる。

函館の大火災の日記と書簡は強烈な性格と想像力の強さを示すもので，その一部を紹介しよう。

「狂へる雲，狂へる風，狂へる火，狂へる巡査（中略）狂へる雲の上には，狂へる神が狂へる下界の物音に浮き立ちて狂へる舞踏をやしにけむ（中略）予の見たるは幾万人の家をやく残忍の火にあらずして，悲壮極まる革命の旗を翻へし，長さ一里の火の壁の上より函館を掩へる真黒の手なりき」[11] 啄木は火を見て原始的の心理むき出しにして，想像力を逞しくし，自らの精神も病的に昂奮して来た。

「予は凡てを忘れてかの偉大なる火の前に叩頭せむとしたり，一家の危安毫も予が心にあらざりき（中略）家は女共のみなれば，隣家皆避難の準備を了したるを見て狼狽する事限りなし。予は乃ち盆踊を踊れり，渋民の盆踊を踊れり。かくして皆笑へる時，予は乃ち公園の後なる松林に避難する事に決し」[11] と。実妹三浦光子は「これも例によって，兄の誇張で決して盆踊りを実際に踊ったことはない。」[12] と否定している。常人からみれば原始民族の興奮で，日記にさへ盆踊を踊ったと火の舞踏を記す，この病的な業火に叩頭する心理が想像力の盛んなためである。

ここでいえることは，啄木の天才は分析してみれば，記憶力と理解力が強いために速読にして忘れず，よく理解して，己のものとし，想像力によってその情動を誇張癖といわれるまでに拡大した。それが病的に烈しくなると，一人の超人的天才のためには百万人の凡俗さえも犠牲にしてよいという貴族性に発展する。しかも，彼の熱

中性は，イブセンのブランドのいうように「一切か然らずんば無か」というまでに押し進められ，ある一事に熱中するときに驚くべき力となって現われていた。金田一京助はいう。「或る日またこんな時にドイツ語でも勉強して置かう，と云って（中略）私の本箱からジャーマンコースを持って行って，二三日昼の間，私が勤務に出て不在の時にひとりでせっせと独学してゐた。さう気が向いて，けんめいに或る時は，全く夢中になってやる人で，私がその勉強のノートを見て吃驚してしまったのは亜鉛版の大学ノートへ，十数頁程，ジャーマンコースの本文をペンで写して，ドイツの亀の子文字の行列を一々印刷した様に綺麗にいっぱい書いてゐたその克明さである。その代りに，あまり永続きはしなかったやうである。」[13]

啄木は4回ドイツ語を熱心に独習した。それはワグネルを読みたい一心であった。しかし遂に成功しなかった。彼は情動的な熱中はあったか，意志力による計画的統制力はなかったので，持続性がないのは金田一京助のいう通りであった。この性格によって読書の効果にも関連したのであろう。

3. 啄木の読書歴

啄木の読書を確める方法として，日記と書簡と論文とから資料を描出して読書歴を作り，読書の事実を把握しようとした。ところが，日記や書簡には相当紛失された部分があり，全部は記さずに，感じた部分が現われている。それで，年月日順に並べると共に買った，読んだ，感じた，計画を注記した。表中年月日の終りに，略号を附し，日は日記，書は書簡，論は論文感想を示した。

明治年月日	著者・書名等	感想・事項・注記
35. 7.20(書)	ゴルキー "鷹の歌"	人間最高の典型
7.25(書)	ゴルキー	日の出の天才
10.17(書)	姉崎嘲風 "ワグネルの愛の世界観を喜ぶ"	最高の意志は最高の愛へ
10.30(日)	"透谷全集"	友に贈られた
11. 7(書)	テニソン "秋"	訳文を附して送る
11,13(日)	シエクスピア "コリオラヌス"	買う
11.13(日)	トルストイ "わが懺悔"	読む
11.14(書)	バイロン "ソリチュード"	訳文を送る
11.15(書)	シエリー "落葉のかたびら"	引用す
11.16(日)	モーリエル "トリルビー" ワーヅワース詩集	買う
11.17(日)	シエイクスピア "ハムレット" ロングフエロー詩集	買う
11.18(日)	ラム "シエクスピア物語" バイロン "チャイルド・ハロルド巡遊記" 英詩集，テニソンアーサー	11日英書を買い，18日に読みはじむ
11.18(日)	森鷗外 "即興詩人"	憤怒と我心を襲う
11.19(日)	モントゴメリー "黄昏"	信仰詩と賞める
11.23(日)	イブセン "ボルグマン"	訳をはじめる12.3まで
11.27(日)	ゴルキー	読む
36. 7.27(書)	ワグネルの研究書 H. I. Chamberlain, Krehbield, Lidgey, Baman.	読む
37. 1. 1(論)	野口米次郎 "東海より"	幽玄で幻影に酔う
1.13(書)	ドイツ語	独習
1.13(書)	姉崎嘲風論文でワグネル紹介	ワグネル研究の念を伝ゆ
1.18(日)	姉崎嘲風	樗牛会趣意書受く
1.27(日)	嘲風 "戦へ大いに戦へ"（太陽正月号）	ワグネルの勇ましき愛
1.30(日)	嘲風 "性格の人高山樗牛"	読む
2. 4(日)	土井晩翠 "南欧鎮魂吟"	感ず
3. 3(日)	嘲風 "清見潟の除夜"	読む
3. 9(日)	〃 "東北遊記"	啄木との面会を読む
3.11(日)	土井晩翠 "天地有情"	読む
7.21(日)	ロゼツチィ "愛唱の詩"	愛妻へ書送る
7.23(日)	ワグネル "タンホイゼル"	研究をはじむ
7.27(日)	同 " 同 "	新芸術のドラマ発表に感ず
8. 3(書)	幸田露伴 "心のあと"	日本最初の哲学詩
8. 7(書)	ルーズベルト "奮斗の生活"	海外の友と感ず
38. 6.29(論)	嘲風	権威は勝利の手に
6.29(論)	シエクスピア "ハムレット"	幽霊との会話に感ず
6.29(論)	モーパッサン "ピエールトジェン"	英訳読む
7.—(論)	ワグネル，ワーヅワース，ゴルキー	天才は貧乏である
9.23(書)	ジャーマンコース 独和辞典	金田一に頼む
10.—(書)	"武俠の日本"	冒険心を覚ゆ
10.17(書)	薄田泣菫 "二十五弦" 網島梁川 "病間録"	尊き二人の人格者
39. 1.18(書)	ワグネル "デカルトの哲学"	意志拡充の愛
3. 5	木下尚江 "新曙光"	毎日に連載
3. 7	トルストイ "楽人のおとろえ" 万里訳	共鳴
3. 9(日)	ストウ "アンクル，トムズ，ケビン"	神の如き誠実
3.20(日)	小杉天外 "コブシ"	写真小説
〃(日)	ショーペンハウエルからワグネルメシジュコフスキー	愛の勝利，絶対唯一の真理へのあこがれ
3.29(日)	ゲーテ "ファウスト"	世界第2期の文明を完成
〃(日)	マシュー，アーノルド	古代の追憶
4. 8(日)	ワーヅワース	愛誦の追憶
4.11(日)	フロルターク "英雄伝"	人間の知識と正義
6.16日頃(日)	薄田泣菫 "白羊宮"	詩壇の第1人者，大きい思想なし
6.10～20	夏目漱石 島崎藤村	文才すぐる天才でない 有望革命的でない
7.—(日)	西洋の上古史	研究をはじむ
7.29(日)	樋口一葉 "たけくらべ"	よむ，気持よし
8. 9(日)	ドイツ語	独習
40. 1. 6(日)	押川春浪 "新日本島"	粗雑，痛快，清風を感ず
3.—(論)	イブセン「真の自由は上部畏民に」	同感
7.—(論)	高林光太郎の詩	鋭い針のある谷の嵐
9.17(書)	ドイツ語読本	毎日午前よむつもり
9.27(論)	網島梁川 死す	人格に敬服，思想には服せぬ
9.18(論)	トルストイ "コサック"	ロシアの田園を思わせる
11.—(論)	ニイチェの超人	その影響は広く深い

12.27(日)	陶淵明の詩集	読む
12.28(日)	正宗白鳥“紅塵”	わが心泣かんとす
41. 1. 4(日)	社会主義者西川光次郎	その説に感す（講演会）
1.14(日)	二葉亭四迷“其面影”	よむ
1. 5(日)	柳川春葉“残春”	読みごたえがある
2. 8(書)	メレジュコフスキー“友基督者”	肉霊融合論を感ず
2.29	釧路へきて四十四日間本を手にしない	心に淋しい影がさす

註(日)啄木全集（岩波）第13巻及び第14巻　日記
(書)啄木全集　第11巻　書簡1
(論)啄木全集　第8巻　感想評論1

この読書歴からみて姉崎嘲風は8回，ワグネルは6回で，嘲風とワグネルは圧倒的に多い。思想的にみて，ショーペンハウエルの意識の哲学系，ニイチェ，ワグネル，またイブセン2回，トルストイ3回，ゴルキー3回，ショーペンハウエル1回，ニイチェ1回で，一種の傾向が数量的に現われている。この時代の樗牛熱からみても，傾斜がはげしいことを記憶すべきである。

しかし，彼の文学鑑賞力は直覚的に最高のものをかぎつける鋭さがあって，他を排撃するような偏執狂ではなかった。

「シェクスピア4回，ワーヅワース3回，バイロン2回日本の作家では薄田泣菫2回，土井晩翠2回，綱島梁川2回，柳川春浪（武俠日本とも）2回，その他露伴，透谷，鷗外，漱石，藤村，白鳥，米次郎，光太郎，四迷，一葉，天外など一流の作家を相当に評価している。その内容については，次の読書の効果の章に譲るが，りっぱな鑑賞力といえる。

彼の読書法について一言すれば，速読で，記憶がよく，理解力があり，批評眼が高かったことがいわれている。その証言に金田一京助の「定本石川啄木」の一節を紹介する。

「その頃本郷の真砂町に（中略）山本太市郎といふ爺さんの貸本屋があって，よく蓄平館へ本を背負って来た。石川君がすぐ懇意になって，ツルゲネフ物だの，その頃の自然主義の大家の小説類を片はしから読んでいって，大抵部厚な物でも一日に読んで幾日も停滞さすといふことがないものだから，よいお客様で喜ばれてゐたものだった。「ルージン」や「貴族の家」や「ふさぎの虫」など借りた時には，面白いから是非読めといふことで，到頭私まで読まされた。」[14]

啄木は実に多読なのに，それらの事がらは出てこないことは，注目すべき点である。

4. 啄木の読書の効果

啄木の年令に相当する現代の学生の読書世論調査を対照してみると，啄木の読書の特徴が明かになると思われるので，毎日新聞社「読書世論調査」(1961) の報告によって，高校生の部をみてみた。彼等が読書をするとき図書を選択する意志の決定の仕方は，他人にすすめられる場合が相当多い。友人のすすめによる場合17.3%，先生にすすめられた場合5.8%，家族のすすめ3.6%で，他人のすすめ合計26.7%である。無回答が28.9%あるので，これを除外すれば，回答数71.1%であるから，他人のすすめで読む図書は37.7%となり，いわゆる誰でも読むから読むという，ベストセラーズや平凡な読み物になりがちである。

啄木の読書は一部に偏っており，批判力が強く，一流の文学書を自ら選んでいる。例えば大橋図書館に通いつづけてめぼしい文学書を読み，高熱を犯して読んだと，日記に記しているにも係らず，特に感じたのは，トルストイの「わが懺悔」と鷗外の「即興詩人」をあげるにすぎない。全読書歴でも20余人の作家に偏って日本作家はその半ばにすぎない。

このように感受性もあり，理解も行きとどきながら，啄木の読書の結果は傾斜を持つに至ったか？　その秘密を解くものは，彼が最も崇拝しながら，遂に彼の思想を受け入れるに至らなかった明治の大思想家綱島梁川との関係に，明確に現われている。彼は北海道の小新聞の論説に声涙共に下るという悲痛な論をかき「綱島梁川氏を弔ふ」と題した。その一節を掲げて彼の意見を明かに伝えたい。

「故人の温かき同情には，荒野の花の夏の雨を喜ぶ如く，喜んで身も濡し，心も濡して浴した者である。予は故人に対し，師と呼ぶ，兄と呼ぶ，親しき友と呼ぶ，我が請有(あらゆる)友の中の最も大いなる一人と呼ぶ。そし

て又，故人の文を読むに当っても，最もよく同情し，最もよく解した一人である事を信ずる。よく解し，よく同情して居ながら然も何故に其説に服し，其理に帰依しなかったか？　一切を放擲して此秋の如き悟入の人の前に平伏しなかったのか？」[15] たたみかけて迫るような名文を書き，その理由をよくよく説明している。その全文を掲げる余裕はないので，その一部で説明に替えたい。「梁川君は人生の一面よりして神に之(ゆ)き，予は他の一面に立って居る。予は故人の説を解し且つ同情して，然も，其説に服することの出来なかったのは此為である。」

啄木の性格をこの位鮮かに書いた文章はない。彼は思想的に相合わないが故に，敬愛する梁川さえも，服することができなかった。これが啄木の最大最高の性格であったのだ。

「一体自分は性質として，総てか然らずんば虚無，この二つのいづれかを要求する。南極か然らずんば北極，寒帯か然らずんば熱帯（中略）数学的な打算的な人間は大嫌いだ。」[16]

彼はあくまでも理想家であった。貴族性というのも理想を貫く意味のものであった。理想が実現不可能であれば虚無すなわち革命であった。ただ読書だけでなく，実生活においてもそうであった。

シェクスピア，ゲーテ，ワーヅワース，日本では森鷗外，上田敏，師事した与謝野鉄幹さえも，尊敬はしても受入れなかった。泣菫を「目下の処どうしても第一人者である。然し今後はどうか知らぬ。大きい思想がないらしい。」[17] と評価している。驚くべき予言であった。幸田露伴の「心のあと」について，「明治詩界の大作たると共に又，格調用語の選択に於て少からざる失敗を含んでゐるのも事実だ。日本に哲学詩や宗教詩が今迄殆んどなかったのに，あの作の出たのは実に愉快でならぬ。生は露伴の詩に於て，有力なる同盟者を得た様な気がする。」[18] と思想的な味方のあるのを心強く感じている。また鷗外の「即興詩人」の訳をみて「世界を美しき乙女にたとへて，世の人はその局所細緻の所のみを詮索すれども，詩人は全体の美しさを観照して吟味すの条あり，以て詩人芸術家一般の批評となすべし。」[19] とまさに，いうべきところをついている。技巧よりも思想である，精神こそすべてに先んずるという考え方である。明治35年11月23日，中学中退後上京中の感想であって，性格と読書がかくも一致していたことをよく示している。

しかし，その感じ方は論理と意志によるのでなくて直感と情動によるものであることも忘れてはならない。高村光太郎の詩の印象は比喩によって示されている。「深い谷の底からゴーッといって色のない嵐が吹いて来た。昼寝をして居た自分はむっくり跳起きて，あらん限り胸を拡げて縁端に立った。この嵐には鋭い針がある。その針に黙って心臓を刺させる心地は何ともいへない。（中略）鋭い針をもった谷の嵐は人間の声である。」[20]

当時の新しい作家に対する考え方にも啄木の性格がよく現われている。「近刊の小説類も大抵読んだ。夏目漱石，島崎藤村二氏だけ学殖ある新作家だから注目に値する。アトは皆駄目。夏目氏は驚くべき文才を持って居る。しかし偉大さがない。島崎氏も充分望みがある。「破戒」は確かに群を抜いて居る。しかし天才でない。革命健児ではない。」[21] このように当時評価のきまらない作家にも明快で痛烈な批評を行っている。人格には頭を下げても，自分の信ずる所とちがう作家には決して従わなかった。

啄木の信念は何に向ったかというに，この時期においては姉崎嘲風であった。嘲風を通じてワグネルに向ったのである。啄木が友人細越毅夫宛書簡（明治35.10.17）には，「最高の意志は最高の感情を伴ふ。これわが詩論なり」と断定を下し，「嘲風博士がニイチェに満足せずしてワグネルの愛の世界観を喜ぶも亦この理に外ならず。」[22] と明言している。また「我は思ふ，若し或る人の人格を知らんと欲せばその人の「愛」に対する解釈をきくを以て足らん。高尚なる感情は高尚なる人格を形造る。高尚なる愛の一念は人生の最高貴なる価値なり。」[23] これは恐らく嘲風の説を圧縮したものであろうが，彼の心境をよくいい現わしたものである。彼はどこまでも情

動に動いた。「高き，強き，大いなる，この三つの語に対すると我はひざまづき讃ず。」[23]というに至っては，いかに感動が激しいかが明かになる。若き啄木を動かしたものは，強さ，偉大さという力と威厳であった。この性格的な傾向は読書したものを吸収するにその傾斜を激しくして行くのであった。

彼はかねて嘲風の思想に打たれていたが，直接書簡を出したのは，明治37年1月13日で，明治25年の夏「太陽」に故樗牛に与うる書を二回に亙って読み，異常な感激を得たことから述べている。彼は「稚き迷ひに胸悶えたる小生には，云ひ知らず尊き光の影と仰がれ候ひき（中略）生と光とを夢深く埋めたる長夜の暗を打掃ふべく叫ばせ玉ひたるこの天来の響の，如何に鋭く，又強く，新らしき呼吸を我らの上に植ゑられしことよ。」[23]この一篇の論文が，海軍士官たるか詩人となるかを解決する運命の鍵であった。青年にはこのような厳粛な瞬間が突然来る。「明星」の弱さが何故に彼を詩人にしたかに疑問を持つ人は多いであろう。私もその一人であったが，ここに至って，不来方城址で学業をサボって，この電撃に打たれたことに納得の行くものがある。

啄木は断じていう，一度決心をするときは「ただ心一度そこに凝りては，又動かすに由なき性を如何とも致し難く候。」[23]啄木の思想も一生も定まった。嘲風の東北講演のついでに啄木に会いたいとの葉書に接して，37年2月1日の夜寒気をついて勇んで旅館を訪れたのも，この一心からであった。この面会を日記に「嘲風先生とこの地に会する如きは実に千載の一遇なり。しかもこれ初対面なりき。」[24] 3月15日小沢恒一への書簡には「生は故山に蟄居以来これ位快心な談話を試みたことはない。彼は生の予想通り，筆の人ではなくて，人格の人である。現代の日本は満腹（腔か）の敬意を以てこの人の瞳に輝いて居る清新なる光明を祝せねばならぬ。」[25]とのべている。

更に嘲風を通じて，ワグネルの思想に敬服しその研究を念願とするに至った。彼は嘲風にならって「バイブルを読み，法華経を読み，猶且つ真に動く能はざりし小生は，この『我の存在』（デカルト）の一意識に触るるに当って，我然として醒めたるが如く候ひき」[26]と近代哲学の洗礼を受け合理性を感じとった。しかし冷たい論理で満足する筈のものではなく，自我の強さに立返っている。彼はワグネルの「意志の拡張の愛の猛烈なる世界観は根本より小生の性質と相吻合する」[26]と悟ったのである。

更に進んでワグネルの「タンホイゼル」は意志の拡充によって意志融合の積極的愛を生じたものという。これによって啄木自身の世界観をたてようとした。「玆に一解あり，意志といふ言葉の語義を拡張して，愛を自他融合の意志と解くことである。乃ちショウペンハウエルに従って宇宙の根本を意志とし，この意志に自己発展と自他融合の二面ありと解する事である。」彼は飴細工のように愛を小器用に作り上げるだけで満足している。そして，「自分の二十年間の精神生活が初めて意義あるものになった。（中略）一切の説明は無用である。人生一切の矛盾は皆氷解した。」[27]

啄木にしてみれば，明治35年から39年まで嘲風の論をよみ，ワグネルの伝記や作品，論文をよんで，人生の方向を決定し，天変地動にも揺がぬ思想の根抵を得たと自信をつけたことであろう。読書の大部分が愛の基礎付けに費され一切の行動は，その思想の線にそって動いていったのであった。嘲風の一論文を読み性格に適合したことから，想像もつかぬ強力な愛の自信を築いたのであった。

次には啄木の文学的独創と模倣について考えてみたい。それには「明星」の主宰者で，啄木の師与謝野鉄幹の「啄木の思出」を引用してみる。啄木の詩は「清新な上に荘重と優麗と哀調に富んだものばかりであった（中略）薄田・蒲原両氏の詩風の影響は勿論あるが，確かに其れの基礎となって，一貫するすがすがしく芳烈な純情は啄木君独自のものである。その措辞にも顕著な独創がある。」[28]と讃美している。「詩をつづけて作るようになってから，急に歌もまた自由に自分のものを出して，面白い作を見せるやうになった。」[28]しかし「スバル」時代からの啄木の変化は鉄幹は好まず，理解しようとしなかった。「空虚な，貧弱な悲痛な人生の実相を君自身に即

して凝視し初めた。そして修辞の方面から云ふと，その得意な優麗と勁健とを重ね得た詩歌に自ら反感を抱き，つとめて平明な且つ素朴な言葉で表現しようとする反動時代がきた。」[28] これはこの論の次々に来る自然主義の時期でここで問題にならないが，鉄幹は反動時代とみたのであった。

ここで問題とすべきは処女詩集「あこがれ」である。これには種々の評論があるので整理して代表的な，模倣論と素質論とをあげてみよう。模倣論の代表は「帝同文学」の桜井天壇で「詩壇漫言」で啄木を評して「想像力が独立性に乏し。」[29] といい，「啄木の詩を読みもてゆくに，どこかに見た覚のある様な感じを為すこと屢々なり。少なくとも泣菫・有明等の諸作に於て一度観照したる事ある詩的想像力に尾を附し鰭を附して，新奇に仕立直したるが如き感じを為すなり。」[29] と模倣の欠点だけを責めている。ただ後半になるとその傾向はなくなったと明記しているのは注目してよい。

その反論を平出修は「明星」で行って，「啄木が用うる所の新様の語に，たまたま泣菫・有明二氏の詩中に用ゆる語あればとて，そは二氏の専用語にはあらざるべし。況んや啄木の自ら選択せし語彙は甚だ豊富にして，遒麗，清新，その日本語の美を知れるは，彼の土井晩翠氏等の企て及ばざる所なるをや。」[30] と，弁解に近いものがある。

当時新進の詩人は啄木をはじめ高村光太郎，平野万里，北原白秋など新語を誇り，大家の苦心の語も当然のように詩中に採入れていた。啄木が功名心と自信から多作のうちには頭に閃く詩語のうち大家の語を巧みに利用したことは有名である。桜井天壇のように新人の詩語は模倣が多いと技巧だけを非難する側から模倣論が盛んであった。しかし模倣の域を出ることのできないエピゴーネンとみるか，天壇も認めるように後半の啄木の思想と情趣や詩格から，成長する詩人としてみるかによって見解は正反対の方向に発展するのである。

後者のような発展説をとるのは，親友北原白秋と，評論ではわが国では超一流の視野の広さを誇りうる川路柳虹だけであった。

白秋はさすがに天才詩人で，そのみるところは群小論評家の驚倒するものがある。

「啄木の詩はその技巧の円熟に於いて，当時の泣菫有明二大家をさへも凌がうとした。その詩人としての天分に於いてはその二大家にも優ると評したのは森鷗外先生であった。年少にして異常の才人であったことは否まれぬ。その詩では，然しまだ自己の芸術を創造し得たとは思われなかった。まだ模倣時代の悩気が強過ぎたのであった。その練達した詩より翻って，蕪雑とも見られる彼の短歌に目を移す時は，そこにはあまりの変貌があることに驚かされる。然し，私たちが彼の詩にうたれる事の少くして，却て彼の歌にうたれる事の多きは何が故であろうか。」[31] それは人間の真実と社会的覚醒によって歌われたことを明かにした上で，白秋は嘆息している。もしも啄木が五六年も生きていたら，と愛惜しながら，「表現上の焦燥と自棄とをも，またおのずから平静と渾厚とに推移してゆくべきであったらう。彼は本来が貴族的な気稟に富んだ詩人の一人であった。（中略）彼は全く搦手から行ったのである。奇道を選んだ。今思ふと来るべき「死」の予覚により，彼自身には意識しない何かが彼を焦燥ならしめてゐたやうに思ふ。」[31]

白秋はさすがによく啄木を見抜いている。貴族的ともいうべき自信と格調の高さ，それを抱きながら，ふと浮ぶ人生の嘆息や思い付きにだけ打こむことを嘆いている。しかし白秋も，愛の理想が生活に打ひしがれて，焦燥と不安だけに陥ったことと，今後のそれからの発展については，自身との性格の差を充分に分析してはいない。

いま一人の批評家の巨人川路柳虹は，その透徹した頭脳によって，何人も追従しえない見透しを与えている。「あこがれ」と「一握の砂」との間の変化の点にふれた一節を紹介すれば，「少くとも形式内容の上に恐しき相違」がある。「けれども，この著しい相違，殆んど別な人格の連続の如く見ゆるこの二つの彼の間には全く関聯する何物もないであろうか。非常に貴族的な彼と非常に

民衆的な彼との間には全くその人格を切離して考えねばならぬほどの差違があろうか。」[29] 一般にいうように「あこがれ」には模倣と「ごく稚い空想と夢の所産」があり，後年の彼は現実主義者であって，空想と理想とをすて，技法を無視したであろうか。柳虹の考えでは「夢を吐き棄て詩を貧った所の彼である。」[30] これは彼が望んだ所ではなかったのである。彼は民衆詩人として「あこがれ」の的になっているが，彼は「貴族的生活を要望し，「あこがれ」の夢こそ彼の理想とする「楽しいほんとうの生活であった。」彼は芸術に絶望して歌を「悲しい玩具」にすぎないとして，爆裂弾が今の自分に特に望ましいと友人に説いて廻った。理想の光を慕ふ程，現実には火に焼かれる彼を社会は嘲った。彼は間違った社会組織に人間は酷使されているので，これをすべての人間が幸福になるようにと願った。その万人の不満に火をつける心こそ「処女作時代から啄木を彼処に導いたその「夢みる想ひ」ではなかったか」[32] と，

「あこがれ」を若気の作だとか模倣だとか称するのは啄木がワグネル研究にあるだけの傾斜的読書と思索をつぎ込んだことを知らぬからである。しかも，白秋や柳虹のような透徹した批評ではその理想の高さと現実の失敗とをふまえて，同情をもって論じている。しかし，彼の性格の「一切かしからんずば虚無」という自白の厳しさにはふれていない。知らなくても予見しているところが，この二人の真の文学者たるところであろう。

二人の論旨に敬意を表し，啄木の薄幸な一生が性格に左右され，読書の効果が性格との関連においてだけ現われたことを結論としたい。天才にして，高遠の愛の理想を持ち，大橋図書館を読切るほどの多読であっても，年少に定めた性格的な一冊の読書が一生を定めたことを思うとき，いかに青年の夢に与える読書の大きい効果があるものかを考えざるを得ない。ヒンメルヴァイト等のテレビ調査とクラッパーの調査において，性格を強化することが意見として現われている。社会心理においても，マスコミにその効果がある事例を見せてくれたわけである。[33]

註(1) 金田一京助　晩年の石川啄木（改造，昭 2.1）
(2) 啄木全集13　日記１　明治39.4.30
(3) 同上　8　感想評論１　古酒新酒
(4) 三浦光子　兄啄木の思い出　昭39　p. 29
(5) 同上　p. 26
(6) 金田一京助　定本石川啄木　p. 8
(7) 同上　p. 22
(8) 同上　p. 43
(9) 全集13　日記１　明35.10.31
(10) 同　明40. 9. 5
(11) 全集14　明40. 8.25
(12) 三浦光子　前掲書
(13) 定本石川啄木　p. 125
(14) 同上　p. 127—128
(15) 全集８　綱島梁川氏を弔ふ
(16) 全集13　明39. 3.13
(17) 同上　明39. 6.10
(18) 全集11　書簡　明37. 8. 3
(19) 全集13　日記　明35.11.22
(20) 全集８　明治四十年の雑誌界　p. 137
(21) 全集13　日記　39. 6.20
(22) 全集11　書簡　35,10.17
(23) 同上　書簡　37. 1.13
(24) 全集13　日記　37. 2. 1
(25) 全集11　書簡　37. 3.10
(26) 全集11　書簡　39. 1.18
(27) 全集13　日記　39. 3.20
(28) 与謝野鉄幹　石川啄木全集(改造社)「啄木研究」１—３号
(29) 桜井天壇　詩壇漫言（帝国文学11巻６号　明治38 6.10）
(30) 平出修　明星巳年７号　明治38. 7. 1
(31) 北原白秋　石川啄木選集序（大正15. 7.13）
(32) 川路柳虹　啄木の文学的成功（読売新聞大正8.4. 11—13）
(33) Himmelweit, Hilde T, and Oppenheime et al. Television and Child. 1959
Klapper, Joseph T. The effects of mass communication 1961.

中学生の読書と生活環境の関連についての考察*

大阪市立松虫中学校

中　島　章　一**

問題点

現代の中学生は何故読書が出来にくいか

1. 予備調査　時期　昭和40年5月6日
2. 生徒の作文 / 親の意見　昭和40年5月15日～22日
3. 調査対象　各学年全員
   （予備調査は各学年より200名　計600名抽出）
   保護者の意見　1年　226人
   全員に配布　2年　122人
   3年　175人
4. 調査内容　この調査にあたって新しく作成した。

1. 序　論

思考力と批判力を養い人間形成に必要かくべからざる読書に対する中学生の現状は憂うべき問題点を数多く含んでいる。（読書が出来にくいという問題も）読書の重要性を認識する大人達が，時代の進展の中でその原因を考える時，単なるマスコミの影響のみを強く訴えたり，彼等をとりまく社会環境云々を取り上げている事が多い。色々な調査がその原因を追求し，その現状を分析してはいるが，彼等の内面をつくところまで到っていないようである。テレビと読書の問題においても，「読書量の減っていないものが70%もあって読書時間はさほどかわらない」というデーターのみで，かたずけてしまうことは危険である。テレビに限らず現実の生活の歯車が彼等をして読書の出来にくい環境へ押しこんでいることは確かである。

環境の変革はむずかしく，歯車の回転をゆるめることもむずかしい。我々は新しくかたち作られた現在の環境に立って，読書の出来やすい，読書の出来る方向へと導いて行く使命をおびているならば，読書の出来にくい原因をより深く究明し，彼等の内面を探究して使命を果しうる方向への道づくりをせねばならない。中学生の読書の在り方については，最早過去の読書生活を強要しその物差しで論ずることは出来ない。仮りに学校図書館の貸し出しが多いからといって，彼等の大部分がその本を読み終えたかどうかという点になると，考えねばならない問題が出てくる。読書は必要であり，読書は重要であることを認める彼等の中の大部分が，（又読書の楽しみを十分知りはじめた者をも含めて）何を訴えているかを十分知るべきである。私はこの研究において，出来る限り彼等の内面を探知したいところから，その原因探究に「作文」というかたちをとった。又予備調査も○で囲むことをさけ，書かすということに主眼をおいた。子供と同時に「親の意見」も200字程度の原稿用紙に書いてもらった。その点，パーセンテージは出せなかったが，な

* On the influence of living environment on middle school students' reading activities.

** NAKAJIMA, Syōichi (Matsumushi Middle School, Osaka)

まのことばを紙面の都合上許される限り列挙した。

予備調査も，問題点の解明に役立つものが多かった。

作文は内容をまとめ，私見をもって論じたが，ここに列挙したなまのことばの数々を，現代中学生の読書生活の位置づけに役立ててもらえるならば幸甚である。

2. 本　　論

(1) 予備調査結果から見た問題点

a　調査結果（11問中抜粋）

(a) あなたの好きなテレビ番組の物語が，一冊の本として出版されて，あなたに与えられたら，読もうと思いますか。

%	1年			2年			3年			全平均		
	男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均	男	女	総
思う	76	82	79	76	92	84	82	84	83	79	86	82
思わない	20	14	17	24	6	15	18	10	14	20	10	15
回答なし	4	4	4	0	2	1	0	6	3	1	4	3

(b) テレビを見るのと，読書するのと，どういうところが大きなちがいだと思いますか。

読書——

1. いつまでも内容をおぼえている。
2. 大切なところ，気にいったところ，いくども読みかえせる。
3. 名作の底にひそんでいるものを味わえる。
4. 素晴しい何かをつかむことが出来る。
5. ものを考える力がつく。
6. 自分の読解力でテーマを学ぶ。
7. 内容すじを考えて行かねばならない。
8. 文学的な表現がみにつく。
9. 漢字がおぼえられる。
10. 金がいる。
11. 想像力がつく。
12. いつまでも印象深い。
13. 気がおちつく。精神統一によい。
14. ありのままかかれている。（くわしい）
15. 主題がはっきりする。
16. 読むということはつかれる。
17. どこでも見られる。
18. 自分なりに理解できる。
19. 一つのことに熱中し本の世界へ入れる。
20. いつでもおいておける。
21. 自分の頭で考えながらよむ。
22. 人間として忠実に生きていけるだけの考える力を与えてくれる。
23. 自分で静かに読めるので人のじゃまにならない。
24. ちゃんと読まないと内容がわからないのでいやになる。

テレビ——

1. かんたんだが忘れるりつが多い。
2. その時だけ心にのこってすぐに忘れる。
3. 見たいところがもう一度見られない。
4. 一次的におもしろいだけ，考える力が育たない。
5. その時感動しても，日が立つにつれてうすらいでくる。
6. ただぼくぜんと見てしまう。
7. 場面の状態がありありとわかる。
8. 一種のリクレーションと思う。
9. 頭を働かさなくてよい。
10. てっとり早い。
11. てまがはぶける。
12. こまかいところが省かれている。
13. 主題がはっきりしない。
14. 家の中にしか見られない。
15. 空想するよちがない。
16. その場かぎりで，何んの収穫もない。
17. その人物の心の中まで味わえない。
18. 物語がよく頭の中に入らない。
19. ストリーを追うだけで，考えなくてもわかる。
20. 自分の持っているイメージと合わない場合がある。
21. ばからしいけど，おもしろい。
22. 考える間がない。その場限りである。
23. 音がよく聞こえてくるので，じゃまになる。

(c) 「テレビを見ると読書が出来ない」とよく言われますが，自分のことを考えてそのことばは，真実だと思いますか。

肯定（25%）——

1. テレビがなければ読書すると思う。
2. テレビを見ていると読書をしようと思っても眠たくなる。
3. 見る時間が長ければ，読む時間が少くなる。
4. テレビの方が主題がよくのみこめる。
5. 次々におもしろい番組があるから。
6. おもしろく短くまとめているから。

否定（75%）——

1. テレビでなく学校の宿題が多いから。
2. テレビばかり見ているのではない。
3. 自分自身する気力があったらやれる。
4. 心がしっかりしているならば，そんなことはぜったいない。
5. 読書することが大切だと思えばできる。
6. 10分や20分でも読める。
7. テレビを見なくとも，読書をすればよい。
8. 自分から読もうとする心がないから。
9. 昼，読書するとよい。
10. テレビがなくっても，読書のしないものはしない。
11. 読書をしないのは，だらだらした生活をしているからだ。
12. 早くから見るわけでないから，思わない。
13. 時間を区切れば出来る。
14. 好むほうをえらんでやるべきだ。
15. 本当に読書の好きな人だったら，その本をまず読むだろう。
16. 意志がはっきりしないから。
17. テレビ以外に他のものに興味をもつから。
18. テレビと読書はりっぱに両立出来るが自分がその気にならなくてはだめです。
19. テレビのせいにしないこと。

(d) 一日中「30分間」読書をしなさいと言われて，図書館の本の中から興味のもつ本を一冊与えられたら，どうしますか。

%	1年			2年			3年			全平均		
	男	女	平均	男	女	平均	男	女	平均	男	女	総
読む	90	98	94	94	94	94	98	99	98	94	97	95
読まない	4	2	3	6	4	5	2	0	1	4	2	3
その他	6	0	3	0	2	1	0	1	1	2	2	2

(e) もしこういうふうにしてくれたら，又こういうふうになったら，本も読める（又は読む）ようになれるというようなことがありますか。自分の思っていることを書いて下さい。

1. 学校で放課後でなく，読書時間をつくってほしい。
2. 国語の時間に読書の時間を入れればよい。
3. 学校の時間割に読書の時間をもうけたらよい。
4. 一週間に二度ぐらい図書館につれていって，読ましてくれたら。
5. 読書時間をきめて，強制的に読ますとよいと思う。ぼくもそれだったら読む。
6. 毎日少しでも，読書の時間をつくって，くせをつけてくれたら。
7. 時間が十分あればよい。
8. 1日24時間じゃなく，30時間ぐらいあれば。
9. テレビがなくなったら読めると思う。
10. 大人の小説とちがって，中人でも読めるおもしろくて，はらはらさせて，次がどうなるかという小説があったら。
11. 読む時間として，時間を与えてくれたら。
12. 読書について，まわりの人が理解をもち，静かにしてくれたら。
13. 両親や兄姉のすすめるものでなく，自分で好きな本が選べたら。
14. 朝学校へ行くのが，おそかったらよめる。
15. テレビを見る番組をへらし，読みたい本が読めるようにできたら。
16. 宿題・用事が少くって，ひまがあれば。
17. もっと少女むきの本や，清らかな物語がたくさんあ

ったら。

18．本のねだんをやすくしてくれたら。

19．先生が毎週一冊づつ読む宿題を与えたら，自分から読むようになると思う。

20．日曜日も学校の図書館があいておればよい。

21．テレビがなくなれば，私はいやがおうでも本を読むと思います。本を読んで思考力をつけたいのです。

22．勉強を少しへらしてほしい。

23．テレビの番組を少くしてほしい。

24．短かくおもしろくまとめる。

25．強制的にしてくれると読むし，読まなければ罰を与える。

26．学校や受験勉強でよむひまがないから，おちついて読めるようにしてほしい。

27．高校入試やその他のテストがなければ，もっと本がよめる。

28．テレビと勉強がなくなったら，もっとたくさん1日中でもよむ。

29．時間と本を与えて，両親が勉強とみとめてくれたら読めるようになる。

30．読書する時間を与えてくれたら。

31．家の人が，もう少しよゆうの時間をくれたら。

32．全部うすい本にしたら。

33．私たちの身近かなことをテーマにしてほしい。

34．学校側から，何月までに何々の本をよんで感想をかくことというふうに強制してほしい。

b　私見

○予備調査の(a)～(c)はテレビに関連するもの，(d)(e)は作文への下調べ的なものである。読書というものに対する関心の度合は，前回の調査と同様強く表われている。(a)(d)の結果から見ても彼等の大部分が，読書への意欲を持ち，「与えられたら」一応は読もうとする態度を示している。しかし，こういう結果のみで，彼等が十分意欲を持っているから大丈夫であるとは断言出来ない。読書の必要性を認識していながらも，読めない現実というものに対しての彼等の内面を知らねばならない。

○読書とマスコミの関係において最も関連の深いテレビについて見ると，彼等は案外わりきって考えている。テレビは娯楽的なものであり，読書は教養を深めるものであるという考え方は，うなずけるけれど，テレビへの回答のほとんどが，とるにたらないものというような書き方をしてその欠点をさらけ出しているのに対して，読書の方は，その良点を書きならべている。毎日視聴しているテレビも，読書というものと対比させた時，彼等の観念からは矢張り「一時的におもしろいが，考える力が育たない」ものであり，「その時だけ心にのこるがすぐに忘れるもの」なのである。しかし，彼等は良点をもつ読書よりも，欠点を認めるテレビの方に傾いている現状からは，今のところ脱しきることが出来ない。

○読書が出来ない原因をテレビだけにしぼってみると，(c)の回答に表われたように彼等は否定する意見を多く書いている。この回答を読んでいると，テレビがどうあろうと少しも心配する必要がないような意見が多い。「心の持ち方」と答える彼等が，それでは何故「気力」が持てず，読書が出来ないのかという点に問題が残る。

○(e)の回答によって読書が出来にくい点を彼等の希望の中から数多く発見することが出来る。この希望の中で最も数の多かったものは，「学校の時間割の中に読書の時間を作ってほしい」という意見である。この点に注目すべきであろう。何故彼等はそれを訴えるのか。家庭に帰ると読書の出来ない原因が充満し，読書の必要性を認めながらも，出来得ない圧力の前に屈している姿は何よりもあわれを覚える。

本が好きで，読書の楽しみを味わつている子供でさえも，その希望の中には，読書の出来にくい点の緩和を訴えているのである。この点，指導者は彼等の声を素直に聞き，その希望を知り，希望が出てくる原因を追求し，一つの対策を立てるべき段階に来ていることを考えるべきである。

(2)　子供の作文の結果から見た問題点

a　作文内容

あなたは「読書」をよくしますか。

する，しない，（マンガはこの質問では読書にはいれません）

上の理由として，自分で思うことを，

○（読書が出来ない，又はきらいな理由）
○（読書が好きな理由）
} どちらかをなるべく下の原稿用紙全部にかいて下さい

読書をしない理由——

○1年

1. 月・水・金は学校から帰るとすぐ英語塾へ行って，帰ってくるとすぐ夕飯，そのあと少し休んでそれから勉強。火・木・土は塾へ行かなくても，いろいろと勉強をさせられるので，読書をするひまがない。日曜日はつかれて何もする気がしない。
2. 学校から帰るとすぐ勉強学校，帰ってから勉強，読書するひまがない。
3. 目がつかれるからしない。
4. 学校でも忙しくて図書館へ行けない。
5. 読書というものを，はっきりと知らないといえましょう。自分でもなんとかして読書が好きになりたいと思っている。
6. 図書館も近くにあるが，行くひまがなく，学校図書館は，むずかしい本ばかりなので，読んでいても意味がわからない。テレビは横でガサガサしていても見ていられるが，読書は気が散って読めない。

○2年

1. なるべく読書をしていきたいが，読書する時間がない。学校から帰ると宿題で全く読書をする時間がなくなってしまう。
2. 一年生の時はテレビの影響が大きくいくら見てはいけないと自分に言いきかせてもすぐにスイッチをいれてしまいました。今はあまり見ませんが，矢張りすることが多くて本はあまり読めません。
3. 家に帰ると宿題，終ったら疲れて読むひまがない。晩はテレビを見る。
4. 読みたいという気持ちはありますが読む気にならない。
5. 昔の漢字を使っていて，横に読みがなを書いていないのでとても読みにくかった。それ以来本をずっと読んでいない。
6. むしょうに読みたくなる時がある。
7. 家に帰るのがおそいので，読むヒマがない。テレビでも近ごろ見られないのに，読書なんか出来ません。
8. 本というのは小さい字で書いてあって，その字を読んでいると，目が痛くなる。
9. まわりの環境がわるい。
10. テレビは短時間で見れる。読書は長時間かかる。
11. 読書をしないのは機会がないからです。（娯楽的なものに時間を使う）
12. マンガばかり読んでいるので，普通の本はあまり読めません。しかし「読みませんか？」といわれたら読みます。
13. 体が疲れてきて，目がふらつくように感じます。
14. 「読書」それは人間の財産の1つである。しかし，人間の多半数がこれを忘れかかっている。

○3年

1. 気短かなので，気長なものはきらいだから。
2. 余り時間がなく，床にはいってからとか，日曜日位しか読む時間がない。
3. 読書はきらいではなかったが，中学生になって学習量が多く，又ついテレビを見てしまって，本を買ってもちょっと見て本箱にしまっておく状態です。
4. 小さい時からあまり読んでいなかったから。
5. しんきくさくて読む気がしないが，読みはじめると，知識が身につく。
6. テレビがおもしろくて本を読む時間がない。本を読みたくなっても身近かに本がなければ読めない。
7. 読んでいると段々あきてくる。
8. テレビの方がおもしろく，興味があるから。
9. 自分がこれはいいと思う手頃な本がない。僕にはじゃまくさいという気持もあるので，読書に近づきがたい。

10. 学校から家に帰ったら，家から出してくれないので，マンガの本ばかり読んでいる。字のいっぱいつまった本を見るだけでいやになってしまう。
11. 読書はきらいではない。しかし読書をすると2～3時間もつぶれる。毎日少しずつ続けて読もうとすると，図書館や友だちの本ではそうはいかない。こういうところに原因がある。
12. 私は小学校の時は読書は好きなほうだった。それが中学校に入ると，勉強が多くて，本はあまり読まなくなった。それが一番の大きな原因です。

読書をする理由——

○1年

1. 睡眠薬のかわりに読んだのが好きになった。
2. 戦国物語→誰がどのようにして，天下をとったかわかる。
3. 読んでいくと，次にこのようなことがあるのだなあと想像したり，感動的なところがあると，うそとわかりながら，じんとくるものがあります。授業中に質問され，本を読んで知っているようなことがあれば，なんとなくうれしいのです。
4. うれしくなる時は思わずにっこりし悲しい時はしょんぼりして，しんみりとなってくる。はらが立つ時は心がいらいらしてむしゃくしゃする。本は心をいろいろに動かしたり，ぼくを感動させたりする。
5. 自分というものよりも，はるかに上の自分というものを作ってくれる。
6. 私の家は7時半になったらテレビを消すので，読書をするようになった。
7. 漢字を知ることが出来るから。

○2年

1. 私が読書するのは，最近のテレビはろくなものしかしていないからです。
2. このごろ本は高くて，私のこずかいでは買えません。
3. 本を読んでいると，自分が1人ぼっちだということを忘れさせてくれる。
4. 私は読書はとても好きです。でも読みたくても時間がなく，勉強だけでせえ一ぱいです。そんなひまはありません。
5. 学校ではクラブに入っているので，図書館へ借りに行けない。機会があれば，いい本をよんでいきたい。

○3年

1. 本というものは，人々がいうようにたしかにおもしろい。自分のためになる。
2. 本を読む機会がない。あったとしても，ふとい本など読む気がしません。うすい本なら何冊も読みます。
3. 静かに本を読むということは，有意義で楽しい。ただ1つ時間が少いのが惜しい。作者の気持ちに共感したり，主人公が得た経験が，まるで自分のもののように身近かに感じられる。教養が1つふえる。
4. 今夢中になって読んでいる次郎物語はテレビでやった先の話が知りたくて読み出した。テレビより読書の方が好きである。
5. 心配になってきたことは，自分がおもしろいと思う本以外のものは，読まなくなるのではないかということ。
6. 最初は，本がきらいだったけれど，毎月文学全集をとっているうちに，読書がどんなに大切かよくわかってきた。事実本を読み出していると，暗くなっているのもわすれて，読みつづけるぐらい本が好きになった。

b　私見（読書が出来にくい理由を中心にして考えて見る）

彼等の意見の中で考えられる第1のことは，現代の中学生の多忙性ということにつきる。一定の時間内でやらねばならないことが非常に多い。3年生に限らず学習に追いまわされている彼等が時間のないことをまずその理由としている。「1日が30時間あればよい」という声は切実なものである。テレビの視聴を直接の原因としてとりあげている者の数が少いのは，案外であるが，これはテレビを見ることが最早や彼等の日課であり，それを当然のように考える，言いかえれば自然の現象のように思

っているからであろう。時間がない原因をつくり出しているものに，勿論テレビ視聴も含まれるが，学習量の増大，学習の強制がある。しなければならないことをたくさんかかえている彼等が，時間のかかる読書をじっくりと落ちついて家庭でやることの困難を訴えている。あれもしたい，これもしなければと思いに追われながらも，目先に展開するテレビに時間をとられている状態，学習に追われ，毎日のように机にかじりつかされ，塾がよいに追いかけられている状態に，彼等は決して満足していないのである。そういう状態においこまれているならばこそ，前に述べた如く，「学校での読書時間を作ってほしい」という希望が出てくるのであろう。読書が出来るという回答の中にも，時間の少いのを訴えているものがかなりある。とおりいっぺんの読書指導では解決のできないことがたくさん含まれているが，まずこの現実を直視して見る必要がある。どうすればこのような状態にある彼等に，一冊でも多くの有意義な読書をすすめることが出来るであろうか。私は矢張り学校図書館が中心になって，より以上の啓蒙と，より以上の現実にそくした読書対策を立てることが先決問題である。クラブの読書会，学級の読書会，国語の時間における読書への導き，または集団読書指導，等，図書館の前進がなされなければ，彼等の読書の出来ない原因が，ますます大きなしこりとなって，彼等の前に立ちふさがってくるであろう。

(3) 親の意見の問題点

現在の子供たちは，昔とちがってあまり「読書」しなくなりました。その理由として，いろいろなことがあげられます。皆様方が，自分の子供を見て，どうお考えになりますか。どんなことでもけっこうですから，日頃お考えになっておられることをお書き下さい。

（読書のしない理由，又は読書というものについて，現在のままでいいのか，又そのことについての希望等なんでもけっこうです。）

a 意見内容

原因——

1. 実利主義の教育方法にもある。
2. テレビの商業主義が第一の原因です。
3. 現在はすべてに恵まれておる関係上保護者として何とも申しかねる有様です。
4. テレビ・ラジオがあるため読書する時間が少い。（我々の力でどうすることも出来ないことだと思います）
5. テレビでは，往年の名作が居ながらにして，身ぶり手ぶりおもしろく見られるからだろうと思います。
6. 遊び本意の書物が多く，現在の世相が子供によらず大人までが，まじめな固い物を好まなくなっている。
7. 読書は知識を広め，教養を高くするのにかくことの出来ない適切なものであることは子供として自覚しているが，テレビの前に坐ることが習慣性になっている。（落着きがなく親の意見などが耳に入らない）
8. 考えることの好きな子と，考えるより先に行動に移る子があります。
9. 根気がテレビのせいでなくなったのかとも思います。（小学 4・5 年頃，よく世界伝記全集やらをよく読んだものですが，当然その頃私の家ではテレビがなかった……）
10. テレビの影響で読むより見ることが多い。宿題も書くことが多くほとんど読んでいない。
11. テレビの普及により種々の知識が簡単に広く浅く得られるようになったため読書をすることが面倒になった。興味主義のマンが程度のものを読むようになり，良書を読むことが少くなった。
12. 娯楽機関が多くなり，学校でも勉強勉強の空気に巻きこまれることを強要されている。
13. 試験地獄と関係がないでしょうか。「深刻」といった感が非常に強い。
14. 生活環境のちがい。
15. 読むことより，見る，聞く，という方が，私共大人でさえ多くなっている。
16. テレビの普及により，家庭内で余暇を楽しめるようになった。これに伴いポピュラー音楽，野球などスポ

ーツに趣味をもつようになった。

17．文章での表現の仕方，対話にも何かたらないものを感じさせます。常に読書に関心がない故。

18．宿題で外の読書をするひまがないようです。

19．昔のように静かでないこと。

20．学校で教えることが多い。忙しすぎる。

21．親でさえ本を読む機会が少い。

22．周囲が読書をさせるような環境をこしらえることに協力がたりないこと。

23．本人の自覚の不足。

24．身近かに興味をひかれることが多すぎて手取り早く味合える楽しみにひかれ，じっくりと読書を味合うという雰囲気に親自身なれないのですから無理のないことと思います。

25．今の子供はあまりにも，することが多すぎる。学校の勉強に重点がおかれる。

26．高価すぎて手におえない。

27．一概にテレビも悪いとは申せません。私の家庭では，良いと思う番組を強制的に見せています。テレビも人間形成に役立つと思います。

28．上の子を見ていると，今読まなくても高校へ行ってからよく読んでいます。

29．学校から帰ると宿題，週3回塾，あまり自由時間がない。

30．テレビはもとより授業科目がふえている。

31．大学生のアンケートで，買ってまで読む気がしないと答える人の多いのを知っておどろいた。
やかましく言った頃もあったが，今は諦めた形。

32．読書のように時間をかけて知識を得ることが苦痛になってきている。

希望——

1．勉強は学校の教科だけという勉強の仕方，又親も本人も勉強に精出す以外，何も考えないようです。これは社会的に大いに反省する必要がある。

2．週2回位，教室で先生がリズムよろしく読んできかす時間をもってほしい。且，各自に読まして頂くことも，1つの道ではないでしょうか。

3．家庭では読書するということがなかなか出来ないようです。道徳の時間でも学校で書物を読む時間を与えてほしいと思います。

4．青少年向きの良書案内をしてほしい。

5．ホーム・ルームなどで説得力のある読書会などをもち，子供の読書に対する感覚を養ってほしい。（マスコミに対する正しい批判力も培養されると思います）

6．時代の要求には勝つことが出来ないから，読書が出来なくとも，読書にかわるテレビの内容をかえ，時間的に研究の必要がある。

7．身近かに本があれば，わずかな時間も頁をくることが多いと思います。適当な本をお教え頂けたら，結構かと思います。

8．あまり時間がないので，枕許に読みかけた本をふせたまま，眠っているのをよく見かけます。

9．読書の時間を学校でも作っていただきたい。

10．国語等の宿題に読書感想文等を提出するよう特に要望致します。

11．心の表現をそのものずばり文章に表わす現代，表現に床しさが欲しい。「すがすがしい新緑」より「快いそよ風に青いさざなみを画く新緑の爽やかさ」の表現の床しさを読書によって，養われることを願います。

12．学校で良書の推選，読後の感想文でもかかせるようにして頂きたい。

13．授業の時間後に30分でも1時間でも読書の時間を学校内にもたせ，本になじませ，自ら好きにならせば，自分で暇をみつけて読むようになると私は思っています。

14．のびのびと別な本も読める時間がほしい。

15．学校で短時間でも読書会をして，てきとうに読書のもつ有意義なあり方を御指導願えたら（根本的に教えなくては何もならない）

16．戦前のような教育をしてほしい。

17．テレビも修身的な放送をしてほしい。

18．長編物でなくても，せめて岩波文庫のような短いも

のから読むようにすれば興味が出てくるのではないかと思います。

19. 先生の言葉は信頼するようですので，先生の学生時代に読まれた本の良点をおもしろそうに話して，関心を引きつけるようにしてほしい。

b 私見

読書をしない理由として，テレビ視聴が圧倒的に多い。親と子の時代の変革の最大のシンボルが，テレビであり，現に子供自身も，多忙な中にも2時間位のテレビ視聴はどうしても欠かすことの出来ないものとして，認めている。

戦後のマスコミの大きな波が，子供の生活を変え，大人がそれを見る時，自らもそのマスメディアに動かされながらも，批判的であったことはたしかである。

しかし，この親の意見を読んでみて，第1に感じたことは，2・3年以前と違って，たとえその原因をテレビと考えても，それを嘆き「白痴化」される憂いを訴えるものは余りみられないことである。なかには最早読書への期待をなげすてるような「諦め型」や，過去の読書の良点を「テレビ番組」の中に求める親もある。しかし多くの親たちの考えることは，なんとかしてこの現実においても読書をさせたいという気持ちには変わりがない。

現在の中学生の学習に対する批判も2・3ある。しかし子供たちの作文の中で家に帰って後も，塾通いや習い事のために，ほとんど読書が出来ないという現状には，親自身の考えの中に矛盾があるような気がする。それを強要する根本は，学校側に責任があるが，子供の心を或る程度無視した，或いは親の考えの矛盾を作り出す教育の在り方は，大いに批判されるべきであろう。第三者の立場に立つと，親自身も，現在の学習の在り方を批判し，「社会的に大いに反省する必要がある」と言うが，現実において我が子の問題となると，読書よりも成績席次の向上をめざす教育ママの存在は，それを指導する先生と共に反省すべきであろう。中学生になって勉強が多くなったから読書が出来ないと，諦めてしまうことにも危険がある。子供の希望を十分理解する親であってほしい。親の希望の中に，子供の希望と共通する点が2・3みられるが，その最も多いのは，読書時間の設置であり，通り一ぺんの国語指導よりも読書指導を含んだものであってほしい要望である。この点は子供の希望と共に考え合わせて見ると，家庭における読書のむずかしさ，家庭環境の喧騒さが原因である。この点からも早急に学校図書館が，これらの要望に答えられる方向へと歩むべきであろう。

又，希望の中にも見られる如く，「何を子供に与えるべきか」という無知がたくさんある。中学生に適した書物の宣伝，啓蒙を今一度再検討し，大きく親たちに知らさねばならない。それを求めている親の姿をみつめ，積極的に働きかける学校図書館でなければならない。

3. 結　　論

「言うは易く，行いは難し」と言われるが，現代の中学生の読書生活の問題点は，早急かつ簡単に処理出来るものではない。私が取り上げた「何故読書が出来にくいか」という点も，テレビを筆頭にしたマスメディアをはじめ，学習問題，社会環境等今までにも数多くその問題点があげられている。しかし○×式の調査結果ではどうしても深くさぐり得ない壁がある。彼等の「読書出来にくい」原因を，彼等の告白の中から，つかみとろうと考えたのである。予備調査の(e)は予想以上の結果を生み，作文も親の意見と共に考えさせられる点が多く含まれている。

読書の必要性を認識し，読書への意欲を持つ彼等が，テレビというマスメディアの歯車の中でその良し悪しを判断しつつも毎日少なからず視聴し，家庭学習という半ば強制的な圧力に抵抗しつつも服従し，少い時間の中で多くのことをしたい欲求にかり立てられている。彼等の中には，ぼんやりと生活を送っているものがあったとしても，その心の中は，何かにかり立てられる焦操的気分があるならばこそ，彼等は静かに読書の出来る状態を希望しているのである。いろいろな希望が述べられ，いろいろな原因，理由を知ることが出来たが，その中でも特

に「学校内における読書時間の要求」は，現実に不可能な点を多々含んでいるであろうが，私はこの声こそ真剣に考えとりくんで行かねばならない重要な問題点と思う。家庭の読書が「テレビ」「学習」「塾通い」と時間的に制約され，たとえ少い時間でも読書をするという行動に出られない彼等に，指針を与え，活力を与え，読書に対する認識を少しでも実行に移せるには，矢張り学校の時間内にそれをとりあげるのが一番必要であろう。そしてそれが彼等の要求であるならば，私はこの方面に結集する学校図書館関係者の努力と，それがよりスムーズに運ばれるための大きな力による運動を展開さすべきだと切実に思うのである。テレビが読書に果たす益も多い。現にテレビが読書の動機づけになっている例も多々見られる。また家庭学習も一朝一夕にかたずけることが出来ない。つまり現代の中学生の時間的制約は，1つの時代の大きな流れとして矢張り見まもらねばならない点が多々ある。

親にしても，読書の必要性をときながら，教育ママの領域は自ら狭い勉強の範囲に中学生をとじこめてしまっている。そんな中で，読書は決してみすてられているのではない。読書の出来にくい現状の中から，生み出せるものは，一体何か。新しい読書生活へのいざないを，学校図書館が中心となって，積極的にやらねばならないのである。

その一環として，親の意見の中にも十分見られるように，中学生を持つ親への啓蒙運動も積極的に行う必要がある。子供に与える書物にとまどっている親が，如何に多いことか。公共図書館や，日刊新聞も定期的に行なってはいるが，矢張り学校図書館が中心になって，その道しるべをはっきり指示することが，大切である。出来うれば，定期的な会合が開かれ，一体となって推進することが出来れば尚更いい。

激しい社会の流れと，喧騒な社会環境の中ではぐくまれる現代の中学生の読書生活は，独自の判断でまかせられる過去の形式では，とり残される数多くの者を生み出してしまう。そこに，学校・指導者を中心とした強力な体制と，それにともなう確固たる信念の下で，彼等を導く積極的な協力活動が必要であろう。

読書指導の実験的研究*

——シートを利用して——

大阪市教育研究所

合田　修**

1. 研究のめあて

読書指導には三つの要素が考えられる。その1は読書素材がよいものでなければならないということ，すなわち良書の選択である。その2は，その良書が読み手にとって適書であることの確認で，すなわち読書相談である。その3は，その読書によって読み手がよい読者として向上させること，すなわち読みとりの技術を高める指導である。この研究は第3の要素について実験したものである。

さて実際の読書活動は，①動機付けと，②読書相談と③事前指導との三つの脚に支えられて始まる。これがさらに上に向かって鑑賞力→批判力→人格の変容というように展開していくためには，その前に読書活動の過程を再確認することが必要である。その確認が強いほど，読書生活の質的な高まりが大きくなると考えられる。この読書過程を再確認する作業は，プログラム化されるはずである。私はここに着眼して，プログラム・シートの作製およびその効果をためしてみようとしたのである。

2. 研究の仮説のねらい

読書指導の過程をプログラム化することは次のようなねらいをもっている。教育において重要なことは，子どもから引き出す仕事と共に，子どもの心の中に定着させることにも価値がある。子どもが読書中に受けた感動がどの程度，読書後定着されてのこるものだろうか。この実験を10名ほどの児童をつかって行なってみた。その1例を次にあげる。

(1) 実験児童——小学校3年女児・IQ119，RQ132

この児童は国語学習が特にすぐれ，教室での発言も多く，成績は上位である。

(2) 実験方法——「三日目のかやのみ」（浜田広介）を読ませ，読書中の感想を自由に発表させたのを本文と対照しながら記録した。（モノローグ法—読書科学27号参照）この記録の上に，読書後の感想文をのせて比較を試みた。

内容区分	読書中の感想	読書後の感想
1	・毎日つぐみはとんでいるが，つかれはしないだろうか。 ・えさをみつけることは，大変なことだなあ。	
2	・雨の中をとんだら，羽がぬれてつかれないだろうか。 ・「くいくい」はつぐみの鳴く声のようすがよくわかる。 ・自分のぬくみで羽を乾かすようすがおもしろい。 ・親つぐみがかわいそうだ。早くなおってほしい。	
3	・父は死ぬかもしれない。 ・父が死んだら，子どもがかわいそうだ。	・つぐみのおとうさんは死にそうになっていたのはかわいそうだ。 ・三びきのむすこを残して死ぬのはむすこたちが，かわいそうだ。
4	・かやの実が食べられたら，父は助かるかも知れない。 ・父がかやの実を食べたがっている気持がよくわかる。	
6	・兄はかやの実をさがさなかったので父はかわいそうだ。	・とうさんは一ばん上の兄さんに，かやの実を一つとってきてくれとたのみました

* An experimental study of reading guidance, —with program sheets

** GOHDA, Osamu. (Osaka Institute of Educational Research)

	・おしゃべりをして，さがさなかったのに父にはうそを言ったので兄のつぐみは悪い鳥だ。	・一ばん上のつぐみはすずめとおしゃべりをして，とうさんつぐみに，「さがしたがありません」と言ったところは，とうさんつぐみがかわいそうだ。
6		
7	・中の兄もおしゃべりをしてさがさなかったので，父はかわいそうだ。 ・中の兄は父思いではなかった。	・二ばん目のつぐみも同じでした。
8	・父の声が細く弱ってきたのは，父に心配させたからだ。 ・弟つぐみも，かやの実をさがさなかったのかな。	
9	・雪の中をとんでいった弟は，やさしい心をもっている。 ・かやの実を弟ははきっと持って帰ると思う。 ・百本もかやの木をつついたのでくちばしが痛かったろう。 ・「あしたきなさい，つぐみさん」と言ったのは誰の声だろう。不思議だ。 ・かやの実を弟つぐみは，明日もさがしにいってほしいと思う。 ・弟つぐみはやさしいから，明日もきっとさがしに行くだろう。	
10	・雨の中をとんでいたのは父思いのつぐみだ。 ・かやの木に花が咲いて，うれしかった。 ・父は弱わってきたので，本当に死ぬかも知れない。	
11	・三日目もかやの実をさがしたのは，かやの木の言葉を素直に聞いたからだ。 ・父は本当に喜んだだろう。わたしもうれしい。 ・兄たちは本当に悪いことをしたと，わかったと思う。	・三ばん目はゆうかんに，二，三日同じところへ行って，とうとう，かやの実をとり入れました。 ・とうさんつぐみはよろこんだことでしょう。

その結果をまとめたのがこの表である。これを見てもわかるように，この児童はかなりの反応を読書中にしている。しかし，読書後のまとまりをみると予想外にすくない。成績もよくかなりの読書能力をもつ子どもも，この程度のまとまりしかとれない。言いかえれば定着されていない。この定着させる作業があれば，かなり深い読みとりがなされ，また，読書のスキルとして，他の作品を読む態度となるのではないかと予想される。

したがって，この仮説のねらいの第一は，読書活動の結果を確認することによって，読みとったことを定着させることである。第2は読書技術を身につけることによって，他の初めて接する作品の読み取りに応用ができて，効果のある能率的な読書が可能になると考えられる。

3. 読書指導のプログラム化について

プログラム学習は，子どもが筋道を立てて考える論理的な思考態度を向上させている。読書指導の中にもこの長所を取り入れることができると思う。問題となるのは，数計算や物理的教材に適用されたプログラムとはやや異る方法によって考えねばならぬ点である。

プログラム化することによって，次のような利点が考えられる。

(1) 読書能力の差の解消

読書能力の個人差は他の教科におけるより以上に大きい。このことは現在の学級集団の中での一斉指導の限界をこえたものであり，プログラム化することにより，個人差に応じた指導が可能になる。

(2) 読書思考の責任性

人間が思考するのは個人であり，その個人が自己の責任の中で考える事である。集団読書の欠陥は責任性の弱い点である。学習者ひとりひとりに話しかける型式をふむプログラムは，子どもの思考を前進させるものである。

(3) 創造力の育成

プログラム学習は心理的に構成された方式であり，子ども中心である。子どもが主人公である学習は能動的であり，意欲的となる。とくに読書においての能動的な態度は創造力に結びつき，判断力や批判力を高める。また創造的人間への力ともなる。

(4) 指導法の能率化

読書活動は読解作業を基礎においたものであり，一種のスキルでもある。スキルとしての技能を身につけることは読書法の能率を高める。とくに出版が多種多量となり，その消化に子どもたちが苦労している時，必要な力である。

4. 研究の対象と方法

小学校の児童を対象として，今回は童話・物語の読みとりを主とした研究を試みた。基礎調査をするために，本年は4年生2学級と5年生2学級をとりあげた。方法

の概要はつぎのようである。

(1) 試作したシートで指導をおこなった学級と，読書指導を特別にとりあげておこなわない学級を設定し，前者を実験群，後者を統制群とした。

(2) 実験群は同一図書の読書後，それに対する読書感想文をかかせ，その後，準備された方法で学習をし，再び読書感想文をかかせた。

統制群も同一図書の読書をするが，何ら指導を行なわないで二回読書感想文をかかせ，よい方をとった。

(3) 読書による心の高まりは内面的であるので，外部に表現される割合はすくない。また，作品についての考え方も個別的で，人によってかなりの差があり，その内容を知ることは困難である。しかし，何らかの方法で豊かな心情への深まりを知ることが，指導者として必要であるので，不完全ではあるが読書感想文の評価をもって実証を試みた。したがって，読書感想文の評価基準を新しく設定した。

5. 読書感想文の評価基準

読んだ作品に対しての個人的な考え方や，受けた感動を表現したものが，読書感想文である。したがって，鑑賞には主観的な要素が多く入るので，細かい評価はむずかしい。また，読書感想文には二つの要素がある。それは読書中の思考過程においてなされた読解作用で得た鑑賞力と，作文としての表現能力の二つである。読書感想文の評価には読む人への説得力の有無が大きな割合を占め，この表現力が重視され勝ちである。しかし，この調査は，豊かな心情の高まりがどうなされたかが中心となるので，表現能力よりは内容に重点を置き，主題の把握とそれによる自己の人格の変容がどのようになされたかを基準にした。評価の基準については次のよのなものを作成した。

評定	類型	特徴
1	無答や誤答に近い読書感想文	・感想文が書けない。 ・感想に当る部分がない。 ・間違った感想が述べられている。
2	部分的なあらすじが述べられた読書感想文	・あらすじが部分的で主題にふれる割合が少ない。 ・主題に関係しない感想であるので当を得ない。
3	あらすじや印象が簡単な読書感想文	・読後の印象が「おもしろい」「かなしい」などの感情で簡単に述べられている。 ・あいまいな感想である。 ・あらすじのまとまりが少ない。
4	あらすじが，かなり正確にとらえられた読書感想文	・あらすじの読みとりがかなり正確で，作品の主題をよく表現している。 ・読後の感想はまだ印象的な表現で，深まりが不足している。
5	内容に即した感想を表明した読書感想文	・感想の理由を作品の中から見い出している。 ・印象を「……だからこう思う」などの具体的な言葉で表現されている。 ・あらすじや主題を正確に把握して，まとまりがある。
6	批判的な意見が見られる読書感想文	・自分の過去の経験や本などによって得た知識から，作品の内容を比較し，批判的に自分の考えを述べている
7	態度の変容が見られる読書感想文	・現在の自分との関係から意見を述べ，態度の変容が見られる。 ・自分が主人公や脇役の立場となって，前進的・解決的な感想や意見がのべられている。

以上の七段階の評価の基準により評定し，1点より7点までの得点に区分した。これに読書感想文の字数を加味し，長さを三段階に分けて，最高が3点，内容と合計して10点満点法により評定をする。

評定	長さ 4年	長さ 5年
0		1枚未満
1	1枚未満	2枚未満
2	1枚以上	3枚未満
3	2枚以上	3枚以上

長さは400字詰原稿用紙を単位とした概略のものである。なぜ，文の長さを加味したかは過去のわたしの指導経験にもとずいたものであり，この程度の区分は妥当と思われる。

6. プログラムの例

(1) ごんぎつね　新美南吉著

4年用の指導事例として「ごんぎつね」をとりあげた。その学習をすすめるためにプログラム化をしたのが次の例である。

	月　日　年　組　名まえ（　）	
おはなし	ごんぎつね　新美南吉	こたえ
1	このお話にでてくる　ふたりの主人公の名まえをかいてください。 1. [　]　2. [　]	ア
2	このお話にでてくるもので，かんけいのあるものを4つえらんで○をつけなさい。 1. 木　2. いわし　3. とけい　4. ひがん花 5. 火なわ銃　6. うなぎ　7. 神さま　8. くり	エ
3	「ごんぎつね」というだいでしたね。このだいのかわりに，ちがうだいをつけると，どんなだいがよいでしょうか。○を1つつけてください。 1. わるいきつね　2. いたずらきつね　3. 兵十のしっぱい 4. ごんの死　5. やさしいごん	キ
4	この話は，どんなじゅんじょで進んでいきましたか。よいと思うものを1つえらんで，○をつけなさい。 1. 〔いたずら〕→〔さかなをにがす〕→〔そうしき〕→〔いわしをぬすむ〕→〔くりをとどける〕→〔神さまのしわざ〕→〔見つかる〕→〔うたれる〕 2. 〔いたずら〕→〔いわしをぬすむ〕→〔さかなをにがす〕→〔くりをとどける〕→〔神さまのしわざ〕→〔見つかる〕→〔うたれる〕→〔そうしき〕	ウ
5	この話をみじかい文に書きました。どれが一ばんよいか。○をつけなさい。 1. ごんぎつねは，いわしをぬすんだので，兵十のひなわ銃でうたれて死んでしまった。 2. ごんぎつねは，いわしや，くりなどをはこんだが，兵十は気づかず，鉄砲でうちころしてしまった。 3. 兵十がおかあさんのため，とろうとしたうなぎを，ごんぎつねがぬすんだ。そのため，兵十の火なわ銃でころされた。	オ
6	このお話は6つにわかれています。このお話でたいせつなところはどこでしょう。2つだけ○をつけなさい。 1. ごんが兵十のふなや，うなぎをぬすんだ。 2. ごんは兵十のおかあさんのそうしきにであった。 3. いわしをぬすみ，兵十のいえになげこんだ。つぎには，くりやまつたけをおいた。 4. 兵十は大へんふしぎに思った。 5. ごんのしたことを兵十は神さまのしわざと思った。 6. ごんは兵十の火なわ銃でうたれた。	ク
7	ごんが兵十のさかなとりにいたずらをしたのは，なぜでしょうか。1つえらんで，○をつけなさい。 1. ごんはいつもおなかをすかしていたので，さかなが食べたかった。 2. ごんは兵十がこまるのを見ると，うれしいからである。 3. ごんはひとりぼっちでさびしいからである。	イ

8	ごんは，兵十のために，いわしうりから，いわしをぬすんで，よいことをしたと思ったのは，なぜでしょう。下にそのわけをかいてください。	
9	いわしのかわりに，くりやまつたけをもっていった。これを兵十は神さまのしわざと思った。ごんはつまらないと思ったがやめなかった。どういうわけでしょう。1つえらんで○をつけなさい。 1. ごんはいわしで兵十にめいわくをかけたからである。 2. いつかはごんのしたことだと思われると思ったからである。 3. ごんはいたずらだが，ほんとうは，やさしい心があり，兵十のおかあさんのつぐないのつもりでやった。	カ
10	ごんをうった兵十が「おまえがくりをくれたのか」といった。なぜ兵十がそういったのでしょうか。	
11	火なわ銃でうたれたごんは，兵十のことばをきいて，うなずきました。この時，ごんは心の中で，どんなことをいったと思いますか。下にかいてください。	
12	あなたは兵十のしたことをどう思いますか。下にかいてください。	
13	こののち，兵十はどんな気持でまい日をくらしたいと思いますか。下にかいてください。	

こ た え

ア	1. ごんぎつね　2. 兵十	カ	3
イ	3	キ	5か，4か，3
ウ	1	ク	2 と 6
エ	2，5，6，8		ほかのこたえは，先生に見ていただきましょう。
オ	2		

(2) 杜子春　芥川竜之介

5年用として利用したプログラム

	月　日　年　組　名前（　）	
作品	杜子春（とし しゅん）　芥川龍之介（あくたがわ りゅうのすけ）	

1	どこの国の人々の物語ですか。よいのに○をつけなさい。 1. 日　本　　2. 中　国　　3. イ ン ド　　4. イギリス	ア
2	このお話の場所は4つに変っています。変った順に，その場所の番号を入れなさい。（同じ番号を2回つかってもよい） 1. かび山　2. とうの都らくよう　3. しんら殿（でん）　こたえ［　　］	ウ
3	この物語にでてくる人のうち，たいせつな役目をしている人，3人をさがし，○をつけてください。 1. 神（しん）しょう　2. 杜子春　3. 神兵（しんぺん）　4. 鉄かん子　5. 父母　6. えんま大王	カ
4	この話に書かれたことは，次の4つのうち，どれが一番よくあてはまるでしょうか。1つだけ○をつけてください。 1. じごくのおそろしい話が書いてある。 2. せんにんになるためのしかたが書いてある。 3. せんにんになるより，おかあさんの苦しみをすくうことがたいせつである。 4. こえを出さないということは大へんつらいことである。 5. 人はどんな生き方がよいかを書いてある。	イ
5	杜子春が三度目に老人にあった時，もう一度，おうごんのあり場所をきかなかったのは，なぜでしょう。1つだけ○をつけてください。 1. 杜子春はぜいたくなくらしにあいてしまった。 2. お金だけでは，本当のよい友だちができなかった。 3. お金は，すぐなくなってしまうことがわかった。	オ
6	この話は6つに分かれています。どのところが一番たいせつですか。1つえらんで○をつけなさい。 1. 杜子春は老人から，おう金のあり場所をきいた。 2. お金がたくさんある間は，友だちが大ぜいやってきた。 3. お金よりも，せんにんにしてほしいとたのんだ。 4. かび山で，せんにんになる，しゅぎょうをした。 5. 地ごくで，母の苦しんでいるのを見て，声を出した。 6. 杜子春は，人間らしい，しょうじきなくらしをすることにきめた。	エ
7	杜子春は，なぜせんにんのでしになろうとしたのでしょう。 ［　　］	
8	杜子春は地ごくで，母が「おまえさえ　しあわせになれるのなら……」といったのに「おかあさん」といいましたね。なぜ声をだしたのでしょう。 ［　　］	
9	あなたが杜子春のように，目の前でおかあさんがうたれた時，声をだしますか。また，しんぼうして，せんにんになりますか。どちらかに○をして，そのわけも書いてください。 1. 声を出してしまう。 2. しんぼうして，せんにんになる。 わけ［　　］	
	杜子春は「せんにんになれなかったことがうれしい」といいました。なぜでしょう。そのわけを下にかいてください。	

10		
11	杜子春はこれから，どんな人間になろうと考えていたのでしょうか。杜子春になったつもりで，くわしく書いてください。	
12	この文をつくった作者は，なぜ杜子春をせんにんにしなかったのでしょう。下にそのわけを考えて書いてください。	
13	この文の作者「芥川龍之介」には，下のような作品があります。よんだことのあるのに，○をつけてごらんなさい。読んでないのがあれば，読んでみましょう。 1. くもの糸　2. ふえと犬　3. まじつ　4. アグニの神　5. 三つのふえ	

こ た え

ア	②	エ	⑥
イ	⑤	オ	②
ウ	2 | 1 | 3 | 2	カ	②　④　⑤

7. 実験の結果

(1) 「ごんぎつね」の実験結果

4年生にこのプログラムを与えて学習をした学級と，指導をしなかった学級との比較は第1表のようになる。

第1表　両群の感想文の比較（人数）

評価点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	評価点平均
実験群	0	2	3	4	7	6	6	4	1	0	33	5.55
統制群	0	7	11	0	8	4	2	0	0	0	32	3.91

また，実験群における指導前と指導後の読書感想文の評価結果は次のようになった。

第2表　指導前と後の感想文の比較（人数）

評価点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	評価点平均
指導前	0	3	15	1	5	7	2	0	0	0	33	4.12
指導後	0	2	3	4	7	6	6	4	1	0	33	5.55

(2) 「杜子春」の実験結果

5年生にプログラムで学習した場合と，その学習以前の場合を，読書感想文で比較をした結果は次の第3表のとおりである。

第3表　指導前と後の感想文の比較（人数）

評価点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	評価点平均
指導前	2	7	9	4	5	5	1	0	1	0	34	3.82
指導後	0	1	1	2	7	9	8	4	1	1	34	6.14

両者の散布度を標準偏差であらわすと，次のようである。

指　導　前　　SD＝3.606

指　導　後　　SD＝2.642

また　$P<0.001$　の数価が得られ，きわめて高い有意差があると思われる。

第4表　両群の感想文の比較（人数）

評価点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計	評価点平均
実験群	0	1	1	2	7	9	8	4	1	1	34	6.14
統制群	1	5	10	7	4	4	1	0	0	0	32	3.75

二つの学年の実験から，プログラムを使用することに

より，読書感想文を通して子どもひとりひとりが進歩している事が洞察できる。勿論少ない指導事例でしかも短かい期間についての結果であるので，確定的なことは言えないので，今後もこの調査を進めたい。

8. プログラミングのステージとその要素

プログラム作成について事前調査として二つの方法が考えられた。第一は今までの手もとにある読書感想文の傾向を調査し，その中から，指導しておく方がいいと考えるものの抽出である。第二は実際の読書指導の学習の流れから，大切なことを抽出した。その結果から，大きく四つのステージに分け，さらに各ステージに含まれる要素を考えてみた。各要素については作品によって不必要なものもあるので，プログラム作成時には，取捨選択する必要がある。

(1) 予備のステージ
- ア 登場人物の確認をする。
- イ 登場人物のタイプを知る。
- ウ 素材を認識する。
- エ 作品の題名を意識する。

(2) 主題のステージ
- ア 場面の構成をとらえる。
- イ あらすじの要約をする。
- ウ 主題認識へ進む

(3) 展開のステージ
- ア 事件の変化を知る。
- イ 人物の行動と変化を知る。
- ウ 大切な会話を見い出す。
- エ 大切な段落を見い出す。
- オ 主題に迫る話題を見い出す。

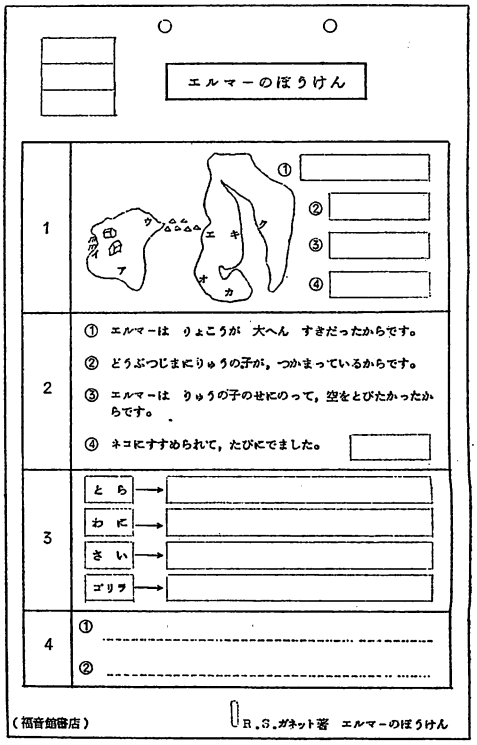
(4) 整理のステージ
- ア 心に残ったものをまとめる。
- イ 主人公の立場になって批判する。
- ウ 今の生活と結びつけて考える。

9. ペーパープログラムの欠陥とその解決

プログラムの例を見てもわかるとおり，指導者の要求が多くなれば，ステップの細分化となって，内容が多量になる。読書すること自体が活字への抵抗が大きいので，作品を読みとおすこと自身がかなりの苦労である。読書後さらに文字をつかった問題を読みとることは学習意欲をさまたげる危険がある。また，最初に考えた個別化を実施するためにも，話しかける形式が重要である。そこで，問題の一部の音声化を企画した。音声化することは低学年や読書不振児に喜ばれ，実際読書指導の上でもよい効果をあげることができた。

音声化するために，シンクロファックス（理工発売品）を使用した。これの利点，使用法，シートの作成法は別の機会にゆずり，シートの一例をつけ加えるだけにする。

シートの表面



録音内容

エルマーのぼうけん

この話にでてくる 少年の名前は どんな名でした

か。フレーム１の①の□に書いてください』

エルマー・エレベーターと書けましたか。とてもかわったおかしい名前でしたね。エルマーの船はどこの港についたのでしょう。地図を見て，②の□にしるしを書きなさい』

みかん島のクランベリーですから(イ)ですね。エルマーの歩いた道順を考えて見ましょう。(ウ)から(エ)にわたったのですが，とても暗いジャングルに入りましたね。(3)の□にそのところを書いてごらんなさい』

(カ)ですね。ここから道をまちがえて，いろいろなこわい動物にあいました。リュウの子はどこにつながれているのでしょう。そのしるしを④の□にかきなさい』

(ク)ですね。ではもう一度エルマーのあるいた道を地図でおさえていってください』

なぜエルマーは動物島へ行くことになったのでしょう。フレームのこの①から④までのうち，よいものをさがして，うしろの□に書きなさい』

②となりましたか。フレーム３を見てください。エルマーはいろいろな品物を用意したので，おそろしい動物から助かりましたね。どんなものをもっていきましたか。左に動物の名をかきました。右がわに使った品物の名前を書いてください』

とらにはチューインガム，わにには桃いろのほうづきキャンデーとわゴム，さいには歯ブラシとチューブ入りの歯みがき，ゴリラには虫めがねですね。全部まちがわずに書けましたか。その中で，一番おもしろかったのは，どれでしょう。フレームの①にその仕方を書いてください。

エルマーとリュウは，仲よしになりましたね。これからエルマーとリュウはどんな旅行をするでしょう。どんなところへ行ってほしいか。皆さんの希望をエルマーに頼んでみましょう。その希望を②に書いてください』

注　』は，ストップボタンで機械をとめて，作業をするためのチャイムの音を示している。

10. 今後の問題点

この研究は読書指導のためのプログラム化の実験をシートなどを利用して進めてみたものである。素材は童話・物語などに限定したが，これ以外の種類の図書についても考えねばならぬ問題であり，低学年ではさらに配慮しなければならぬ点があると思う。

今回は文学的な作品を主にして，やや内容追求においたが，読み方としては，ただ楽しむために，のんびりと読む場合もあるだろう。そのほか，読書興味を育てたり，図書の選択能力を高めるための読書指導もあり，それに適合した指導法も今後の課題である。ささやかなこの実験が図書を与える時の一つの手がかりとなり，これを基礎にして，よりよい読書生活に子どもが向ってくれるならば幸である。

一幼児の絵本にたいする反応の研究*

東京都田園調布小学校

岡　田　　明**

【1】 研究のめあて

幼児に絵本があたえられたときに，どのような言語による反応や行動の変化がみられるか，また，それらの反応がどのように発達するか。これらの諸問題を，一幼児の2才1か月から，3才10か月に，一応時期をかぎって，実証的にあきらかにしようとしたのが，この研究である。なお，2才1か月から2才6か月までの成果については，日本読書学会第7回大会で，2才7月から3才0月までの成果については，日本心理学会第27回大会で，3才1月から3才10月までの成果については日本読書学会第8回大会で，発表ずみである。

なお研究は続行中であるが，今までにあらわれた成果から，幼児の絵本にたいする反応について，その発達段階の仮説的な提言や20分間読書の効果や絵本の内容の批判などもおこなうつもりである。

【2】 研究の方法

部屋の中に，丸テーブルだけを置き，その上に一冊の絵本だけをおく。その前に，被験者がすわり，実験者と記録者はその両はじにいる。絵本があたえられてから，それを聞きあきたり，又はそれを見あきるまで，被験者は絵本にたいして自由に反応することが許されている。実験事態ではすべてが非指示的に進行したので，実験者が質問したり，示唆したりすることは，一切しない。一方，そこで表出された言語行動ならびに動作は，すべて記録するように心がけた。日曜日ごとに実施する計画であったが，被験者の都合などから計画どおりに施行することはできなかった。そこで一月平均3～5回にわたって，実施したことになる。どの場合にも，被験者が飽和に達するまで実施した。なお実験事態の条件をあきらかにするために，次のような条件を付記しておくことにした。実施時刻，気温天気，健康状態，雑音，絵本の名，ページ数，1ページあたりの字数などである。

なお被験者は，山下幼児発達検査によれば I.Q. で141である。2才10月の時点で検査したものである。また，身長・体重とも標準を上まわっている。

【3】 結　　果

いままでに述べた問題意識と方法論によって導かれて出てきた結果を，次のような視点から整理することにした。言語行動や動作はどのように発達してきているか，飽和までの時間はどのように変化するか，絵本の文字数と飽和までの時間の関係はどう変わるか，どのページを多く読むか，ページをめくる順序はどのように変化するか，などである。

なお，カテゴライズされた項目は，意味的ゲシタルトを基本としたので，文のときも，単語のときもあった。さらには，文章のときもあったのである。まず，言語行動の発達から眺めてみよう。

表1には言語行動を主として発生順に分析したものが示されている。よって，それは体系的には並べられてはいない。

全体的に見ると，絵本の内容などについて聞く「質問」，被験者の述べるいろいろな「要求」，絵を説明する

* A research on an infant's responses to the picture books.

** OKADA, Akira (Denenchōfu primary school, Tokyo)

表1 言語反応の分析

満年月	2:1	2:2	2:3	2:4	2:5	2:6	2:7	2:8	2:9	2:10	2:11	3:0	3:1	3:2	3:3	3:4	3:5	3:6	3:7	3:8	3:9	3:10
質問	5.5	7.7	5.6	0.5	4.3	5.0	9.3	13.7	25.3	23.0	22.0	22.5	9.5	43.0	45.0	25.5	22.0	20.5	19.5	10.5	11.5	3.5
予測	0.3	0.3	1.2	1.0		1.0				0.3		0.5	0.5									
感想	1.5	2.0	1.2	4.0	0.3	1.0			1.7	1.0	1.8		0.5	4.3	6.5	5.5	6.3	0.5	8.5	7.5	4.5	2.5
要求	21.0	22.6	10.4	17.0	16.0	22.0	18.7	11.0	13.3	32.7	20.3	20.5	7.5	30.7	7.5	6.5	16.0	14.0	12.5	2.5	5.5	5.5
説明	21.3	10.3	6.8	8.0	10.0	28.0	14.3	8.0	22.3	5.0	5.3	14.5	10.0	25.0	4.5	21.5	14.0	9.0	11.5	9.5	6.5	11.5
復唱	2.3	2.0	5.8	1.5	3.3	2.0	3.0	2.0	3.0	3.0	0.8	2.0	2.0	4.3	3.5	4.5	3.0	3.0	1.0			
感歎詞	0.3	2.0	0.6		0.7		2.3	2.3	5.3	0.3	0.5	2.5		1.0			0.3					
無関係な発言	0.8	0.7	1.0	1.5	1.3	3.0	3.7	0.3					0.5	0.3				0.5				
飽和		1.7	2.0	1.0	2.0	1.0	1.7	1.0	1.0	1.7	1.5	2.0	0.5	0.5			0.3	0.5	1.0			
批判		1.7	1.4		0.3				1.0		3.0	0.5	4.5	2.7	3.0	1.5	1.0	2.0	1.5	2.5	0.5	
連想		0.3	0.2						0.3	0.7	0.3		0.5	0.3	2.5	3.0	1.3	0.5	1.0		0.5	
句読点への反応				1.0					0.3													
文字に対する反応				0.1					0.3	2.0	1.0	1.5			1.0			1.0				
模倣				0.5				1.0	0.3					1.7								
記憶					0.3	2.0	1.0	1.0	0.3				0.5	1.7		1.5	0.3	2.5	2.5		0.5	1.5
要約										0.7												
笑声																						
数字に対する反応									0.3						3.0			0.5				
よびかけ	0.3		1.0	0.5							0.3											
私が読む				1.0							0.3											
なんだかわからない										1.7												
数える													1.0									
音読													1.0	14.0	1.0	12.5	5.0	5.5	4.5	1.0	0.5	2.5
比較													2.0		0.3							
微音読																						
その他	1.5	3.7	0.5	1.5			0.3	1.0	1.7				5.0	1.3	3.0	3.5	2.3	2.5	1.0	1.0	1.0	1.5

注：数字は一絵本あたりの月平均反応数

「説明」などに多くの頻数があつまっている。

つぎに項目ごとに，その発達のようすを眺めてみよう。

まず「質問」であるが，2才1月からもかなり見られるが，2才7月ごろから，急にふえだしている。

これから話がこうなるだろうという「予測」については，2才1月から少しずつ見られるが，3才2月以後は見られていない。

感想も，2才1月から出ているが，3才2月から急にふえ出している。

「これは何である。何をしている。」のたぐいの陳述は「説明」の項にカテゴライズされているが，終始コンスタントにあらわれている。

実験者のいったことと同じことをくりかえす「復唱」は，頻数こそ少ないが，ほとんど全期にわたってみられる。ただ3才8月以後は見られない。

絵本と「無関係な発言」は2才9月以後ほとんどみられていない。

絵本に対する「批判」は，2才9月以後ふえる傾向がある。もちろん，それ以前にも少しはあらわれている。

絵本からの「連想」を言語化した行動も，2才2月，2才3月にわずかにみられるが，2才9月以後は大体コンスタントにあらわれている。

文章の構成要素である文字に対する反応は，2才4月にはじめてあらわれ，2才9月から3才6月までほとんどコンスタントにあらわれる傾向がある。

「模倣」も，2才4月，8月，9月および3才2月にあらわれている。

「記憶」は，2才5月に，はじめてあらわれ，その後ずっとかなりの頻数がでいてる。

文章を短かく「要約」する行動は，2才10月にみられるだけで，その前後には見られない。

「数字に対する反応」，(これは実験のために実験者がわざわざ添加した数字，それはふつうの絵本には見られないものであるが) それに対する反応は2才9月，3才3月，6月にあらわれているだけである。

表2　動　作　の　分　析

満　年　月	2:1	2:2	2:3	2:4	2:5	2:6	2:7	2:8	2:9	2:10	2:11	3:0	3:1	3:2	3:3	3:4	3:5	3:6	3:7	3:8	3:9	3:10
先をパラパラめくる・笑う	1.3 1.0	0.7	0.2								0.3			0.3			0.3	1.0				1.5
飽和	2.0	1.7	1.4	1.0	0.5	1.0	1.0			1.7	1.0		3.0	0.9		1.5	0.3	0.5	1.0	1.0	1.5	
逆にパラパラめくる	0.3				0.3	1.0	0.7	0.3														
実験者の顔をみる	0.5	0.7																				
表紙のボール紙をはがす	0.5																					
読むのにあわせて身体をふる	0.3	0.3	0.2																			
ためいき	0.3																					
連想に関係した動作	0.5						0.3				0.3			0.3			0.3					
絵を指さす	0.5											2.5										
身体をのり出す	0.3	0.3									0.5											
本をまわす	0.3																					
途中で次ページをめくる		0.7	0.2				0.3	0.3	0.3	1.3	1.0	1.0										
前ページとみくらべる			0.2		0.3					0.3		0.5	3.0	3.7		1.5	1.3	1.5	1.0	1.5	3.5	1.5
絵本のまね			0.6	0.5	0.3						0.5	0.5		1.3	1.0	1.5	1.7	4.0	1.0		1.0	
本をたててもつ			0.2	1.0	0.3		1.3	1.0	2.7	0.7	1.0	1.5	1.0	2.5		1.5	2.3	1.0			0.5	
えんぴつで書きたがる			0.4												1.0							
絵本を実験者の方へむける							0.3															
逆にたてる									0.3													
同情行為									0.3													
文字を指さす										3.0	1.0	8.0					1.0			1.0		2.0
首をかしげて考える										0.3												
実験者にページをひらかせる										0.3												
途中で本をとじる								0.3			0.5	0.5										
本のひらきぐせをつける													0.5	1.0				1.0				1.5
絵に対する感情表現													1.0	0.7				1.0	3.5	1.0	1.0	
独立よみのため実験者をおさえる																	0.3		0.5	1.0	1.5	0.7
その他	0.5	0.3	0.8				1.0			0.7	0.3	0.5	1.5	0.9	2.0	2.0	1.3	2.5	3.0	1.0	0.5	

「音読」は3才1月以後コンスタントにあらわれており，独立読みがここで始まっていることを示している。

2つのページを「比較」することも，3才1月および3才3月にあらわれている。

それ以前には見られなかった新奇反応をここで列挙してみると，つぎのようになる。

2才1月：質問・説明・予測・感想・復唱・感歎詞・主人公への呼びかけ。2才2月：批判。2才3月：連想・2才4月：文字に対する反応。2才5月：記憶。2才6月：実験者の先を言う。2才7月：要約。2才9月：数字に対する反応。3月1月：数えること・音読・比較。

つぎに，表2によって，被験者が示した動作についての分析を試みる。

全体的にみると，「飽和」に達したときの動作「絵本のまね」および「本をたててもつ」ことが，終始あらわれている。

「先をパラパラめくる」動作も，途中頻数がぬけてはいるが，初期にも後期にもみられる。ただ，質的に考察すると，その内容は多少ことなっているように思う。

「逆にパラパラめくる」行動は，2才9月以後はみられていない。

「長く，実験者の顔をみたり」「表紙のボール紙をはがそうとしたり」「読むのに合わせて身体をふったり」「本をぐるぐるまわす」などの行動は，初期にみられるだけで，それ以後にはみられない。

「連想に関連した動作」は，コンスタントではないが，長い期間にわたってみられる。

「途中で，つぎのページをめくる」行動は，3才0月まではみられるが，その後にはあらわれていない。

今よんでいるページを「前のページと見くらべる」行動は，2才3月にはじめてあらわれ，その後コンスタントにあらわれる傾向がある。「絵本のまね」に関係した

行動についても，「本をたててもつ」ということについても同様である。

「主人公に対して同情する行為」が，2才9月にみられる。

「文字を指さす」ことが，2才10月より始まっているが，この時期には独立読みのレディネスが潜在的についてきているのだと思う。

「本の開きぐせをつける」動作が3才1月以後でてきているが，絵本に対する適応の度を示すものとして興味がある。

「絵本に対する感情表現」行動が，同じ3才1月以後みられるが，内容を深く理解するようになってきたためだと考えられる。

「独立よみのために実験者の読むのを抑える」行動が3才5月以後みられるが，読む力がついてきたことをうら書きするだろう。

ここで動作に関する主な新奇反応をあらってみよう。

2才1月：表紙をはがす・パラパラめくる。2才2月：途中で，次のページをめくる。2才3月：前のページと見くらべる・本をたててもつ。2才9月：同情行為（自分の着物で主人公の涙をふいてやるなど)。2才10月：文字を指さす・考えこむ。3才1月：本の開きぐせをつける。3才5月：独立読みを始め，そのために実験者をおさえる。

つぎに飽和に達するまでの時間を眺めてみよう。

表3　飽和に達するまでの時間の発達

満年月	2:1	2:2	2:3	2:4	2:5	2:6	2:7	2:8	2:9	2:10	2:11
時間(分)	15.5	12.0	10.7	6.0	8.0	11.2	13.7	7.0	12.1	11.5	11.0
	3:0	3:1	3:2	3:3	3:4	3:5	3:6	3:7	3:8	3:9	3:10
	9.8	13.5	27.0	15.0	20.5	17.0	12.3	18.5	13.0	11.0	17.5

表3でみると，3才2月には平均27分間の興味の持続があり，これが最高記録である。一方，2才4月の6分間が最少持続時間だということになる。表をグラフに書きかえてみるとよくわかるのであるが，3才2月を中心にして，その前と後にそれぞれ二つの山がみられる。前の方では，2才4月と2才8月が底をつき，後の方では3才6月と3才9月が底辺を形成している。3才2月を中心に眺めると，それ以後が，それ以前よりも飽和までの時間が長いことは言うまでもない。全体的な傾向によって，四つのグループに時期をまとめると，2才1月より2才4月までが一期で持続時間は減少の一途をたどっている。2才5月から3才0月までが二期で，二つの山があるが，平均持続時間はおよそ10分である。3才1月より3才6月までが三期で，この時期に興味が長期に持続している。それ以後が四期である。総じて，持続時間は延びる傾向にある。

つぎに，飽和までの時間と一ページあたりの字数との相関係数を眺めてみよう。

表4　飽和までの時間と字数との相関(列位差法による)

満年月	2:1	2:2	2:3	2:4	2:5	2:6	2:7	2:8	2:9	2:10	2:11
γs	+ 0.8	+ 1.0	+ 1.0	+ 1.0	− 0.6	+ 1.0	− 0.6	− 0.5	− 1.0	+ 0.9	− 0.4
	3:0	3:1	3:2	3:3	3:4	3:5	3:6	3:7	3:8	3:9	3:10
	− 1.0	− 1.0	− 0.8	− 1.0	+ 0.5	+ 0.5	− 0.4	− 0.6	− 0.4	− 0.5	− 0.6

2才1月の +0.8 という数字は，つぎのように理解するのが正しい。飽和までの時間が少ないとき，つまりすぐあきる時は，絵本の字数が多いときである。その逆のときは，負号になる。だから負号のときは字数の多い絵本を，長い持続時間で見ていることになる。

大体，2才6月までは，例外もあるが，一ページあたりの字数が少ない方が，持続時間が長く，それ以後は，字数の多い方が，持続時間が長くなっている。飽和を規定する一要因として，字数を考えることは必要なことだろう。

その他，実施時刻・気温・健康状態・雑音・絵本の内容などは，すべて飽和を規定する要因となっていることがわかった。特に実施時刻と健康状態ならびに内容は重要な役割をえんじている。くわしくはここではふれない。

つぎに，絵本全体のどのページを，一ばん多く又は少なく読むかという点に関する分析を報告する。

2才1月から2才4月までは，見るページが前方や中央や後方にかたよっていたり，一ページおきに多くなったりしている。不規則なのである。それが2才5月以後は，全体的にページ数が平均化してくる。どのページも同じようにめくるのである。

ページをめくる順序も，2才5月以後に正常に定着してきている。それ以前は途中から逆行したり，一部のページのみをめくったり，全く逆からめくったりした。

【4】 発達段階に関する仮説的提言

子どもが絵本に対してどんな反応をするか，絵本をどうみているか，それがどのように発達するかについて，結果をまとめ，多少考察を加えてきた。ここでは，それらをまとめて，一応，発達段階を提言してみたい。

第一期は，この実験の始まる直前までの2才0月までの時期。——ここでは，絵本を単なる物理的な物体として見る時期で，興味のある対象としては受け取らない時期である。表紙をはがしたり，絵本をぐるぐるまわすことが多いと思われる。

第二期は2才1月より2才6月まで。——絵本を意味ある実体として見はじめる時期。ページは順をおってめくらない。しかし飽和までの時間は，以前に比べて多くなる。そして文字に対する反応も現われてくる。

第三期は2才7月から3才0月まで。——絵本の有意味化が確固となる時期。質問がふえ，無意味な発言が減ってくる。文字や数字など，文章の構成要素にたいする反応もふえてくる。

第四期は3才1月から3才10月まで。——絵本に対する興味が急増する時期。飽和までの時間がふえ，感想もふえる。批判もあらわれ，いくつかの対象を比較したり，自分で読み出したりして，独立読書が始まる。

【5】 20分間読書の効果

2年以上も続けているので，そのための効果だと思われるものを列挙してみよう。

まず，読書が習慣化し，一人でいるときには，よく読書するようになった。本に対する興味が急増した。

第二に，読む能力がふえた。3才10月の時点で，ひらがなは全部よめた。カタカナ，漢字は，全然あつかっていないが，それらにも転移がみられ，相当数のカタカナや漢字を読みこなすことができる。

第三に，被験者—実験者—記録者という多者関係のもつ集団の力動性から，自発性や協調性がやしなわれ，社会性の発展に寄与していると思われる。

第四に，被験者の両親にかまってもらいたいという愛情の要求，人格的要求が充足され，それが情緒の安定を導き出しているように思われる。

第五に，絵本は自分の本箱に自分で整理させているところから，物を大切にする態度がやしなわれている。

第六に，絵本をなかだちにして，一家だんらんが可能である。

【6】 現行絵本批判

飽和時間をインデックスにして，あまりにも持続時間の少なかった絵本一冊だけをとりあげて，その批判を試みる。

それは，2才ないし4才用として売り出されている絵本である。一般的には絵そのものも批判の対象としてとりあげねばならぬが，ここではその内容を問題にする。

1ページから2ページには，「けがわのそでなし」と「うまのかわのたいこ」の類似性をおとなの遊びである碁にひっかけた話がでている。ついで，橋と端の同音異義が生むとんちや，びょうぶの虎をしばるようにたのまれた小僧が，逆に，虎を追い出してくれと将軍にたのむ話が出ている。これらは，どうしても2才〜4才児には理解できるしろものではない。

子どもに理解できる新鮮で，独自の空想性に富んだよい絵本が，すべての子どもに与えられるようにしたいものである。（1965.5.24）

矯正施設における読書指導*

法務省中央矯正研修所

加　藤　正　明**

1. 修身書中心主義の時代（明治～大正年間）

矯正施設における読書活動の歴史はすこぶる古く明治の初年から行なわれている。それらの図書館活動の研究は他日別の機会に発表したいので，ここでは読書活動のみのべることにしたい。

明治初年小原重哉は監獄則を作り囚人の処遇をどうするか規則を作ったが，その一章に監獄内に書庫を設け，多くの佳書を蔵し，以て囚人の誦読に供するとした。しかしこの監獄則は当時としては余りに進歩的で現状と懸隔があったため遂に実施を見るに至らなかった。その為看読書籍も多く教科書的のものが各所に備えられるに止った。

その一例をあげると次の通りである。

明治16年愛知県監獄署在監人看読書籍目録によると

修身——A　孝経，大学，中庸，論語，小学，孔子家語，先哲家訓，勧善訓蒙，本朝孝子伝祝詞

B　小学修身訓，遺誡小学読本，修身小学読本，明治孝節録，品行論

営業——A　真草字引，日用いろは字引，玉篇，習字帖，用文章，古状揃，実語経

B　民間経済録，算法記

となっていて修身は先賢の漢籍と小学修身教科書を中心にし，営業は読み書き算数を中心にしている。

これより先一時明治７年に新聞紙の閲読を許したが，直に禁止された。明治９年遊戯わいせつにわたる書籍を除き広く書籍の閲覧を許そうとしたがこれも実行されるに至らなかった。明治14年看読書籍に関し規程をつくり監獄則第15条に「在監人書籍を看んと請うときは新聞紙及時事の論説を記載するものを除き修身又は営業に必要なるもののみを許すべし」と規程して，上述のような書籍が許可されたわけである。江戸時代の名残りで漢籍の多いことが目立っている。この考え方の根底には囚人は道徳意識が欠けるか乏しい故，有益な修身書を閲覧せしめて道徳心の向上を企ると云う考えがあった。この考え方は明治から大正にかけ昭和に至るまで脈々として続いている。

この頃文部省でも滔々たる自由民権運動の浸とうに驚き，各地の書籍館の図書選択で民権論に関する書籍は備付けない様に指示しているが監獄においては時事に亘る書籍は明治９年以来厳禁する所であった。

明治14年府県の各監獄を指揮する山県内務郷は「監獄の待囚，寛厳そのよろしきを失する勿れ。教誨訓導もしくは工役利潤に専らにして，懲戒の本分を忘れるべからず」と強い通達を出し，看読許可の書籍も僅に50種に制限して終った。北海道に徒刑（流刑）囚を集めて各地に懲治監をつくったが，囚徒作業の余暇に読書するものあれば他囚これを指笑すと云う程で，各所で押し出し（暴動）の動きがあり，監獄官吏による反抗囚徒の斬殺が公認せられていた。自由民権運動の星高，伊藤痴遊等も当時の監獄の残虐な拷問を記している。

これらの荒涼たる監獄の風潮に対し，明治22年頃から反省が生まれ，監獄内に書籍館（図書館の前名）を設け修身・道徳の書を読ませ，囚徒改良に役立たせようとし

---

* A short history of reading guidance in prison.

** KATO, Masaaki (Chuō Kyōsei Kensyū-jo, Department of Judical Affairs)

た。これは英米における監獄改良の動きに対応するものであった。（1774年以来ジョン・ハワードによる監獄改良）

明治22年監獄則は改正され囚人の改善に意が用いられるに至った。

教誨・学科教授も行なわれるようになり備付官本も各所で増加した。

明治25年北海道樺戸監獄では囚人の教化用雑誌が始めて発行され，明治28年には大日本監獄教誨新報（月2回発行）が在監者看読用雑誌として刊行された。その内容は修身を主にし囚人の心性改良に心要な事項を網羅しようとした。次いでクリスト教教誨師により教誨叢書が発行され，本願寺派の教誨師により勝友叢書が発行された。この雑誌は十数年続いた。

明治32年には姫路分監で「学びの光」神戸監獄で「洗心」が発行された。留岡幸助らのクリスト教牧師の力で，北海道の集治監にも読書の風が大いに興り囚情も大いに安らかになってきた。明治14年の監獄則で教誨師が読書指導に当っていたが，欧米の監獄でもチャプレン（牧師）が同じく囚人の読書を担当していた。

明治41年監獄法改正。小河滋次郎法学博士，谷田三郎法学博士らが此に当る。監獄法施行規則に「文書図画の閲読は監獄規律に害なきものに限り，これを許す。新聞紙及び時事の論説を記載するものはその閲読を許さず」と定められた。

小河滋次郎博士の監獄学によると，図書閲読は雑念を起さしめず，反省顧慮せしめるためである。教訓的家庭的の書籍雑誌を備付け，文字を解し職業を知るの民となって社会に伍するの地歩を取得せしめんと欲す。但し新聞は社会と隔離すると云うことにもとり，見せることはできぬ。

この頃小松原文部大臣の提唱で各地に簡易図書館を作ることになり，山口図書館の佐野友三郎は通俗図書館論を刊行するなど大いに活躍したが，その影響で山口監獄は修身書に限定せず広い範囲の読書活動を行ったが，全国の刑務所は小河滋次郎等応報刑思想の下に刑の本質は隔離と懲戒にありとし，読書活動も専ら修身書に限定していた。

所が大正7年時の名典獄河辺湛然は欧州の監獄事情を視察に赴いたが，ドイツ監獄では看読禁止の懲罰をやめ，監獄内には多くの図書を備付け，我が国で国禁の社会主義の本も閲覧を許していると云って驚いている。

大正11年イギリス監獄で一番多く読まれたのは小説類であるが，我が国では遊ぎにわたるものは許可されて居らず，修身書の中に女人の画があると墨でぬりつぶして交付するのが当然のこととして行なわれていた。

当時我が国教誨師の大御所であった河野純孝師も監獄において読書を行なうは主として道徳の修養・信仰に資するためとして，修身書第1主義を堅持していた。

2. 情操教育主義の時代（大正末年〜戦争まで）

ところが大正の末期，牧野英一法学博士，正木亮法学博士，岡部常法学士，辻敬助法学士等教育刑を唱え囚人を改善して再犯を防ぐと云うことが真剣に考えられるようになって，読書に対する考え方も一変してしまった。

大正11年正木亮は今の監獄は余りにも意育偏重の弊害がある。情育を重んじたいと主唱，岡部常はこれに呼応して他律的教誨より自律的教誨へ向うべきである。徳育偏重は不可，新しく音楽・映画・レコード等も使用し，又囚人用の月刊雑誌を創刊せよ。監獄の教育課に宗教家以外の人を任用せよと提唱した。

そして直に外廓団体の監獄協会内に教化用図書審査部を設け気鋭の正木，岡部，辻書記官が自ら審査に当ることに成った。正木亮は読書は改善のための有用の手段であり，拘禁生活と社会との間隔を緩和するに適していると云った。

又図書禁止罰は反則者や改善困難者にこそもっと良書を読ませるべきである。図書禁止罰は只一つ図書を破損する者のみにせよと主張，教誨師の中にもそれに賛意を表するものが多かった。

正木亮は又監獄法の規定が図書の閲読を乞うものあるときはこれを許すとあるのは消極的である。良書をもっ

と積極的に読ませ，改善させて社会に復帰させるよう主張した。

正木亮は，社会復帰のため実用向きの本を増加せよと主張し，又受刑は新しいことを知ることを妨げない，適当な新聞雑誌も許可せよと主張した。

昭和2年には正木亮と小橋川昭慶典獄は看読書籍の範囲を拡大することを交々主張，文学書も許可するよう唱えた。

辻敬助書記官も宗教及び修養書に限るのは誤りで，良い娯楽的の書籍も採用せよと云った。

これらの結果，監獄の図書の種類も増加し20の分類で整理されるに至った。

1．宗教　2．修養　3．読本　4．作文　5．数学
6．地理　7．歴史　8．伝記　9．農業　10．工業
11．商業　12．法経　13．哲学　14．文学　15．衛生
16．物理化学　17．語学　18．字典　19．経典
20．その他

で昭和2年購入した官本は宗教2種，修養5種，作文2種，歴史2種，伝記4種，実用20種，字典経典各1種で，先ず実用書の増加に力が注がれた。

その約40種の選定された図書のリストは次の通りである。

宗教――正信問答，通信法華経入門

修養――大国民の根柢，忠孝美談，大正徳行録，世に出る青年へ，大御心

作文――ローマ字独習，新しい実用書簡

歴史――日本陪審史，日本裁判史

伝記――東郷元師伝，乃木静子，大倉喜八郎，西郷南州

実用――特産染物，最新電気学，機械学，塗物術，鎔接法，自動車の話，無線電信，発動機，蒸気機関車，測量学，土木学，鉄筋コンクリート工場経営論，日本家屋構造，印刷と紙の話，商店経営，商業経済の字引，経済記事の読方，経済読本，商業文範，刑訴法指揮

経典――孝経講話

字典――漢和大字典

昭和3年行甲第1397号で，受刑者・未決拘禁者に看読を禁止するのは，ひわいにして情欲を挑発するもの，好奇心をそそり妄想をおこすもの，破かい的思念を醸成するものとする。

教誨師の中からも他律的に修養書をよませるより，立志伝・出世物語等をよませて自律的に体得せしめる方がよいと云うものもでてきた。段々と自得せしめると云う方向に読書指導が向ってきた。

当時ドイツでは，ドイツ監獄法第29条に如何なる種類の書籍がよいか収容者の希望をきくを要すと規定し，日本のように上から選択して強制すると云う行き方より進歩していたことが分る。しかしドイツでも教訓的の本は入所当日より看読を許し，娯楽的の本は行状が良ければ看読を許すと云う風に監獄内における処遇の一手段として用いられていた。

昭和4年，被拘禁者に関する国際刑務委員会の処遇案では，刑務所には収容者の使用に適した書籍を充分含んだ文庫を設けよ。書籍は特に教訓的及び娯楽的性質のものであれ書籍の看読は収容者の入監の時から許すべきであると読書活動について理想案を作った。

昭和5年，我が国でも国際的の風潮を受けて看読書籍の緩和をはかることになり，経典字典は各所の自由裁可に任せることとし，良書があったら進んで看読の許可申請を本省宛提出するよう命令した。

この頃欧米の刑務所図書館では教誨師の図書管理をやめ経験ある司書の管理により運営せしめようと云う論が起っている。併し我が国では依然終戦まで教誨師により運営されることは変らなかった。

昭和6年，当時，矯正で読書と云うものについて次の3つの利点があると考えられていた。

① 教誨及び教育の補助手段として有効

② 在監者自らが知識を拡め，感想・意志を修業，自己教育の方法として有効

③ 余暇時間の善用――健全な娯楽として有効

同年行甲第2052号で収容者看読図書取扱規程が定めら

れ，これが以後長く読書活動の規定となった。図書は多く刑務所内に巡回文庫の形で貸与された。

併し図書の種類は依然固いもの中心で，当時未決を入れていた市ケ谷拘置所を見学した各地の刑務官は市ケ谷では当時国民雑誌であったキングが許されていると云ってびっくりしたことでうかがうことができる。

同年収容者に読書せしめるには，その素質，性行，目的及び教化方針により書籍の体系を定め，なるべくその順序を追って看読せしめるを要すと云う意見が出た。これは基本図書と云う考え方のはしりであろう。

昭和7年に行刑累進処遇令が定められ，図書室には適当な新聞及び雑誌を備付けることを得，第1級の受刑者には図書室において文書図画の閲読を許すと規定した。

昭和8年許可した本は次の通りである。

N. D. C Ⅰ部門——倫理学通論，日々の慰安，法悦感謝，法華経魂魄，歴史哲学，神の思慕，神についての冥想，観世音菩薩，横川法語，壇上紙上街上の人，霊の糧，占法要略，占法秘伝，哲学思潮，常識作法，現代人を救う宗教，ゲーテとの対話，心理学，心のあと，天理教，哲学辞典，和讃，易学，教行信証，行の哲学，道重講演集，信仰日記（30種）

N. D. C —O部門——毎日・国民・朝日・時事各年鑑キリスト教年鑑，国民掌典，国民百科宝典（7種）

N. D. C Ⅱ部門——仏教史研究，日本美術史，日本書記，日本地理体系，日本密教史，日本歴史地理之研究，上海戦闘記，樺太年鑑，大東京市街図，人類学上より見た東南シナ，人類学汎論，南洋叢書，楠正成，満州事変，プルターク英雄伝，ブラジル人国記，古事記世界地図，東大維新史研究，明治大正史，新満州国読本，古今史談，大満州，新日本産業地帯，袖珍日本地図（25種）

N. D. C Ⅲ部門——日本経済史，日本社会経済史，欧州経済史，我等の陸海軍，貨幣論，貨幣制度，海軍読本，経済記事の基礎知識，経済図表，経済風土記，古代社会，アメリカの経済征服，財政読本，財界膝栗毛，金融論銀行論（16種）

N. D. C Ⅳ部門——高等数学，数学一班，幾何学教科書，統計学，代数学，高等数学，数学教科書，数学の概念，しん灸術，神経衰弱，点灸

N. D. C Ⅵ部門——日本農業年鑑，理髪衛生問答，左官の知識，科学玩具，美容理髪，化粧品製造法，住宅写真集，趣味の盆栽，職業の手引，商店建築，石けん製造法，写真の研究（他15種）

N. D. C Ⅶ部門——中等唱歌，色彩の知識，白秋童謡集，白秋歌謡，書道，スポーツを語る（6種）

N. D. C Ⅷ部門——英文毎日，国文法，ドイツ熟語集独習英会話，ドイツ語原理，エスペラント独習，ドイツ語自修，漢詩入門，英作文辞典，英語独習，漢文大系，ドイツ語入門，万葉集評釈，婦人の作文，フランス語会話英リーダー，日支会話，英文法通論，英和大辞典，英語入門，英語独習，英雄崇拝論英独習，アラビアンナイト(英文)，英文解釈，英文バイブル（他30種）

N. D. C のIX部門——子規集，文壇人物評論，大仏—赤穂浪士，各家俳句集，詩集れい魂は羽ばたく，短歌70講（8種）

昭和2年の許可に比して，種類も量も増加しているが文学書は依然増加していない点に日本矯正施設の特長が見られる。

昭和9年，読書の増大により人間的自覚がすすみ事故の減少をみたことが報告されている。随って収容者の不満をさばく情願でも，昔は接見・信書・懲罰・衣類・診療に対する不平が多く，いかに収容者が待遇に不満をも

っていたかが分るが，この頃になると教育刑思想により処遇が緩和されてきたので，それらの不平に代り，入浴の増加，運動の要求，書籍筆墨の増加，法律的主張等が多くなってきた。

昭和9年になると男子には講談クラブ，女子には婦人・婦人公論が許され，又趣味の雑誌として，野球界・スポーツ・園芸界・カメラ・子供の科学・朝日カメラ・ゴルフ・科学の日本・ローンテニス等の雑誌の利用が許可された。

昭和8年頃から左翼受刑者が増加した。当局は思想犯に対しては思想を以てせよと云う考え方で，思想犯に対して日本精神に関する図書の利用をすすめた。

一例　行の哲学（紀平正美），日本精神研究（安岡正篤），支那哲学史（宇野哲人），日本精神研究（大川周明），法と社会生活（田中耕太郎），マルクス価値論の排撃（土方成美），歴史観（平泉澄）他52種

これらの諸書は転向者の告白によく現われる所をみてもある程度の影響があったものと思われる。

昭和12年以後は日華事変が拡大し，軍国主義的風潮が日本を風びした。刑務所もその圏外に立つわけにはいかず，伊東正勝社会教育官等の援助で少年行刑教育令が発布され，練成が教育の中心に導入された。

昭和11年の刑務所長会議では精神訓練に直接役立つ書籍を十分ならしめることが決ぎされた。当時横浜図書館の利用順位は，

(1) 受験参考書　(2) 大衆文芸　(3) 文学　(4) 科学物
(5) 工業書　(6) 経済書　(7) 時局もの　(8) 随筆

で，これに対し，昭和15年の全国刑務所の蔵書構成は，

(1) 修身	16.0万	(6) 経典	2.4万
(2) 宗教	8.4万	(7) 辞典	2.2万
(3) 伝記	4.2万	(8) 文学	2.1万
(4) 地歴	3.4万	(9) 工業書	1.7万
(5) 読本	2.7万	(10) 農業書	1.1万

でいかに修養書中心に収書が行なわれていたかが判然としている。

この傾向に対し，毎日新聞は社説に囚人の教化の問題を取り上げ，今日全国の犯罪者5万，感情生活に欠陥あり，環境に恵まれない者が多い。囚のあるものは独居静に反省，読書により改善の道につきうるも，多数の者はその情操を洗練することを要す。之を和げるに読書・スポーツ・ラジオ・レコード・映画等の善用をすべきであると云って情操教育の必要をといた。

当時の横浜図書館長鈴木保太郎，館員渋谷国太郎は，受刑者の程度に応じ，適書を与え漸次読書力の向上を図るよう主張した。

昭和17年には楽しく読ませよ，知るだけではだめであると云う意見も強く現われた。

文部省の中央図書館司書研究会でも，当時の我が国の非常態勢に役立つ読書活動の在り方を研討したが，刑務所でも国策遂行のため，又左翼受刑者教化のため，日本精神に関する図書が飛躍的に増加していった。

やがて太平洋戦争となるや，受刑者は軍需作業に総動員され，造船部隊・開墾部隊・南方設営部隊として戦争の遂行に極力力した。

3. 近代図書館運動の矯正施設への波及時代
（戦後～現在）

戦後，日本の図書館界は進駐軍の援助で急速に復興した。保存本位の図書館から利用本位の図書館へと各館種の図書館が脱皮した。

矯正でも，菊池省三教育課長，井田慈情，小室清等の熱心な努力で，施設図書館の復興が企てられ，中でも菊池信之亟は叶沢清介長野県立図書館長の援助で長野刑務所図書館を作り上げた。本省でも矯正図書館基準を公共図書館法・学校図書館法に範をとって制定した。読書指導もこれらの各館の秀れた方法が漸次採り入れられるに至った。

書籍も，①風紀を乱すもの　②粗暴な気を助長するもの　③刑務所の紀律を乱す恐れのある図書を除き，大幅に緩和許可された。

本省管区で良書選択の委員会が設けられ，良書の充実

に努力している。

昭和27年安藤義裕が府中刑務所2500名の読書調査を行なった所，文学書が圧倒的に多く，哲学・宗教・修養書は読書率15%に下っている。

大体社会の読書傾向に大差がなくなってきた。終戦の混乱時代収容者が粗暴化して困った時，図書を大量に与えることで平静になった例が小倉少年鑑別所により創設当時の思出として語られている。

本省の矯正局も読書指導を積極的にするよう指導を活発にしている。

読書指導に関する論文も部内誌に発表され始めた。

昭和29年　中山章（福岡少年院）少年の読書について　九州矯正　9—2

長友宏史（宮崎鑑別所）少年の読書と指導　〃　9—6

昭和30年　西野彰（宮崎鑑別所）非行少年の読書　〃　10—6

昭和31年　中村敏夫（大阪拘置所）受刑者の読書傾向調査　矯正教育

昭和32年　中井一雄（宮崎鑑別所）鑑別所と読書　九州矯正　12—5

田仲弘志（浪速少年院）少年院の読書　矯正教育　8—10

浪速少年院　読書指導　〃　8—15

洲崎矩順（京都刑務所）　〃　〃　8—10

昭和32年　豊ケ岡農工学院　読書週間発表会

江頭利彦（小倉刑務所）私本について　九州矯正　13—5

昭和35年　郡敬邦（大分少年院）少年院図書館の検討　〃　14—3

春口徳雄（中津少年院）精神薄弱児と読書　〃　15—3

山城秀盛（佐世保刑務所）読書指導を実施して　〃　15—12

佐藤義蔵（沼津拘置支所）矯正施設の読書指導　刑政　71—5

中永恵美子（榛名女子学園）女子少年院の読書指導　刑政　71—5

伊東昌子（明徳少女苑）　同　上　同　上

昭和38年　阪東知之（矯正局教育課）教化活動　刑政　74—10

藤田正登（広島刑務所）図書の管理運営　矯正広島　7—2

昭和39年　松井融（静岡刑務所）読書会　刑政　75—5

此等の論文を総括すると，

① 収容者の読書調査をしていかに適書を読ませるか

② 読書会の運営——各所

③ 個別指導——大分少年院の郡敬邦教官榛名女子学園の中永教官が行なっていた。

の三つの流れに要約されよう。

これらの運動について阪本一郎先生・滑川道夫先生は懇切な指導を与えられてきた。

それらの動きの詳細は紙数の都合で割愛させていただいてここで矯正施設における読書指導の理念を考えてみたい。

まずそれには近代における精神医学心理学の著しい進歩を採り上げる必要がある。

昔イタリアのロンブローゾは生来性犯罪人説を唱え，犯罪一家の研究がすすんできたが，グルーレは単一的な常習犯人と云うものは存在しない。その常習犯人が一定の性格をもち，その特質が何等かの遺伝法則に随って遺伝すると云うことを仮定することは全然不可能である。常習犯の遺伝ということについては何等の基礎も存在しないと説いて，生来性に犯罪人が存在することを否定した。

リンドマンも犯罪と云う事実は個人と社会との不調和と云うことにすぎぬのであって犯罪と云うものは遺伝しないとした。

吉益脩夫博士も犯罪は社会的現象であると説かれている。

随って法務省で行なっている各種の智能検査でもやや一般より低格者が多いと云うだけで犯罪者の知能指数の分布は一般と大差がない〔附表省略〕。又精神医学者の調査でも正常者が大部分で，精神病質・精神薄弱者の割合は一般よりやや多く，これらの人が犯罪化する危険が多いと云うことを表わしてはいるが，特に犯罪者は多く病的であると断定することはできない。

性格検査をしてみても，一般と格段の差異を示すと云う例は少ない。それよりも心理学では，これらの性格特性は犯罪の主要原因にはならないと云っている。この点については，東京少年鑑別所の新田健一技官が詳細に研究して，「非行少年の価値体系」の研究として1965年，矯正研究第2号誌上に発表した。それによると，

昭和31年，中根冬雄技官は非行者の道徳意識を調査し，一般者と比較してみると差のないことを発見，非行者の道徳意識も低くないことが分った。随って明治初年から非行者は道徳的に低級だから高い道徳書を与えるがよいと云う考え方は無意味になって終ったわけである。（東京矯正管区分類研究3号）

このことは牧野春江が非行少年の生活態度を調査し，同様の結果を東北矯正研修所紀要1号（昭和30年）に発表し，新田健一も非行少年の価値体系—道徳意識水準の分析で同様の結果を得た。（犯罪心理学研究第2巻昭和39年）稲毛登代子も道徳々目毎の比較で一般者と非行群に大差がないが，各徳性に近代的のものと前近代的のものとの矛盾を生じていると発表した。（1958　応用心理学会25回大会）

早稲田大学の戸川行男教授はこれらの点を環境と適応論で説明し，粗暴と云うこと自体は反道徳的のものではない。それが合法的に拳闘やレスリングの試合場で発揮されれば，ファイターとして却って美徳に転ずる。道徳性と云うのは環境に対する不適応と説いた。

新田健一も上述の論文で非行少年は道徳意識は低くはないが，複雑な近代社会において価値選択の方向を誤ったのだと説明している。

随って非行少年の矯正には具体的な生活場面，或は複雑な価値選択の課題状況において鴻正な価値選択を可能ならしめるよう生活指導，カウンセリングを行なうことは甚だ有益であるとしている。

所が非行少年の自己閉鎖的な心的機制に対し，正面からカウンセリングをしたり，生活指導をしたりすることは困難が多く，時には反抗をすら招くことが多い。この点図書を利用する Bibliotherapy はカウンセリングの様に直接表現をとらず，間接表現として，物語の主人公と同一視することにより間接的に自己を表現することができるので，割合容易に洞察にまで持ちこむことができるものと思われる。この点 Bibliotherapy が将来矯正界へも導入されることを大いに望むものである。矯正における図書の利用は上述のように価値選択に対する貢献，適応能力の育成と社会適応に対する洞察力の向上と云う点に有効に用いられるべきであろう。

最近の児童漫画と子ども(I)*

日本女子大学

阪　本　一　郎**

1. まえがき

児童雑誌に満載されている漫画を，子どもはどのように読んでいるか。最近はテレビに放送される漫画の数もひじょうに多くなった。子どもの漫画熱はあいかわらず高いようだ。

10年ほど前には，児童漫画の俗悪性が非難され，一時漫画追放論がやかましかったが，その後，業者の自粛もあって，親たちもこれを承認するようになった(注1)。漫画そのものの質がそのころほどひどくはなくなったとはいえ，まだ低調なものが少くない。私はさきに「赤胴鈴之助」を論じ(注4)，また「月光仮面」と「変幻三日月丸」とを分析した(注5)が，世評の高かつた「赤胴鈴之助」も後半は安易に流れ，これと並んで人気を集めた「月光仮面」は意外に俗悪なものであった。子どもの世界の人気は，作品の質の指標にはならないのであった。そこでもう一度，人気作品を取りあげて，子どもがそれをどう読んでいるかを考察してみることにした。

2. 「鉄腕アトム」と「サスケ」

今回は手塚治虫の「鉄腕アトム」（光文社，カッパコミクス版）と，白土三平の「サスケ」（青林堂版）とをとりあげた。ともに光文社発行の雑誌「少年」に連載されたものであるが，のちに単行本として出版され，子どもたちに愛読されている。またラジオやテレビにも放送されて，少年だけでなく，少女にも人気のある作品である。

「アトム」は，ロボットを主役にした未来もので，「サスケ」は，忍者を主役にした時代ものである。舞台は未来と過去との違いがあるが，主人公はどちらも超人的な能力を持っていて，「月光仮面」や「赤胴鈴之助」と並ぶ superman ものである。依然この形式の漫画に人気が集中するのは，子どもが人間の能力を越えた行動を空想することによって，現実の生活における制約からくる要求不満を補償的に満足することを求めるのであろう。

なおこの2作品に共通することは，主人公の驚異的な行動を科学的に説明しようとしていることである。むろん正しい意味の科学では説明されないことであるが，いわゆる空想科学のテクニクを用いて，つじつまを合わせている。忍者ものが今日の子どもにアピールするようになったのも，このテクニクを取り入れるようになったからだと思われる。むかしの立川文庫のようなでたらめの忍術では，もはやあきたりないのである。この点で今日の子どもは空想にも合理性を求めるようになっているといえよう。

さてこの2作品を読んで，まずその特徴を分析することを試みよう。次いで，これらを中心にして子どもが現在の漫画をどのように受けとめているかを検討してみることにする。

3. 「鉄腕アトム」のあらすじ

科学省長官の天馬午太郎博士は1人子の飛雄を溺愛していたが，これが交通事故で死亡した。博士は狂気のようになり，科学省の総力を集めて，飛雄に似た顔のロボ

---

* How children are reading recent comics? (I)

** SAKAMOTO, Ichiro (Japan Women's Univ.)

ットを製作した。21世紀の初めのころである。

このロボットは人間と同じあるいは人間以上の性能を持っているが，人間のようには成長しない。気の狂った博士はこれをサーカスに売りとばしてしまう。これが鉄腕アトムの始まりである。のちにロボット科学の大家，お茶の水博士にひろいあげられ，お茶の水小学校に入学する。担任の先生がヒゲオヤジというあだ名，もと私立探偵だった人。

やがてたくさんのロボットが生産されるようになり（あとでアトムの父，母，妹なども作られる），ロボット法が公布される。その第1条に「ロボットは人をしあわせにするために生まれたものである」第13条に「人を傷つけたり，殺したりしてはいけない」とあり，この精神でアトムの活躍が始まるのである。

(1) アトム大使の巻

宇宙に地球とそっくり同じ星があり，同じ人間が住んでいた。その星が爆発したので，そこにいた日本人は宇宙船「日本艇」で日本へ逃れてきた。そこでお茶の水博士，ヒゲオヤジなど，同じ人間が2人ずついることになる。

人口が2倍になったため地球が食糧難におちいる。地球人の天馬博士は，宇宙人の天馬博士の発明した「細胞縮小液」を奪って彼にふりかける。彼は塵のように縮んで消え去る。そこで秘密警察の赤シャツ隊を動員して，この液を使って宇宙人をみな消してしまおうとする。日本艇へ逃げのびた宇宙人は，科学省を爆撃して，24時間後には地球人に復讐すると通告する。

平和使節として日本艇へ乗りこめるのはアトムより他にない。アトムはマントをなびかせて日本艇へ飛んでいき，地球人と宇宙人との半分ずつが別の星に移住することで解決する。一方，天馬博士は赤シャツ隊のために消される。お茶の水博士の「人間のやっていることが正しいか狂っているかは，機械がいちばんよく知っとるんじゃよ」ということばが結び。

(2) アトラスの巻

インカ民族のラム博士は，母親が白人になぐり殺されたのをうらみ，アトラスというロボットを作り，これにオメガ因子（悪い心の働き）を入れて，復讐を図る。

そのとき富士山が爆発し，熔岩が富士市へ流れていく。急を聞いてアトムが飛来し，原子爆弾で流れの方向を変える。この邪魔をするアトラスと戦うが，ラム博士につかまってしまう。

そのままにラム博士は，アトラスたちにロボット銀行をおそわせる。その疑がアトムにかかるが，アトラスの心が悪化しすぎて，ラム博士を倒し，アトムとの戦に自滅してしまう。ラム博士は「おれは人間に復讐しようとして，機械に復讐された」と息を引きとり，ヒゲオヤジは「えらい科学者だった。しかし作る物がまちがっていたんだ」と言う。

(3) 火星探険の巻

マン・モス博士は10年前の火星探険のとき，レンコーン大尉を置き去りにしてきた。大尉が宇宙からの攻撃に備えて，火星に要塞を築くことを主張したからである。このたびの再挙の探険隊長にアトムを起用した。その部下になることを嫌ったケチャップ大尉は，途中さまざまな攻撃を加える。

隊員にレンコーン大尉の妹キャーベットがまぎれこんでいて，兄に会わせてくれというが，アトムは私情に動かされない。「あなたには人間のやさしさがないんだわ」とののしられる。

火星に着いてから，旧式なロボットの大群が襲来する。指揮するのはレンコーンで，ここで兄と妹との顔が合うが，地球へ帰って「おかあさんに孝行しろよ」と言い残して引上げる。

ケチャップはアトムを撃ってみずから指導者になり，レンコーンの攻撃に向かう。その間にキャーベットはアトムの機械を修理する。このとき宇宙の怪物（4本足のヒトデのような形の軟体動物）が攻撃してくる。レンコーンの予想が的中したのだ。ケチャップは前非を悔い，罪ほろぼしに，レンコーンのロボットを率いて怪物に体当たりをし，玉砕する。キャーベットは兄とともに火星に残り，アトム一行は地球に帰る。

(4) 冷凍人間の巻

アトムはムシユウ・アムペアに招かれてメキシコへ行く。国王の墓（ピラミッド）を発掘する手伝い。すでに第1班のテントはカニ男に襲われて全滅している。第2班とともに発掘にかかる。

ところが玄室にはドン・ペレス・プラド博士が氷詰めになって冬眠している。20世紀の文化を幾世紀も後に語り伝えるためである。これを妨げられまいと，博士の弟が発掘を妨害する。カニ男は，酸素と水とを補給するための生きたタンクであり，これと墓の番人スフィンクスとが邪魔をする。

アトムはこれらを征服するが，アムペアはウラニウムを盗むのが目的だったことがわかり，一行にまぎれこんでいた刑事に逮捕される。アトムは，こわしたスフィンクス（ロボット）を修繕しに戻る。

(5) 海蛇島の巻

アトムが海岸で級友と遊んでいると，SOSの手紙を封じたビンがたくさん流れ着いているのを発見する。「ポチョムポチョム島ルミ子」とある。その夜両親にかくれて，黒潮をさかのぼってその島を捜しに行き，果たさずに帰る。

昼は学校で居眠りをして叱られながら，夜になるとまた出ていく。ロボット法の9条に「ロボットは省の許可なく国外に出てはならない」と定められているので，だれにも内密である。

怪物の海蛇にのまれる。胴の中は海底の気密室で，沈められた船の船員たち267人が奴隷となって海底のウラニウム鉱を密掘させられている。その中に17年も使役されている老人がおり，その娘ルミ子が救護班で働かされている。アトムは父娘を大ビンに入れて脱出させる。海蛇が追うが，これを退治て，2人を孤島まで逃がす。

後日談。救われた父娘がお茶の水小学校に来て，アトムに面会を求める。ヒゲオヤジは，アトムの行為がロボット法に触れるので，面会させずに帰す。アトムは窓から父娘の後姿をそっと見送っている。

（光文社のカッパ・コミクス版，2巻まで）

4. 「鉄腕アトム」の特徴

(1) 物語の構成

「アトム」は未来物語で，この作者が案出した精功なロボットを主役として，つぎつぎに設定される事件に登場させ，作者の言う「スピード，スリル，スペクタクル」を盛った科学空想物語である。初版（昭33）では幕切のない長編ものに編集してあったが，コミクス版（昭39）では話題ごとに切って「何々の巻」としている。各巻はそれぞれ独立した物語である。

この物語は，人間の手による生命の創造の夢を実現したものである。これは作者が医学出身であることと関係があるのかもしれない。人間はすでに人間の仕事を人間よりも能率的に代行するロボット（機械）を造ったが，これは人間が記憶させたことを成しうるだけである。ロボットが自主的に生産的な思考をすることができるまでには至らない。その段階に達するには，どうしても生命を創造することができなければならないのだ。アトムはその夢の実現である。

その主人公の活躍する舞台であるから，物語全体のスケールも夢のように大きい。宇宙人の来襲あり，火星探険あり，ピラミッドの地底にもぐり，南洋の海底にもぐる。どの事件にもかならず人間の悪意から出た陰謀がひそみ，それが問題を不可解にしている。アトムはこれを解決する正義の危機救援者として，超人的な活躍をするのである。その点では古くからある magic helper 型の説話構成に属し，したがって事件そのものはアトムの生活になんの影響も及ぼさない。事件が解決すれば，アトムはそれから離れ，またもとの状態に復して，他の事件を待機するのである。

(2) 主人公の性格

主人公のアトムははじめ意志のないロボットとして生まれ，人間に命ぜられたことを遂行するだけであったが，のちには自由意志を持つようになっている。ポチョムポチョム島へ，親の目をぬすんで救援に行ったりする。また命令の遂行中，情勢の変化に応じて身構えるこ

ともできる。

感情的には人間のようなデリケートさはない。しかし罪ほろぼしに玉砕したケチャップ大尉に，「ありがとうよくやってくれた」と敬礼を送ったり，自分がこわしたスフィンクスを修繕したりするやさしさを持っている。自分が完全なロボットではないと言われてしょげることもある。こうした可憐さが子どもに好かれるのであろう。

ラム博士がアトムに「オメガ因子」（悪い心）を入れようとするが，アトムが拒絶するくだりがある。ここはアトムが善意のみのロボットであることを強調するのに利いている。「ロボット法」なるものも，この作品の全体を貫く理念を明らかにしていておもしろい。作品全体に作者の善意がにじみでている。

しかもアトムは superman ではない。彼は親にエネルギーの補給を受けなければ無能になってしまうし，故障をすればお茶の水博士に修理してもらわねばならない。超人的な活躍をさせる反面に，ロボットの弱さを描いてあって，結局人間の作った機械は人間以上のものではないことを物語っている。

(3) 空想科学的興味

この作品の主人公アトムは，毎巻異なった敵と戦うのであるが，アトムは人間の magic helper であるから，結局「人間の敵」が想定され，その攻撃に応じて立ち上がることになっている。そこで宇宙人の来襲が主要テーマになり，アトムにもロケットの性能を持たせているが，興味は，どのような装備の敵が，なんの目的で攻撃してくるかという着想の奇抜さにかかるのである。

「アトム大使の巻」では第2の地球の爆発により宇宙人がこの地球に避難してくることからトラブルが起こる。「火星探険の巻」ではヒトデのような怪物が来襲するので，火星に地球防衛の要塞を築く。「海蛇島の巻」には，汽船を沈める一つ目の大海蛇が出，「冷凍人間の巻」にはカニの形をした怪物が出るが，これらは人間の作った機械である。このように怪物を登場させるところは，「ゴジラ」「ラドン」などの系統のスリラー映画と軌を一にする。

また「細胞収縮液」だとか，冬眠する「冷凍人間」だとかが出てくるが，それらの空想を合理化するために，その発明者を「なになに博士」とするのが定石になっている。どの巻にもそういう博士が登場する。つまり子どもの科学者への信頼を利用して，不可能を可能と思わせるのである。

この点では科学的空想といっても単純なもので，作者自身も「科学マンガは機械とか宇宙をつかった活劇マンガものがたりのことです。……けっして科学のマンガではありません。中にでてくる科学的な部分は，ひどくあいまいで，いいかげんですし，マンガというもの自体が，もともとでたらめなものだからです。……わたしはこれを空想おとぎばなしのつもりでかいています。」と書いている。でも，子どもを科学的な夢に遊ばせることには成功していると言ってよい。

(4) 笑いとペーソス

この作品には，はげしい死闘がしばしば展開するが，殺人行為はほとんどなく，あっても画面には描かれないのが特色である。やられるのはロボットであって，したがって機械がこわれるのである。人間の悪役も最後には死ぬが，殺されるのではなく，自滅するように扱われている。血なまぐさい活劇マンガの多い中で，異色の作品と言えよう。

ロボットの死に軽いユーモアを感じさせるだけでなく，ところどころにユーモアの息抜きが設けられている。脇役の登場人物の名まえがふざけているのは他のマンガと同じだが，たとえばアトムが宇宙艇へ講和の大使として乗りこみ，解決の約束をして帰るとき，宇宙人を信用させるために，自分の首を胴からはずしてあずける。さて乾杯のとき，卓上に置いた自分の首にグラスで飲ませるといった，ちよっとしたウィットが随所に挿入されている。「なんと申しましょうか」「たよりにしてまっせ」やられたときの声「キュッ」「ムギャ」などのギャグもしばしば使われている。

さらにときどきペーソスを盛ることを忘れていない。

「火星探険の巻」や「海蛇島の巻」の結末などにそれが見られる。

このようにロボットを扱いながら，作者がヒューマニズムを失わないことはさすがである。

(5) 図がら

主人公アトムの容姿はじつにかわいらしく描けていて，すでに子どものマスコットとしてひろく愛好されているほどである。とくに大きな目がかわいく，眉と口とで表情を描きわけている。瞼を閉じた顔もかわいい。まるまると太った四等身で，すべてやわらかな曲線で描かれているが，ただ頭髪が2房だけとがつた角のようにはね上っているのが対照的である。

お茶の水博士やヒゲオヤジもそれぞれ特徴のあるとぼけた風貌に描かれている。

全体として，すべてやわらかい曲線で描かれ，怪物にしても，ロボット工場の機械にしても，みなまるい感じを出して図案化されている。これはつぎの「サスケ」がリアルな感じを出しているのとたいへん違うところで，また「サスケ」のように背景や小道具をあまり使わないのも違っている。したがって一つのムードをただよわせるということをしないで，事件の変化を急速に追っていくことを主にしている。アクション本位である。

(6) 映画的手法

児童漫画に映画的手法をとり入れたのは，手塚治虫が最初だといわれている。以前の漫画は舞台劇的演出で，舞台と観客との距離や視角が固定していた。したがって画面の変化に乏しく，動きも平面的であったのを，ここに立体的で変化に富んだ画面を構成することを試みたのである。

いまではほかの漫画家もみなこの手法を用いるようになっているので，この作品だけの特徴とはいえなくなっているが，さすがに手慣れたものである。たとえば，アトムが人食島の女に首を切られ，姿を消す……ルミはアトムが死んだと聞かされて泣く……アトムのマボロシが次々に大きくなる……そのマボロシの姿と同じ絵……その絵を持ってルミ父子がアトムの学校へさがしにくる，といった具合。人食島で別かれてから，後日談までの時間の経過を省略して，アトムの姿で場面をつなぐなど，モンタージュがたくみに駆使されている。

5. 「サスケ」のあらすじ

豊臣の末期，真田幸村の養っていた猿飛忍者の大猿大助とその子サスケ（風貌では5～6歳に見える目の大きいかわいい少年）とが主役で，これに対して徳川家の指南役柳生但馬守と彼の率いる柳生忍群（白装束）および幕府隠密団の首領服部半蔵が挑戦する一連の忍術試合の物語である。ところが「猿飛」というのは術の名で，個人の名ではないという解釈で，まったく同じ容姿の猿飛が何人もいる。一人が死んでもまた同じ猿飛が現われる。これが敵に猿飛を不死身と思わせる。

猿飛の術とは，猿のように木から木へ身軽に飛びうつる体術で，そのほかさまざまな術が次々に出てくる。そのたびに物語は小休止して，その術の解説がはいる。例えばサスケが狼にとり囲まれ，木のうらへ逃げこんで「微塵がくれの術」を使う。爆薬を仕掛け，自分は穴を堀って爆風を避け，呼吸管を地上に出してひそむ。これを一瞬のうちにやる。爆発のあと何も残らない。敵が去ったあとではい出す。また服部半蔵はサスケに「焔しばりの術」で，口にふくんだ石油を吸きかけ焼き殺そうとする。後に一物も残らない。ところがサスケは「炎がくれの術」で逃れる。これは赤い布と石綿などで作った耐火性の強い布とをかぶって炎から身を守り，布が燃えつきないうちに土を掘って土中にひそむのである。「急激な温度の上昇はかえって熱をうばい，ほとんどあつさを感じないものである。」とある。

さて大阪夏の陣が終わったあと，服部半蔵はサスケの母を殺すが，サスケは狐の生皮をまとって半蔵に近づき，吹き矢で半蔵を殺す。このあとは，色々な事件にまきこまれる挿話がつづく。柳生但馬守とその子十兵衛（片目の忍者）の挑戦もつづく。

笛吹城に住む魔壁弾正は商人椿七兵衛がかくしているヒスイを奪おうとして強問し死にいたらしめる。娘のカ

スミが仇を討とうとするので用心棒に糸瓜狂之助をやとう。狂之助がカスミを斬ろうとするのをサスケ父子が救い，猿飛の「風車手裏剣」で狂之助を倒す。すぐ狂之助の弟，まつたく同じ風貌の斬死郎が現われる。

ヒスイはミドリ沼の底にかくされ，その水には人喰魚ピラニアが群棲している。斬死郎との戦で，猿飛はこの沼に落ちこむ。サスケとカスミは捕えられ刑場の棒にしばられ，猛牛をけしかけられる。この時謎の坊主があらわれ，怪力で猛牛と格闘してその首骨を折ってしまう。斬死郎と果たしあい，「直刀投げ」「回転投げ」「十字打ち」「忍剣矢車」などの秘術を見せる。この怪僧，顔の皮を剥ぐと猿飛である。沼の中で鳥頭（ウズ）の毒をまいて人喰魚を麻痺させ脱れたのだ。

さて猿飛の提案で，「龍神の術」を用いて沼の水を吸い上げ，ヒスイを採ることになる。沼が干上ってみな湖底に集まった時，日ごろこの領主にうらみを抱いていた百姓が仕掛を破壊し，弾正たちは人喰魚の餌食になってしまう。

あやうく脱れた斬死郎を，サスケは新しく工夫した手裏剣で倒す。

サスケはマボロシの谷へ行き，母の姿を見る。そして母に抱かれている自分を見る。これより「分身の術」を体得する。

他の猿飛（石猿佐助）の妻は，サスケの母と双生児で瓜２つ。その子４人は４つ子でサスケと同年配。５人そろうとどれがだれかわからないほど似ている。５人とも「４つ身の分身の術」ができるので，同時に20人に分身して，通りがかりの片目の猟師にからかう。猟師の弾が１人に当たり，猿飛はその猟師が土中にひそむのを刺す。

サスケとその伯母とをねらう銃口がある。伯母は懐中からヒキガエルを出して，賊に近付かせる。ヒキガエルが爆発して煙幕となり「逆歩行の術」で逃れる。捜しに出て来たのは死んだはずの片目の猟師。伯母と対決。伯母は「春花の術」で風上からしびれ薬をまき，倒すが，猟師の短銃に仕込んだ短刀で胸先を負傷する。また片目の猟師があらわれ，伯母の血の跡を追うが，「返り山彦の術」で四方八方に鈴の音をひびかせ猟師から逃れる。サスケが猟師と決闘し，ネズミに仕掛けた爆薬で倒す。

「歯車式六連発銃」を持った片目の猟師があらわれ，伯母の死体を埋めている山男をおどす。そこへ来たサスケを撃つが，山男が銃口に粘土を詰めておいたので，暴発して死ぬ。山男が顔を剥げば父の猿飛である。伯母を掘り出す。死体と見せ，「生き筒」（呼吸筒）で生きていた。

猿飛が大木を伐っている。これをねらって片目の猟師が大筒で撃とうとするが，木が倒れるはずみに猟師の乗っていた岩がくずれ，猟師は自滅する。

この片目の猟師は九鬼一族で，まったく同形の５人。猿飛に討たれた父炎海の仇を討ちに来て，つぎつぎに５人とも討たれたのだが，物語は前の男が生き返ったように思わせる仕組みになっている。九鬼一族はこれで滅びたが，なお鬼姫というのが残っていて，耳なし龍法師という怪僧ですら，「九鬼忍法闇笛の法」で殺される。これがなおも猿飛父子をねらう。……

（青林堂版，５巻まで）

6. 「サスケ」の特徴

(1) 物語の構成

上記のように「サスケ」は豊臣末期の猿飛忍者群の１人である大猿大助とその子サスケとを主役とする迫力のある絵物語である。物語は，忍者の説明をしたあと，大阪落城後の不穏な世相を描き，落武者として身をひそめながら，悪の跳梁に苦しめられている庶民の味方になって，正義のために悪のボスを倒すという話題がつぎつぎに展開する。この話題そのものは，慾の深い悪領主をこらしめるとか，営利誘かい団をせん滅するとかの講談ふうの事件構成であって，猿飛父子はこれに対して危機救援者の役割を演ずる普通の magic helper 型の物語である。だがその中にひんぴんとはさまれる果たし合いが奇想天外で，その趣向が興味を引く。つぎからつぎへと，たえず新しい忍法が紹介される。その１つ１つには，伏

線がかくされている。あとでなるほどとわかるのだが，その構想のち密さは非凡である。しばしば読者は意外の結果におどろかされる。この不思議→意外→成程の連続が，読者を引きずっていく。だから事件そのものは，この決闘の発生をみちびく誘因となるだけで，興味はむしろ次にはどんな忍法が明かされるかの期待にかかるのである。

(2) 主人公の忍者的性格

サスケの父は完ぺきな忍者的性格をそなえたものとして描かれている。

彼は自分の妻が殺されたときも，彼の人間的動揺を示さない。4つ子の1人が猟師に殺されたときも「その男に罪はない。からかったお前たちがわるい。」と泰然として言う。「よいか，術をもてあそんだ者はこうなる。わすれるな。」

事件にまきこれるごとに新しい強敵があらわれるが，戦前の徳川方の忍者群がしつこく父子の身辺をうかがっていて，一刻の油断もできない身の上で，隙があればすぐ手裏剣がどこかから飛んでくるのである。つねに殺気を身に感じ，見えぬ敵に身がまえている。何かしていれば，それは次の機会に敵を倒す工夫である。いざとなれば怪力と知恵とで，敢然と戦う。残酷なまでに徹底的に殺し尽し，無欲てんたん，非情なまでに忍法のみに生きるニヒリストである。

これに対してサスケは子どもっぽい人間味を持っている。虫の鳴く草原に1人で寝て，「ムニャムニャ母ちゃん……」と寝言を言ったり，「どこへ行ったんだよーっ父ちゃーん」とあとを追ったりする。まぼろしの谷へ死んだ母ちゃんに会いにもいく。自分を救ってくれた奇怪な老婆に「おばあちゃん好き！」と抱き付いてキスもする。自分をねらう鬼姫をおさえつけても，とどめを刺せないで放してやる。

その一方では自分の工夫した手裏剣で，「微塵」を使う糸瓜斬死郎を倒すほどの腕も見せる。したがって読者の子どもが自己を投映して痛快を味わうのはこの少年のほうになるのだろう。この作品が，この少年を出したことの意義はここにあるようである。

(3) 忍術の解説

この作品は次から次へとめずらしい忍術を紹介していることは前にも述べた。これは例えば「赤胴鈴之助」が「真空斬り」の法1つで終始するのと違って，読者にショウ的な興味をいだかせる。またさかんに猛獣を使い，その乱闘を見せるなど，ジャングルものの要素もとり入れてある。

その出し方がうまい。決闘が始まると，突如として新しい術が示され，読者に不思議の感をいだかせる。「信じられん，死んだ者が生きかえるなど」などと敵に言わせもする。そこでは「フフフフ微塵がくれの術さ。」などと説明するだけだが，この名称に1つの魅力がある。

あとになってから，物語の進行とは別に，その術の種明かしが，図解され，解説されるのである。これがまたおもしろい。虚実を織りまぜて，まことしやかに科学的な裏付けをしている。2つほど前に紹介しておいたが，合理化されれば成程とうなずかれるけれども，一瞬にわが身をかくすだけの穴を掘り，土をかぶせて中にひそむことができるかどうか。自分の体積に当たる土はどう始末するのか。つまり時間と空間とを超越した科学的空想であって，現実には不可能なこととわかる。ここで読者は人間の力の限界を知らされるのである。

(4) 生命観

この作品が教育の立場から問題になるとすれば，連続する決闘で，情容赦なく人や動物の生命が失われていくことであろう。しかしちゃんばらものは本来そういう仕組みなので，主人公の腕のよさを見せるためには，これをとり巻く木っ葉どもがばたばたと倒されていく見せ場を作らなければならないのである。始めのところに，手裏剣を振り上げた半兵衛の部下が猿飛の手裏剣にやられて「ウッ半秒おそかった……」と叫ぶコマがあるが，まことに半秒の差でどちらかが死ぬのがこの種の物語の見せどころなのである。このおもしろさをおいて，ちゃんばらものは成り立たない，とも言えよう。

だが最近は，ただ傷を負わせるとか，峰打ちで仮死に

おとしいれるとか，生命を絶ってしまわない工夫が，映画などでも用いられている。その程度にならなかったものだろうかという気もする。

察するに，作者の意図は，死をむしろ残酷に描くことによって，凄惨なムードを強調するにあったと思われる。それがこの作者の解する忍者の性格だからである。忍者は，自分が爆死したと見せかけるために，敵の死体に爆薬をしかけて爆破し，その一瞬に姿をくらます。手裏剣で殺しておいて，さらにそれを爆破するという残酷なことも，彼らの術なのである。この作品としては，ここまで徹しなければならなかったのであろう。

とは言え，子ども向きの物語でここまで徹するのはやはり行きすぎではないかと思われる。

(5) 図がら

絵は，デッサンがしっかりしていて，構図もよく，動きがあって，巧みである。

人物もそれぞれ特徴を持たせて描きわけられているので，見分けやすくて混同しないでよい。サスケは可愛いいし，その父はがっしりとした偉丈夫の風貌。悪役の醜怪な容姿も，ていねいにかきこんである。また動物の顔も表情があり，肢体もごまかさずにリアルに描いてある。

同じ容姿の人物を何人も登場させて，読者を錯覚させるテクニクもうまい。死んだはずの者がまた出て来たと思わせ，一時不思議がらせるのである。

速い動きを示すための飛跡（空気を切って飛んだ跡）がさかんに用いられている。例えば木の幹に手裏剣が数本並んで突き刺さり，おのおのに直線的な飛跡があり，それぞれに「カッ」と文字が添えてある。「カッ，カッカッ……」と矢継ばやに順に飛んで来た感じが出ている。このような急速な変化の表現はよく工夫されている。また風の飛跡が背景いっぱいに描かれて，不穏な感じを出すのに効果をあげている。

1つ問題なのは，やはり死体の描写である。胸や背に刀が刺さったままの死体，全身に数本の手裏剣が刺さった死体，爆死した忍者の手と足とがちぎれて散っている場面など，サスケの母ののどに手裏剣が立っている絵なども頂きかねる。やはり行きすぎである。

(6) 映画的手法

画面の映画的構成の手法は堂に入ったものである。遠景にいる人物を，次のコマでは中景に近づけ，次にはクローズアップして，無字幕でその人物の接近をあらわすなど，またカメラアングルをつぎつぎに変えたり，光線の当て方を変えて人物の顔をかくしたり，じつにうまい。

吹き出しのセリフが簡結で，説明を絵で直感させ，スピーディに物語を進行させる。不可解なところは，あとでコマの外で解説するという手法は，てきぱきしていて，すこしももたもたしない。それに，カットバックの手法もきいている。

なお群集や鳥獣の大群などのいわゆるモッブシーンの手さばきが巧みであることも賞められてよい。〔未完〕

参考文献

(1) 阪本一郎；児童漫画の世論調査の試み（読書科学，No. 10）昭34

(2) 阪本一郎，西尾宗人；漫画に対する児童の興味の一調査（読書科学，No. 10）昭34

(3) 阪本一郎；小学生の漫画の興味(読書科学，No. 12）昭34

(4) 阪本一郎；漫画「赤胴鈴之助」論（読書科学，No. 15，16）昭35

(5) 阪本一郎；少年漫画の一断層（読書科学，No. 18）昭36

効果的な読書意欲を高める試み*

大阪市立東中川小学校

上林長泰**

1. 図書館を充実して，本を読ませたい

私たちは子供たちの幸せのために，図書館を充実してよい本をたくさん読ませてやりたいと，努力して参りました。

2. 読書指導の必要

読書は究極には個人のものでありますが，どうしても計画的な読書指導の必要を痛感いたします。教師のとりこし苦労といわれるかも知れませんが，読めない子・読まない子を，放っておくわけには参りません。図書を揃え，子どもたちが進んで本を読むのを待っていては，充分な効果を期待することはできません。

3. 読書指導の体系化の必要—特設時間

私たちは，国語科の学習指導要領に則って，読書指導の体系化を考えております。読書は，継続的に行われて始めて，効果を上げることができるからであります。

私たちは，まず週1時間の読書指導の時間を特設いたしました。読書の時間が1時間だけでないのは申すまでもありません。

4. まず読書意欲をもり上げること

さて実際に読書指導をやってみて，誰でも痛感することは，本を読もうとしない子どもの多いことであります。読書指導は，子どもたちの読書意欲をもり上げていくことから始めなければならないことに気づきました。

5. 読書意欲を高める試み

(イ) バス図書館

私たちは，まず入門期の子どもたちのために，バス図書館を開設いたしました。

これは，図書館の補助施設として，1～2年生のために備えたものでありますが，子どもたちに非常によろこばれています。

市の交通局の古いバスをゆずり受け，車体を3色に塗りかえ，側面にハトの絵を描き，「こばと号」と，名づけております。運転台をとりのけて，書架を2本入れ，約500冊の本を備えております。

補助椅子を入れて，1学級収容することができます。子どもたちはその中で絵本が読めるので，大よろこびです。車内の広告板のところは，ブック・カバーを展示して，本の紹介にあてています。ただ絵本は表紙が見えるように列べるのがよいのですが，それができないのが欠点であります。

(ロ) 給食時の読み聞かせ

私たちは，給食時間を利用して，読書の興味を起こさせるようにしています。1年生ですと，お母さん方が配食する間，おもしろいお話をしてやったり，本を読んで聞かせています。子どもたちは，食後も続きを読んでやらないと承知いたしません。この際，話や，読みが何日にもわたって，コマ切れになっては興味がうすくなります。1年生のは，短かいお話ですので好都合です。

こうして，話してやったり，読んでやった本は，子どもたちが自分で読みたがります。

---

* An attempt to motivate reading effectively.

** KAMIBAYASHI, Nagayasu. (Higashi-Nakagawa Primary School, Osaka)

中学年以上では，先生と子どもたちが，交互に読んだり，子どもたちが交替で読むようにしています。

なお，食事が終ってからの方が，子どもたちはよく聞いてくれるという報告があります。もっともなことと思われます。

(ハ) 先生と子どもの読み合い

上の学年でも，読めない子や，読まない子は，こうした初歩的段階の取扱いから入って，根気づよく指導してやれば効果が上るように思われます。

2年生で，本に興味がなく，盗癖の子どもの指導の実例をご紹介いたします。

※I君の場合

- 3才の時実母と生別し，父はI君と同じ年のM子を連れた人と再婚。
- 4才位より，家のお金を持出すようになり，6才の時，妹が生まれ，5人家族となる。
- I君，M子同時に入学。入学当初，友達の家に遊びに行ってはうまくお金を盗み，食べ物を買ったり，映画に行っていた。家出も1年間に2回。
- IQは100。自分の名前が書ける程度のもので，学習意欲も全くなかった。
- 2年生になっても，盗みはなおらないので，父兄に協力をもとめ，友達の家庭での盗みの時はまず担任に連絡を取ってもらって，必ず担任が知っているように努力し，I君の行動に注意していた。

このようなI君を，何とか指導できないものかと考え，その方法を読書に求めてみました。

始めは本の絵だけみていましたが，本に親しむようにと思い，本を見ているとほめる方法を取りました。

或る日，I君に「テレビの何が好きか」ときくと，「鉄人28号」と答えたので，「今日はテレビの声を出さずに，絵だけ見てごらん」と言って帰えしました。翌日「先生，絵だけ見ても，おもしろないで」と言ったので「本だったらどうかな，絵だけ見るより字を読む方が面白くないか。一ぺん先生が読むから聞いててね」と言って読んで聞かすと，「やっぱり，その方が面白いよ。また読んでね」という反応があったので，その日の放課後から読んで聞かせることを続けました。

こうして，読み聞かせから，I君は，急に読書に興味をもち，自分から進んで読むようになり，2学期には，感想文までも書くようになりました。

I君の文（原文のまま）

10月5日　「ははをたずねて」

まいにち，おかあさんのところでくらしました。

あるひ，おかあさんが，おてつだいになりました。まいにち，てがみかきたりおかねを　おくたりしていました。おわり。

11月6日　「しかとぶどう」

一ぴきのしかが，かりゅとに，おいかけられていました。あちいこちらにげまわりました。

いよいよあぶなくなってきました。ずうといくとぶどうがありました。しかはぶどうばたけにかくでました。

かりゅどがむこうえいてしまいました。ところが，かりゅうどは，またかえってきました。しかはぶどうのはっぱをたべてしまいました。そのときかりゅどにみつかってしまいました。おわり

12月15日　「しょうこうし」

ぼくは　セドリックを　かわいそうとおもいます。だけどぼくたちには，できることだけやりたいとおもいます。

だけど　セドリックは，どいゅうきもちでしょう。

ぼくは，わかりません　どうしたら，セドリックのおかあさまが，かえってこないのでしょう。

セドリックのおかあさん，セドリックのところえかえってやってください。

こころからおいのりします　おわり

1月13日　「ロケットこざる」

こざるは，とんでからなんにちもかかりました。もしかすると，もうしんだかもしれません，はかせは，

ろけっとにれえだをおくりました。

ろけっとは，れえだをとりました。こざるは，はかせのれえだをきいて，らっかさんでおちて，ちきゅうにつきました。そしてめだるを，もらいました。おわり。

以上のように，文はよくまとまるようになり，同時に他の教科も面白味が出て，よく勉強するようになってきました。

※Ｉ君の読書歴

- かわいそうで，よかったのは　母をたずねて，小公子，野口英世
- よかった本　ベーブルース
- 面白かった本　人まね子ざる，ちびくろさんぼ，せむしの子馬，三人のけんし

ところで困った事に，Ｉ君が「母をたずねて」を何回も読んでいるうちに，「マルコがお母さんをさがしているとみつかったから，ぼくも明日から学校を休んでお母さんをさがしに行く」と，言ったことでした。

Ｉ君には，何よりも母親の愛情が必要なことがこのことからも痛感しました。

今では盗みもなくなり，本が面白く，長文の物語でも抵抗が少くなり，家に帰っても，学校から持ち帰えった本を，ある程度楽しみながら読むようになり，「先生，次にこの本貸してほしい」とせがむほどになりました。

㈢　感想文による読みの向上へ

こうして子どもたちが，読むようになっても，読みっ放しでは，また，もとに戻ることが多い。読みを深めるためにも，読書傾向を知る上からも，更にまた読書の興味を高める上からも，感想文を書かすことは，読書指導上重要なことと思います。

本校では，学年，能力に応じて，読書感想文を書かすようにしています。

５年生の例ですが，感想文をもとにした学級新聞を定期的に発行することによって，読書意欲を向上させた例をご紹介いたします。

※「読書の友」発行の動機

1. 学級集団の中の児童の日常生活を見つめていると，押しだまらせようとしても，とどめることが出来ないほど雑多なことが，絶えず友人間で話しあわれている。この話題の中へ少しでも読書に関することが入るならば，
2. 読書の友は，その話題の契機を作り出す資料となったり，話題の集録になったりして，学級の１人１人の心を結び，集団の力で読書意欲を高めることができたならば，
3. 学級のどの子の記録も何らかの形でのせることにより，掲載された文や話が，自分のものであるか，身近な友人のものであると，きっと気軽にとびついて読むことになる。そこで，文字や文章を見ただけで，いや気を起こしていた子も，自然と読むという作業を重ねる。そして文字，文章に対する抵抗感を少しでもとり去ることができたら，
4. テストばかりに追いかけられて，学習内容の骨組だけをただ記憶することが学習だと考えられている現状から，もっと血や肉のある学習内容を本や資料によって求めてくれたならば，

以上のような希望をもちながら，月２～３回，半紙１枚程度のプリントを発行していくことにした。

※　その内容と指導経過

(1)　読書発表記録

- 自分の読んだ本の名，あらすじ，感想などを，１こずつ紹介する。
- 発表の形式は，口頭発表及び文章発表
- 時は，図書返却日の後日，夏休み，冬休みなどの直後，話題の多い時など。

１学期には，自分の読んだ本の名さえ，明確に発表できなかった児童も，回を重ねるにしたがって，表現のしかたはまだ不十分ではあるが，自分なりに話の筋や感想を発表することができるようになってきた。ま

た他の児童も，興味深く聞くようになってきた。

⑵ 話題の中心となった作品

「だからわるい」「南の浜に集まれ」国語教材「池のある庭」「良作の元日」「ヴイーチャと学校友だち」「ふんどう屋のえんとつ」「坂道」「片耳の大鹿」

⑶ 読書生活の習慣化をはかるためにも，１人１冊はいつも手に持っているという体制をととのえる必要にせまられて学級文庫の充実をはかった。

日常の児童生活の間で，個人的な本の貸し借りが盛んに行なわれていたので，学級として，貸し借りを公然としたならば，個人的に消極的な子も本を堂々と貸してもらえるようになると考えた。そして学級図書係を中心として，貸出し技術は学校図書館に準じて行なうこととした。手もとの１冊から多くの読書への発展，読書生活の習慣化を念願したわけです。

※ 反省

１学期は学校の与えられた読書カードを如何に多く増大さすかに努力してきた。９月以後は，手さぐりのまま，無計画のままに，読書の友を発行してきた。はたして児童の読書意欲は盛り上ったであろうか。

日常の児童生活を観察していると，読書内容のクイズをしたり，問題を出しあったりしている風景をよく見かけることがある。また，成績のあまりよくない児童も図書館へ行くことを非常によろこぶようになってきた。特に作品の集団読みの時には，直観的な感想を述べ「この子にもこんなことを感じる能力があったのか。」「こんな意味の深いことばを知っていたのか。」と驚かされることがあって，教科の学習だけでは知り得なかった一面を知らされた。

しかし，児童が楽しんで読書しているからといって，放任しておいてよいとは思われない。１人１人に何をどう読ますか。読書指導の体系的な指導が要求されなければならない。この読書の友をふりかえってみて，感想の指導一つをとっても，児童の自由発表にまかせておいて，教師として何の指導もできていないことが目立つ。指導者自身が，あまりにも児童読物にうとく，児童とともに読書して学んでいかなければならない自分を発見したことである。〔読書の友掲載省略〕

6. 読書意欲向上の実態

⑴ かし出し状況

こうして，発達段階に即した色々な指導によって，子どもたちの読書意欲は急速に向上して，２学期の末頃には，金曜日の貸出し日には，約900人の貸し出しがあり，係りの児童がテンテコまいする位になりました。友だちの代本板までかりて，３冊もかりる子どももありました。

⑵ 内面化

子どもたちが，本を読むことによって内面的に，どれだけ深くなったかの一例をご紹介したいと思います。

※ Ｙさんを見つめて

Ｙさんは，ネコとオルガンの感想文を書き受賞してから読書意欲が急に高まってきた(１年生の９月)。

受賞したのが１年生のことだから，入学する以前から読書に対する下地があったようだ。

家庭は，父・母・本人・弟・お手伝さんの５人で，両親共教育に大変熱心である。幼稚園時代から月刊雑誌リボンと小学一年生を買い母親が読んで聞かせたりした。

ピアノ・バレー等の情操教育もこの項から行なっていた。現在は絵の勉強もしている。こういった情操教育を小さい時から受けさせることは，心豊かな感受性の強い子に育てるのに大きな役割を果たしているように思われる。

１年生に入学してから，最初に与えた単行本は「マッチ売りの少女」である。

○１年生の１学期に読んだ本

マッチ売りの少女　５つぶのえんどう豆　みにくい

あひるの子　一本足の兵隊　ネコとオルガン

○2学期・3学期の間に読んだ本

日本文学全集：ねずみの嫁入り他百話　世界文学全集：浮かれバイオリン他百話

○2年生1学期に読んだ本

とんち彦一　きつねとかねの音　うさぎの耳はなぜ長い　子ぐまのまんと　泣いた赤おに　まほうの王子　とししゆん

○2年生2学期に読んだ本

リンカーン　イエスキリスト　おしやかさま　エジソン　高村光太郎　小公子　シユバイツァー　ヘレンケラー　古事記物語　小さな眼　まあちゃんと子ねこ　お母さんの骨をもらって歩けた

○2年生3学期に読んだ本

二十四の瞳　次郎物語　野菊の墓　ファーブル昆虫記

では，読書感想文を書いてからどうして一段と読書に興味を増してきたのだろうか？

夏休みも終わって，1年生の2学期に入った時，母親が，こんなことを言った。

「先生，かわいそうな位，書き直しました。又，必要な所を読みかえさせました。」

私は，原文そのものの上手であったことは覚えているが，文の推こうを積み重ねて何回も何回もくり返した上で完成した感想文を読んで，びっくりした。文が洗練されていたからだ。もちろん，先生や親の手が加えられたことは充分認めねばならないが，書かねばならない境地に追い込まれて，読む・書く・直す・又読む・書く……こういった作業をくり返しているうちに，子どもなりに本を読むポイントをつかみとったようである。

又母親は，こんなことも言った。

「先生，感想文を選んでいただいたのは本当に嬉しく思いましたが，あの時は，子どもを見ていてかわいそうな気がしました。何回読んだり書いたりしたかわかりません。でも，あれ以来，本を読むのも，感想文を書くのも大変らくになりました。子どもも，自信を持つようになり，本が一層すきになりました。」

私は，ある時Yさんに，「本をよく読むようになってから，自分のどんなところが，かわってきたと思いますか。」と，たずねたことがあります。すると「まえは自分のことばかり考えていたのに，人のことを考えるようになりました。」という意味のことを言ったのである。

まだ2年生であるのに，自分がかわってきているのを，ちゃんと認めているのである。このように，子どもが成長していった大きな原因に，母親の熱意があげられねばならない。

2年の2学期に，Yさんは，「お母さんの骨をもらって歩けた」という感想文を書いた。どんな本かと思って，持ってこさせると，単行本になったまんがの本であった。

「このまんがを見て書いたの。」と，たずねると，「お母さんに，くわしく書いてある大人用の本を毎日少しずつ読んでもらいました。」という。私は，母親にくわしくたずねた。

すると，子どもがまんがの本をあまり熱心に読んでいるので自分もつられて読んだ。大変内容が良かったので，もっとくわしく子どもむきに書いた本をさがしたがないので，大人用の本を買い，毎日少しずつ，子どもを横において読んで聞かせたという。

ちょっとした機会を見事にとらえ，子どもを読書に引っぱっていく母親の熱心さに頭の下がる思いがする。

以上，3つの事例からも考えられるように，読書興味を誘発する手段としては，身近な所に，これほど効果的なものの多い事を痛感する次第です。ただ，これはほんの一例であって，これが最良とは決して考えていない事を最後に記して終りと致します。

中学校における読書指導の実践*

名古屋市立守山西中学校

水野　操**

1. 読書指導のねらい

読書指導のねらいは，読書による人間形成である。生徒の心情を豊かにし合理的なものの考え方を育てるのがその目標であるといえよう。

自らの努力と精進によってのみこのねらいは達成され，読書指導は自己教育としての読書活動を側面から援助する教育活動であろう。

2. 読書生活の実態

各学年1クラスを対象に読書・勉強・テレビに要した時間を中心に1週間の家庭生活をまとめてみると以下のようである。（5月調査）

(1) 読書する生徒の学年別比較

表1の読書の欄の示すように，読書する生徒の数は全体の20～30%ぐらいである。そのうち2年生が特に少い。1年2年は土・日曜に割合少なく，逆に3年は土・日をうまく利用している。

(2) 学年別，読書時刻とその所要時間

所要時間は大部分が30分～1時間で，時刻は1年が5時半～6時と8時半～9時，3年が5時～5時半と9時前後といくぶん時間的ずれがあるが，2年は集中性が少ない。

(3) 読書・勉強・テレビに要した時間の比率

1週間のうち1度でも読書した生徒は，1年30名，2年21名，3年39名。表1中の数字は総時間数を示し，1年では30名中各曜日に読書した生徒ののべ時間数である。高学年に行くにつれて，3部門中の読書の占める時間の割合が増加しているといえる。

整数比は生徒の時間帯を作成する時の誤差等の大きいことを考慮して簡単な比としたもの。

表1　週日の家庭における活動

	1年				2年				3年			
	読書		勉強	テレビ	読書		勉強	テレビ	読書		勉強	テレビ
日	10人	8.5時	20時	36時	9人	11.5時	18時	20時	12人	15.5時	21時	25時
月	21	9.5	23.5	28	6	4.5	12	12	8	5	12.5	10.5
火	12	9	20.5	21.5	7	6	14.5	15	6	5.5	9.5	5.5
水	14	11	25.5	23.5	11	11.5	17.5	20	10	6	8.5	11.5
木	15	7	20	24	8	7	19	15	10	11.5	21.5	17.5
金	16	10	28	27	6	5	15	7	8	7	11.5	7
土	9	8	16.5	22	5	5	10	9	10	8	12	13
全	46	63	158.5	172	43	50.5	106	98	39	58.5	96.5	90
整数比	1 : 2.5 : 3				1 : 2 : 2				2 : 3 : 3			

* Reading guidance applied to the real problems in middle school students.

** MIZUNO, Misao (Moriyama-Nishi Middle School, Nagoya.)

表2　不読者の家庭における活動

	1年				2年				3年			
	不読者	勉強	テレビ	整数比	不読者	勉強	テレビ	整数比	不読者	勉強	テレビ	整数比
日	35人	19.5時	58.5時	1：3	35人	24.5時	105時	1：4	27人	49時	61.5時	5：6
月	24	22	41.5	1：2	37	27	47.5	3：5	31	38	31.5	6：5
火	33	33.5	31.5	1：1	36	23.5	53	1：2	33	34	28	8：7
水	32	24	35.5	2：3	32	32.5	56	4：7	29	33.5	34.5	1：1
木	31	26	38	2：3	35	29	43	5：7	29	39.5	25	8：5
金	30	24.5	47.5	1：2	37	21.5	51.5	2：5	31	33	29	6：5
土	36	15.5	46	1：3	38	13	69.5	1：5	29	21.5	44	1：2
全	46	165	298.5	1：2	43	171	425.5	2：5	39	248.5	253.5	1：1

(4)　読書内容

1年　黒部ダム物語　次郎物語　少年徳川家康　路傍の石　坊ちゃん　チボー家のジャック　キューポラのある街　夢を掘りあてた人　野鳥の研究　星座　理科の実験　オートメーション物語　ジェーン・アダムス等

2年　赤毛のアン　シラサギ物語　アンネの日記　ギリシャ神話　キューポラのある街　路傍の石　次郎物語　山本有三名作集　若きウェルテルの悩み　若草物語　海底二万里　友情　スタンレーの伝記　こぐま星座　コタンの口笛　ターザン物語等

3年　愛の学級　ああ無情　愛のようせい　青い山脈　樋口一葉　チャップリン　ガンジー伝　君たちの天分を生かそう　星座見学　バレーボール　私の社会見学　天体観測　俺についてこい　死は暗室で待つ　青い山脈　嵐が丘　聖書　妹のマギー　さすらいの孤児ラスムス　哀愁日記　とべないつばさ　竜にのる少年　石川啄木名作集

(5)　読書しない生徒の勉強・テレビに要した時間の比率

1週間のうち全然読書しない生徒は，1年16名，2年22名，3年21名である。

1～2年はテレビに要する時間が多いが，3年はさすがに節度があるようだ。これより推して読書時間の少ないのは，自分の時間の多い土・日の両日により多くテレビを見てしまうからだと考えられる。

なお読書をはばむ条件をあげると，

a　塾・クラブ・勉強に追われ時間がない（47%）

b　手伝い・遊び・テレビのため使う時間が多いため（38.7%）

c　親がうるさい（7%）

d　字が読めない（6%）

e　読書がきらい（1.3%）＜1年生＞

以上のようである。

この実態等の上に立って，私達は読書計画を地についたものに育てなければならないのである。

3.　読書指導計画

(1)　読みもの利用の仕方

a　学習と結びついた調べ読み……単元別資料目録

b　教養を深める楽しみ読み……推せん図書

本校では生徒の読書生活の実態，読書能力の発達，読書過程等に基礎を求めながら，aについては各教科担任のもとで，bについては主に学級担任が指導にあたるが，指導の方法や場として国語科の占める位置は大きい。ついで道徳の時間での読書活動がとりあげられる。

(2)　課題図書による読書会

国語科としては集団読書用として複本10～50冊を備え，学期毎に教材の発展学習として下記の課題図書をもとに読書会を行い，文章を正しく理解し，自己を生活に適応させ，改善させる力を養う。（図書館係りは国語科

教師）

1年・芥川竜之介名作集　・エイブ・リンカーン　・黒部ダム物語　・ヴィーチャと学校友だち

2年・森鷗外名作集　・赤毛のアン　・原爆の子

3年・ロマン・ロラン名作集　・大宰治名作集　・君たちの天分を生かそう

学級担任は読書会に（授業後実施）参加して事後指導を主として行い，読書領域を拡大するよう留意し指導をする。（資料＝推せん図書・読書統計・個人帯出者カード）

(3) 読書異常児指導

a　読書遅滞児＝知能・読書力とも偏差値40以下――（3名）

b　読書不振児＝知能が読書力より高く，ひずみのあるもの――（5名）

c　読書偏向児＝読書力はあるが，かたよった読みをする――（4名）

d　読書不安定児＝まとまった読みをしない，つまみ読み――（2名）

e　読書早熟児＝背のび読みをする――（1名）

（ ）中の数字は1年F組の例

本校では上記の5類型にわけて（必ずしも同一生徒が1類型のみの障害とは考えない）知能テスト・読書力テスト・読書ノート・読書統計・図書館だより・帯出者（個人）カード・読書環境調査・性格観察などで発見につとめ，顕著な異常生徒は担任が個人指導をしている。（学級10～15名程度が対象になるようである。）

一般的にはa，bは個人指導を，c，d，eは集団指導を主としている。指導の要領はつぎのようである。

① 読書不振児

読書の習慣がなされていなく，読めないのでなく読まない生徒であるから，本校ではNHKの文学教材テープで耳からの読書を試みている。（学校放送等）まとめとして話の筋を記録させると同時に興味の誘発をねらっている。

② 読書偏向児

ファブル昆虫記，シートン動物記など動物の出て来る作品ばかり読む生徒。それなりに領域はあるが偏向した型である。女子の場合とくに文学にかたよっている。不安定児・早熟児の場合にもあてはまるが，集団読書により，思索読書や深い読みの習慣，技能を養う必要がある。時として強制的に課題読書をさせている。

この時期には友達同志の話し合いの中から，他の領域に興味を持ちかたよりを正す場合がある。グループで読書する機会をこの場合利用できる。

特に多読傾向にあり他の生活との均こうがとれてない生徒には同じような内容の本を読ませ比較させる習慣も必要と思う。筋の流れのみを読む誤楽的読書から深めるために，感想文等を書かせている。

③ 読書不安定児

情緒の安定がなく途中でやめてしまう生徒は案外に多い。読書に自信がない生徒（読書力が劣る）である。長編を区切って読ませたり，実力に応じた読書をさせるべきだ。芥川竜之介名作集を最後まで読ませたり，読む前にテレビや映画で見た作品を読ませると意欲的に読める場合が多いようだ。

④ 読書早熟児

不安定児の読書カードにずらりと書名が並んでいるように，この場合も高度な書名が並びやすい。やや虚栄的なにおいが感じられる場合がある。

読書逃避の型になりやすいので，集団読書の中で中学生らしい，生活の読みとれる本を与え，頭の中だけでなく行動と読書が統一される方向に指導したい。本校では高学年女子に目立つようである。量より質を心がけるべきだ。

4. 実践上の問題点

読書指導上の実際については，「いつ，誰が，何を，何のために，どう読ませるか」の問題がある。

① 「いつ」の問題では最たる壁は進路問題にあり，時間的余裕のなさに当惑させられる。現状は教科課程の消化と補習で追いやられている。読書活動と同様，ク

ラブ活動もその例にもれない。（夏休みの利用）

② 「誰が」この点でも各教科の場で，別して国語科の読解力・読書法・感想文・利用の基礎指導がなされねばならぬ。他教科でも，調べ読みの書目づくり，単元資料指導，課外読書について，道徳では，心情を高める立場での，物の見方を深めるための指導が，学活でも読書による生活指導，集団を対象とした読書指導，読書問題児の指導がなされる。クラブ指導では趣味的読書が促進される。

③ 「何を」図書選択上の問題がある。刻々と変転する出版界の中から如何にして適書を選ぶか，これには経費の問題がある。（複本購入が意にまかせない）ＳＬＡの必読図書群中より，課題・推せん図書を決定し，領域を広めた読書生活を促す。

④ 「何のために」読書の体系指導（発達段階に応じた価値ある作品）と読書による人間形成（生活指導）を柱とし，読書のための読書，批判のための批判に流れない。即ち読書と行動が統一された生活を目標とすべきである。

⑤ 「どう読ませるか」マスコミの時代は生徒を娯楽本位の読書に導きやすい。各メディアの機能を生かした上での読書人でありたい。生徒の将来の読書生活を培うように習慣化と技能を育てるようにしたい。そのためには教師がまずよき読書人でなくてはならぬ。つぎつぎと出版される文化財を読みこなす余裕が欲しい。資料の研究が満足になされないことを反省させられる。

現代っ子はそれほどに不読者ではない。指導がなされないと問題が残る。かたよりのある読書生活をなすことになるのである。健康な読書生活をするために我々は個にあった指導をきめ細かになすべきである。

このようにはらむ問題は教師の側に，生徒指導上の認識の深さが要求されよう。

5. 図書館係りとして

学級図書委員を使って，個人カードを調査し各種の調査・統計をなし担任へ，国語教師のもとで読書ノートを指導し担任へ，担任のかんさつ，指導を図書館へ，この間に問題点を教師や生徒と話し合うことが明日を約束する泉となる。

「図書館便り」で生徒の実態調査・教師の読書へのいざない・推せん図書の紹介・(ジャンルの紹介を含め)生徒感想文・家庭通信等を内容として発行しているが，教師・生徒及び父兄と図書館との接点として意義がある。

とくに問題児にかなった資料紹介は，読書興味の誘発にも強制読書にもたいせつである。これらの資料や図書館サービスをもとにして，集団思考の営みが今後ますます発展するようにしたい。

国語科での読書会，道徳でのねらいに合致した，読書会，学級会でなされる読書会，クラブ活動としての読書会等において，生活を高める措置がなされるが，会の持ちかたについて，資料の与えかたについては一そうの研究の余地がある。

読書指導上の問題児については上記の集団読書の中でかなりの矯正がなされたと思うが，むろん個人指導と集団指導が併用されてこそ目ざす読書指導が効率高く達成されることはいうまでもない。

不振児には童話・民話などから量をふやす指導を，不安定児には自信をつけさせるように対比的なもの（ノンフィクション……フィクション）や，短編，時には長編を，偏向児には領域を広げる指導の立場で対比的なもの（リアルな作品……幻想・空想的な作品）早熟児には類書の紹介（関連図書）を与えるなどにより指導したい。

要するに発達段階に応じた作品を与え人間形成に役立つ読書活動を勧めたい。

かくしてこそ読書と行動の統一もあり将来の自主読書も期待できよう。卒業後の自己教育の態度の素地を養うことにねらいをおいて，彼らの努力と精進を側面から援助を続けたいと思うのである。

資　料

子どもに読書の時間を与えよ

第９回の研究大会で，現在の子どもには，読書の時間が足りないということが問題になった。このことは，本学会が協力している東販出版科学研究所の読書世論調査の結果にもあらわれているので，その 1963 年報告書から，関係資料を摘記しておく。

被験者は東京都区内の小・中学校から無作為に抽出した各40校の児童生徒計 2,400 名である。調査の時期は昭和38年６～７月，回収率は84%であった。

1　読書の度合

表１は三つの選択肢の一つを選ばせた場合の学年別比率である。小・中学生とも「たまに読む」が最も多く，小学生の57%，中学生の74%となっている。次が「だいたい毎日読む」で，小学生の40%，中学生の24%を占めている。ぜんぜん「読まない」者は僅少である。だから「たまに」と「毎日」とを合わせると，小学生は97%，中学生は98%と，かなり高い読者率を示している。

表１　あなたは学校の勉強のほかに，どのくらい本や雑誌を読みますか。（%）

	読まない	たまに読む	だいたい毎日読む	不明
小 4	2	58	39	1
小 5	2	57	41	—
小 6	1	57	41	1
平均	**2**	**57**	**40**	**1**
中 1	—	71	27	2
中 2	1	74	24	1
中 3	3	76	20	1
平均	**1**	**74**	**24**	**1**

だが，別に，「ここ１カ月の間に読んだ本を……書いてください」（マンガをふくめて）という問で，１冊も書名をあげないものが，小学生に13%，中学生に20%ある。つまり雑誌を除外すると，小学生の読者率は87%，中学生は80%となる。

小学生では学年による差が認められないが，中学生では上学年になるにつれて「毎日」が減り，「たまに」が増している。

2　読書しない理由

表２は，読書の度合の高くない者に，なぜ読書をしないのか，その理由をチェックさせた結果でさる。

小学生でいちばん大きな理由になっているのは「勉強」で，28%を占めている。それと対照的に多いのは「遊びたい」の23%で，次が「テレビ」の17%。この三つが読書の主な対抗要素となっている。

表２　前の問で「読まない」「たまに読む」に○をつけた人は，なぜ本や雑誌を読まないのですか。（%）

	家の人が許さない	読書が嫌い	テレビが見たい	遊びたい	家の手伝がある	勉強が忙しい	不明
小 4	2	11	20	27	11	22	7
小 5	5	13	14	20	10	33	5
小 6	4	15	18	22	7	28	6
平均	**4**	**13**	**17**	**23**	**9**	**28**	**6**
中 1	4	16	15	8	12	39	6
中 2	2	19	20	13	15	25	6
中 3	1	19	16	16	9	32	7
平均	**2**	**18**	**17**	**12**	**12**	**32**	**7**

中学生でもトップはやはり「勉強」で，その率は小学生よりも高く32%となっている。ところが第２位は小学生の「遊び」にかわって，「読書が嫌い」の 18% である。次いで「テレビ」が来る。このように「読書が嫌い」と言い切る者が小学生から学年とともに増すこと，そしてその%がむかしより高いことに注意を要する。

性別にみると，「勉強」と「手伝」は女子のほうに多く，「遊び」と「読書嫌い」は男子のほうに多くなっている。

家庭の職業別にみると，「勉強」を理由にする者は管理職と自由業の子女に圧倒的に多く見られる。「手伝」は自営商・工業と工員・作業員の子女に多く，またこれらの職業には「読書嫌い」が多いようである。

3　勉強・テレビと読書

「あなたは家で毎日，何時間ぐらい勉強をしていますか。」という問に対する回答では，小学生は，「1時間台」のもの41%，「1時間以内」のもの39%で，2時間以下のものが全体の80%を占めている。中学生では，「1時間台」が34%，「2時間台」が29%と，1時間から3時間未満に63%が集中している。「1時間以内」は25%である。

1960年報告書によると，4時間以上も勉強する者は別として，勉強時間と読書時間とはおおむね並行的に増減し，勉強時間の長い子どもは読書にも長い時間を割いているという。したがって勉強と読書とは，時間の上では相殺し合わないのが実状であるらしい。

次に，テレビの視聴時間と勉強時間との関係を見ると，視聴時間が2時間以上に及ぶ子どもの勉強時間は，かなり短くなっている。

また，テレビと読書時間との関係を見ると，テレビを見ない子どもの読書時間はあきらかに長く，テレビを3時間以上見る子どもの読書時間はあきらかに短くなっている。

これによると，テレビは明らかに勉強と読書との時間に食いこむ傾向があることが知られる。

4　課外のおけいこごと

最近激増しているのは課外のおけいこごとである。親の教育熱心といえば聞こえがよいが，なかには教育投機もあるといわれている。

表3によると，勉強もふくめて何かを習っている子どもは，小学生の69%，中学生の48%である。学年が上になるにつれて，その率が下がるのは，余暇が少くなるのと，早期教育へのあきらめが生ずるのとに関係があるのではあるまいか。

表3　あなたは，学校のほかてなにか習っていますか。（%）

	習っている	習っていない	不　明
小　4	72	25	3
小　5	69	29	2
小　6	65	31	4
平　均	**69**	**28**	**3**
中　1	57	36	7
中　2	43	50	7
中　3	42	50	8
平　均	**48**	**45**	**7**

表4　習っている人は，なにを習っていますか(%)

	勉強	絵画	習字	ソロバン	音楽	舞踊	その他	不明
小　4	18	5	24	19	24	4	5	2
小　5	26	2	17	24	18	4	9	2
小　6	33	2	14	25	12	3	7	5
平　均	**25**	**3**	**19**	**23**	**18**	**4**	**7**	**3**
中　1	41	—	8	21	14	2	6	10
中　2	39	1	7	17	13	2	9	13
中　3	49	1	10	7	9	2	8	14
平　均	**43**	**1**	**8**	**15**	**12**	**2**	**8**	**12**

表4は何を習っているかを示す。小学生では「勉強」がトップで25%，次が「ソロバン」の23%，「習字」の19%，「音楽」（ピアノ，バイオリンなど）の18%の順になっている。これに対して中学生では「勉強」が非常に多くなって43%にのぼり，ことに中学3年では49%となっているのは，受験準備と関係があるように思われる。ほかのものはみな減少している。

性別に見ると，おけいこごとは女子のほうが多く，小学生では73%，中学生では56%と，男子を10〜15%がた上回っている。「音楽」「習字」「舞踊」（日本舞踊・バレーなど）などは女子に多く，「勉強」は男子に多

い。「ソロバン」は小学生では男子，中学生では女子に多いのが特徴である。

保護者の職業別に見ると，おけいこごとのもっとも多いのは自由業の子女で，75%にのぼり，以下，管理職61%，自営商・工業60%，事務員・販売員58%，工員・作業員41%の順になっている。各職業でもっとも多いおけいこごとを挙げると，自由業は「音楽」，管理職，自営商・工業，事務員・販売員では「勉強」，工員・作業員では「ソロバン」となっている。「習字」は各職業を通じて15%前後で大きな開きはない。

5　読書とテレビの関係

以下は大阪市立松虫中学校中島章一氏が大会に提出された資料の一部である。1964年12月，同校での調査結果で，グラフ化されているのを，ここでは数表に復した。

(1) 読書とテレビを見るのと，どちらに興味を感じますか。(%)

	1年	2年	3年	全体
読書に	8	8	11	9
テレビに	52	46	39	46
両方に	40	44	49	44
感じない	0	2	1	1

(2) 「テレビは読書のじゃまになる」と世間ではよく言われますが，あなたはどう考えていますか。

	1年	2年	3年	全体
じゃまになる	12	17	9	13
じゃまにならない	41	37	51	43
どちらとも言えぬ	47	46	40	44

(3) おとなの人たちは「昔はもっとよく本を読んだ。今の子どもはあまり本を読まなくなった」とよく言いますが，そのことについてあなたは，どう思いますか。

	1年	2年	3年	全体
考える	40	50	43	44
気にしない	60	50	57	56

(4) 読書をしないで，テレビを見るだけで，十分知識がえられると思いますか。

	全体		1年		2年		3年
思っている	15	=	5	+	4	+	6
思わない	85	=	25	+	26	+	24

(5) もしテレビが今とちがって，もっと十分な知識が与えられるような番組に変わったとしたら，読書の必要はないと思いますか。

	全体		1年		2年		3年
必要がある	84	=	29	+	28	+	27
必要はない	16	=	4	+	6	+	6

(6) 読書は必要だけれど読書のできない人の理由は何ですか。

	1年	2年	3年	全体
読書は時間がかかるのでいやになってしまう	32	37	45	40
テレビを見るので読書の時間がない	13	17	10	14
学校の予習復習で読書の時間がない	7	4	7	6
習いごとが多いので読書の時間がない	3	5	3	4
読みたいと興味を感じる本がない	35	35	24	27
その他	10	2	11	9

(7) 読書をすすめる内容の番組をテレビで見たことがありますか。

	1年	2年	3年	全体
見たことがある	68	71	64	68
見たことがない	36	29	36	32

(8) テレビを見ることによって，読書への興味を持ったことがありますか。

「持ったことがある」が約80%，「持ったことがない」が約20%。どの学年もほぼ同じ。

(9) テレビで知って初めてその物語又はそれに関係する本を読んだことがありますか。

「読んだことがある」が71%，「読んだことがな

い」が29%。

読もうという気持になった原因はなんですか。

「もっとくわしく」が57%，「原作が読みたく」が15%，「すじがきが早く」が15%，「その他」が9%。

その結果はどうですか。

	1年	2年	3年	全体
大変おもしろかった	78	73	68	73
かわらない	16	10	19	15
テレビの方がよくわかった	6	17	13	12

(10) 家又は学校でテレビから知った物語やそれに関係する本を読みなさいと，すすめられたことがありますか。

	1年	2年	3年	全体
ある	77	86	59	74
ない	23	14	41	26

(11) テレビで知って読んだ本に，どんな種類のものがありますか。

	1年	2年	3年	全体
偉人伝	20	18	14	18
冒険小説	24	14	15	18
探偵推理小説	18	14	15	15
名作もの	28	36	39	34
科学的なもの	5	10	10	9
学習関係	3	3	4	3
その他	2	5	3	3

(12) テレビは家庭の茶の間からはなすことができなくなりました。そこで読書をすることと，テレビを見ることを，どのようにやっていけば一番いいと思いますか

	1年	2年	3年	全体
その時々の思いのままにするのがよい	24	10	26	20
計画的に自分の意志でどちらかを選べばよい	67	75	64	68
なるべくテレビを見ず読書をするのがよい	6	12	8	9
読書は考えずテレビを見るのがよい	2	3	1	2
その他	1	0	1	1

会　報

研究費補助の申請締切11月末日

本年度の研究費補助の申請の締切は11月末日ですから，希望者は下記の内規により期日までに書類を出してください。

研究費補助に関する内規(抄)

1　本会は会員（個人，共同及び支部）の研究費又はその一部を補助することがある。

2　研究費の補助を希望する会員は，次の事項を記した研究費補助願を提出する。

(1) 申請者氏名，住所，職業

(2) 協力研究者氏名，職業

(3) 研究主題及びその説明

(4) 研究計画の概要

(5) 予算及びその説明

4　……常任理事会において採否及び補助額が決定される。

5　研究費の補助を受けた会員は，約束の期限までにその研究を終了し，その成果を会長に報告する。

常任理事会（6月21日）

1　本年度研究大会

第9回研究大会の日程等について決定。

2　読書療法講習会

8月9日の読書療法講習会の細目を決定。

常任理事会（7月27日）

1　公開研究会

7月9日午後4時から Dr. Harris の講演会を東京教育大学で開いた。演題は「読書不振児の診断と治療」。

要旨は本誌に掲載の予定。

2　Harris 夫妻のリセプション

Dr. Harris はアメリカの国際読書学会の代表としての資格で来日したので，夫妻を椿山荘に招待して交歓し，記念品を贈った。

3　総会の議題

第10回総会の議題を決した。

日本読書学会第9回研究大会（8月8・9日）

後援　文部省・東京都教育委員会・全国学校図書館協議会・日本図書館協会

会場　私学会館

第1日　午　前　　司会　岡本奎六・村石昭三

都心における家庭読書のすすめかた

名古屋市　新明小学校　杉浦　成正

幼児の絵本にたいする反応の研究（その4）

東京都田園調布小学校　岡田　明

最近の児童漫画と子ども　日本女子大学　阪本　一郎

読書の場について　信州大学　清水　正男

啄木の性格と読書法について

国立国会図書館　彌吉　光長

第1日　午　後　　司会　清水正男・花田哲幸

読書指導の実験的研究――シートを利用して

大阪市教育研究所　合田　修

集団読書指導の実践的考察

大阪市野田小学校　寺本　俊美

読書興味を誘発する読書指導の試み

大阪市東中川小学校　上林　長泰

治療読書の試み――読書偏向児の指導――

名古屋市守山西中学校　水野　操

読書科学研究 1964　野間教育研究所　阪本　敬彦

中学生の読書と生活環境の関連についての考察

大阪市松虫中学校　中島　章一

第2日　午　前　　司会　彌吉光長・深川恒喜

矯正施設における読書指導

法務省中央矯正研修所　加藤　正明

読書による態度の形成　立教大学　山本　晴雄

中学生における学習教材の利用状況

成城大学　岡本　奎六

文学教材としての新美南吉の作品論

東京教育大学　滑川　道夫

読書療法講習会（8月9日）

司会　山本晴雄・阪本敬彦

1. 読書療法の原理　日本女子大学　阪本　一郎
2. 読書療法の実際　玉川大学　室伏　武
3. 心理療法の諸型　東京少年鑑別所　高橋　雅春
4. 討　論

理事会（8月8日）

1　昭和39年度決算の承認

2　昭和40年度予算案の承認

3　総会に提出する議題の決定

第10回総会（8月8日）

1　会務報告

2　昭和39年度決算報告（別掲参照）　村石理事

同監査報告　花田監事

3　議　事

a　会則の変更――会則の第2条「本会の事務所は当分の間東京教育大学教育学研究室内に置く」の傍線の部分を「日本女子大学児童学科研究室内」と改めることに決定

b　教育課程に読書指導を位置づけることの研究と運動（深川理事提案）――文部省の教育課程改正にまにあうように働きかけることに決定

c　国際読書学会の世界会議に協力の件――明年8月パリで開催される世界会議に参加することに決定

d　研究助成の件――11月末日までの申請者について選考することに決定

e　機関誌の発行所の変更の件――従来発行所を「牧書店」としていたが，No. 32より「日本読書学会」と改めることに決定。

f　昭和40年度予算――別掲のように決定。

懇親会（8月8日）

会場――私学会館

昭和39年度決算

収入の部	1,130,599
前年度くりこし金	42,809
会　費	247,200
賛助会費	665,000
文部省買上金	100,000
売上金	25,588
広告料	23,500
第8回大会参会費	24,300
利　子	2,202
支出の部	1,130,599
機関誌出版配布費	588,980
第8回研究大会費	146,566
部会研究費	30,000
人件費・謝金	198,300
本部運営費	38,267
消耗・印刷費	27,965
通信費	24,990
次年度へくりこし	75,531
差　引	0

昭和40年度予算

収入の部	992,531
前年度くりこし金	75,531
会　費	250.000
賛助会費	600,000
売上金	25,000
広告料	20,000
第九回大会参会費	20,000
利　子	2,000
支出の部	992,531
機関誌出版配布費	630,000
第九回研究大会費	100,000
部会研究費	50,000
人件費・謝金	150,000
本部運営費	20,000
消耗・印刷費	20,000
通信費	20,000
雑　費	2,531
差　引	0

日本読書学会(阪本一郎)編

読み物による性格形成 全2巻

読書療法の原理に基づいた性格形成のための適書目録

上巻 小一～小四 ¥480
下巻 小五～中三 ¥580

教育基本語彙	阪本一郎著	¥1,500
児童文学概論	福田清人他	¥1,300
芸術とことば	熊谷　孝著	¥980
国語国字教室	黒滝チカラ	¥980
児童文学入門	坪田譲治編	¥730
児童文学と文学教育	鳥越　信著	¥430
児童文学と読書指導	滑川道夫著	¥430
児童文学の思想	古田足日著	¥430
現代の言語心理学	波多野完治 沢田慶輔	¥1,500

巽　聖歌　滑川道夫　責任編集

定本新美南吉全集 全8巻

菊判　上製　箱入

1 童話集 I	¥780	5 小説集	¥780
2 童話集 II	¥780	6 詩　集	¥780
3 童話集 III	¥780	7 日　記 I	¥780
4 物語集	¥850	8 日　記 II	¥780

■内容見本呈■

東京新宿揚場町 牧書店 振替東京196483

Vol. 9, No. 2 September, 1965

昭和四十年九月二十五日発行（年四回発行）

THE SCIENCE OF READING

Edited by The Japanese Society for the Science of Reading
President : Sakamoto, Ichiro
o/c Department of Child Study, Japan Women's University, Japan.

CONTENTS

Original Articles

The character of Takuboku Ishikawa and effects of his reading
YAYOSHI, Mitsunaga 1

On the influence of living environment on middle school student's reading activities
NAKAJIMA, Syoichi 9

An experimental study of reading guidance with program sheets
GOHDA, Osamu 19

A research on an infant's responces to the picture books
OKADA, Akira 28

A short history of reading guidance in prison
KATO, Masaaki 33

How children are reading recent comics? (I)
SAKAMOTO, Ichiro 40

An attempt to motivate reading effectively
KAMIBAYASHI, Nagayasu 48

Reading guidance applied to the real problems in middle school students
MIZUNO, Misao 53

Materials

Give children time to read 57

Official Notes 60

第9巻 第2号
<通巻 第32号>
昭和40年 9 月20日 印刷
昭和40年 9 月25日 発行

会員頒布（頒価 300円）

東京都文京区高田豊川町18
日本女子大学家政学部阪本研究室内
振替東京3213番

編集・発行者 日本読書学会
代表 阪本一郎

発行所 日本読書学会

印刷・第一印刷株式会社